

平成27年度
東北農業研究センター一年報

Annual Report
of
Tohoku Agricultural Research Center, NARO
2015

平成28年10月



国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構

東北農業研究センター

(岩手県盛岡市下厨川)

* 農研機構は、国立研究開発法人農業・食品産業技術
総合研究機構のコミュニケーションネーム（通称）
です。

* 本誌から転載・複製する場合は、当センターの許可
を得てください。

平成27年度 東北農業研究センター年報

目 次

I 総 説	1
1. 沿革	1
2. 機構	2
3. 平成 27 年度における東北農業研究センターの主要な取り組み	3
1) 研究業務の推進	3
2) 地域・行政との研究連携・協力	3
3) 産学官連携のための活動	3
4) 研究成果の広報・普及	4
5) 所内における研究活性化等	4
6) 所内におけるコンプライアンス実践についての取り組み	5
4. 研究業務の概要	5
II 研究情報活動	13
1. 研究成果の発表（原著論文・学会発表等・著書等）	13
2. 特許・品種登録等	70
1) 特許・実用新案の出願及び登録	70
2) 種苗法による品種登録	71
3. 育成品種、遺伝資源の受入・移管・増殖・保存数	72
1) 育成品種（平成 27 年度出願）	72
2) 育成品種一覧（平成 28 年 3 月現在）	73
3) 作物遺伝資源・作物品種の受入・移管・増殖・配布・保存数	82
4. 広報活動	84
1) 所刊行物	84
2) 視察者、見学者の受入（一般公開は除く）	85
3) 催事（一般公開・イベント・体験学習等）及び協力	85
4) シンポジウム・セミナー（主催又は共催）	88
5. 図書資料収集・文献提供等	91
III 連携・研修・技術協力	93
1. 産学官の連携・協力	93

1) 産学官連携支援活動	93
2) 行政との連携・協力	94
3) 大学との連携・協力	94
4) 共同研究・協定研究等の実施状況	94
5) 依頼分析等の実施状況	95
6) 開放型研究施設の利用状況	96
2. 研究者の受入れ等	97
1) 交流	97
2) 留学	97
3) 研修・講習等	97
4) 外部研究者	98
5) その他	99
3. 研究者の派遣等	99
1) 交流	99
2) 留学	99
3) その他	99
4. 技術協力・指導	100
1) 研修会等への講師派遣	100
2) 海外出張	104
3) 講習会等の開催	104
5. 国際会議・研究集会（参加）	105
IV 諸会議一覧	107
V 表彰・学会賞等	113
VI 各種委員会	115
VII 平成 27 年半旬別気象表（平成 27 年 1 月～ 12 月）	119
VIII 東北農業研究センターの所在地等	127

I 総 説

I 総説

1. 沿革

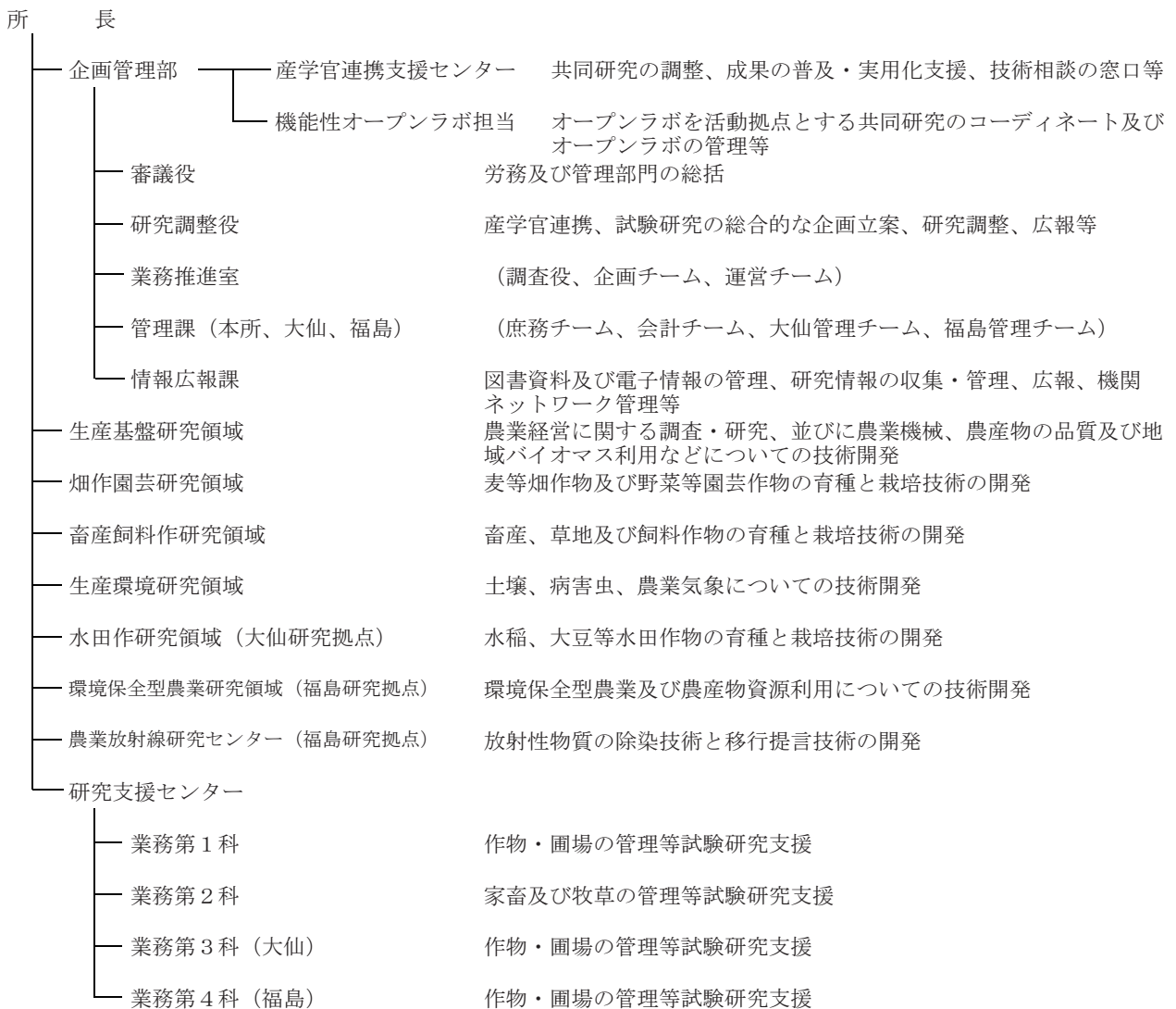
- 昭和25年(1950年) 4月 東北農業試験場が岩手県盛岡市下厨川字赤平の岩手種畜牧場厨川分厩跡(旧岩手種馬所、明治40年(1907年)創設)に設立。(これは、当時全国的に実施された農業関係試験研究機関の整備総合計画の一環として、3支場・1支所・3試験地(農事試験場東北支場、同三本木原営農支場、園芸試験場東北支場、開拓研究所、農事試験場東北支場刈和野試験地、同東北支場盛岡試験地、同三本木原営農支場厨川試験地)を統合して、栽培第一部、栽培第二部、刈和野試験地、園芸部、畜産部、農業経営部、土地利用部の組織からなる国立の地域農業試験場の一つとして発足したものである。)
- 昭和38年(1963年) 4月 農業技術部を新設(6研究室)。
- 昭和42年(1967年) 6月 環境部(5研究室)を新設。
- 昭和46年(1971年) 4月 草地部を新設(2研究室)。
- 昭和53年(1983年)12月 蚕糸試験場東北支所を編入し、畑地利用部(5研究室)を新設。
- 昭和60年(1985年) 4月 企画連絡室にヤマセ対策官を新設。
- 昭和63年(1988年)10月 地域農業試験場の組織再編が行われ、東北農業試験場の研究体制は、企画連絡室(企画科、連絡科、1研究技術情報官、情報資料課、3総合研究チーム、3業務科)、地域基盤研究部(6研究室)、農村計画部(7研究室)、生産工学部(3研究室)、作物開発部(6研究室)、水田利用部(6研究室、1科)、畑地利用部(5研究室)、畜産部(4研究室)、草地部(4研究室)となる。
- 平成3年(1991年)10月 生産工学部を廃止し、企画連絡室に研究技術情報科を新設。
- 平成5年(1993年)10月 農業生物資源研究所遺伝資源第二部植物栄養体保存研究チームを統合し、作物開発部に遺伝資源利用研究室を新設。
- 平成8年(1996年)10月 農村計画部を改組し、総合研究部を新設。
作物開発部遺伝資源利用研究室を改組し、畑地利用部畑作物栽培生理研究室を新設。
- 平成13年(2001年) 4月 農業技術研究を担っていた12の国立研究機関(農業研究センター、果樹試験場、野菜茶業試験場、家畜衛生試験場、畜産試験場、草地試験場、北海道農業試験場、東北農業試験場、北陸農業試験場、中国農業試験場、四国農業試験場、九州農業試験場)を統合・再編した「独立行政法人農業技術研究機構」が設立。
同機構内に、東北農業試験場と野菜・茶業試験場(盛岡)の業務を継承する機関として東北農業研究センターが設立。これに伴い、畜産部と草地部の統合、野菜花き部の新設、連携研究チームの新設、企画調整部及び作物機能開発部を設置。
- 平成15年(2003年)10月 独立行政法人農業技術研究機構は、特別認可法人生物系特定産業技術研究推進機構と統合し、独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構となる。
- 平成18年(2006年) 4月 独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構は、独立行政法人農業工学研究所、独立行政法人食品総合研究所及び独立行政法人農業者大学校(平成23年度末に終了)と統合し、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構となる。研究組織は、研究部・研究室制からチーム制へ移行。
東北農業研究センターの組織は、企画管理部、研究管理監、14のチーム、8のサブチーム、4名の特命チーム員及び研究支援センターで構成。
- 平成19年(2007年) 4月 研究調整役を長とする産学官連携支援センターを設置。
- 平成20年(2008年) 4月 病害抵抗性研究東北サブチームを大仙研究拠点に設置。サブチームの数が9となる。
- 平成23年(2011年) 4月 研究組織は、チーム制からプログラム・プロジェクト制へ移行。企画管理部、6の研究領域及び研究支援センターからなる。
- 平成24年(2012年) 4月 福島研究拠点に農業放射線研究センターを新設。

平成27年(2015年) 4月 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構は、独立行政法人制度の見直しにより、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構となる。

平成28年(2016年) 4月 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構は、国立研究開発法人農業生物資源研究所、国立研究開発法人農業環境技術研究所および独立行政法人種苗管理センターと統合し、一つの国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構となる。

これに伴い東北農業研究センターの組織も改変される。リスク管理室および放射線対策連携調整役が新設、企画管理部は企画部および総務部、研究支援センターは技術支援センターに改変され、5つの研究領域（生産基盤、畑作園芸、畜産飼料、生産環境、水田作）および農業放射線研究センターからなる研究体制となる。

2. 機 構



3. 平成 27 年度における東北農業研究センターの主要な取り組み

1) 研究業務の推進

平成 27 年度は、第 3 期中期目標期間の最終年度として、中期計画に沿った研究を推進しつつ 5 年間のとりまとめを行った。具体的には、後述の研究業務の概要に示した内容で実施し、研究成果情報 20 課題（うち普及成果 8 課題）のほか、多くの論文、品種、特許等の研究成果を得た。

外部資金研究課題としては、「食料生産地域再生のための先端技術展開事業(7 コンソーシアム)」及び「攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業(2 コンソーシアム)」において多くの課題に取り組み、特に前者では中心的な役割を果たした。農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業(農食事業)は 13 課題、農水委託プロジェクトは 11 プロジェクト 42 課題について研究を行った。科研費は 22 課題を実施した。

平成 26 年度に開催された「東北地域における予防的イノシシ・ニホンジカ被害対策に向けた研究会」及び「東北地域における鳥獣害問題対応課題立案に向けた研究会」での協議結果を踏まえ、平成 28 年 2 月に「平成 27 年度東北地域野生鳥獣対策連絡協議会」を開催した。

東日本大震災に対応した研究課題については、農業放射線研究センターを中心に、中課題「高濃度汚染土壌等の汚染技術の開発と農地土壌からの放射性物質の流出実態の解明」及び「農作物等における放射性物質の移行動態の解明と移行制御技術の開発」を行った。

2) 地域・行政との研究連携・協力

東北農政局主催の「東北地域研究・普及連絡会議」(27 年 11 月、仙台合同庁舎)では、国の施策で対応すべき技術的課題候補、農業新技術 2016 候補の選定及び候補成果の普及可能性についての検討を行ったほか、農業新技術 2011 及び 2014 の追跡調査結果に基づいて、普及事例の紹介(各県)及び普及課題の克服のための意見交換を行った。また、国の研究機関と普及組織の連携についても各県から取組状況及び普及連携にあたっての課題

が報告され、国の研究体制への要望を含めた今後の連携のあり方について協議された。

東北農業試験研究推進会議における推進部会は、稲、畑作物、農業生産基盤、生産環境、畜産飼料作、野菜花き、果樹の 7 部会に分かれ、夏期研究会(26 年 7 ~ 10 月)、推進部会(26 年 1 ~ 2 月)等を実施した。推進会議「研究戦略会議」(26 年 10 月)では、戦略目標として「新たな農林水産研究基本計画の下での地域農業研究の推進方向」を掲げ、部会毎に特に重要な現場段階での技術的課題の提案を受けるとともに、共同研究課題化の可能性課題化に向けたコーディネート及び現地実証研究への対応などについて協議した。次に、地域農業研究センターにおけるハブ機能の強化対策、特にアドバイザーボードの設置とそのあり方について活発な議論がなされた。また、国の施策で対応すべき技術的課題候補、農業新技術 2016 候補の検討も行った。推進会議「本会議」(27 年 2 月)では、重点検討事項として「農業の国際化に対応した地域農業研究の推進」について、各県及び農研機構の取組についての報告及び今後の推進方向の検討を行った。

3) 産学官連携のための活動

平成 27 年度に実施した産学官連携活動として、出前技術指導が水田作、畑作関連を中心に 27 回実施された。産学官連携によるプロジェクト研究が立案と競争的資金への応募を目指したテーブルリサーチが 2 回開催された。いわて産学連携推進協議会の主催するリエゾン-I マッチングフェア 2015 に出展し、最近育成された 2 品種(「豊雪姫」、「シュウリュウ」)、1 技術(転炉スラグを用いた土壌 pH 矯正による土壌病害被害軽減技術)を紹介した。また、東北地域農林水産・食品ハイテク研究会の中で、農林水産省等の競争的資金を活用した産学官連携共同研究の課題化推進を目的とした産学官連携共同研究検討会議が 2 回開催され、積極的な参加を促した。

他機関との研究連携として、27 年度は、継続を含めて共同研究 36 件、協定研究を 52 件実施した。大学との連携については、岩手大学との間で「連携大学院協定」(18 年 4 月)を締結しており、27 年度は、当所職員 14 名が客員教授として専門

的立場から学生に指導助言を行った。一方、研究者等の受け入れとしての国内留学、流動研究員及び依頼研究員はなかったが、技術講習生として 24 名の大学生及び公設試の研究員を受け入れた。

4) 研究成果の広報・普及

「平成 27 年度東北地域マッチングフォーラム」(11 月、山形市)は、「野菜導入が新たな水田作経営を創るー水田輪作で収益向上をめざすためにー」をテーマに、生産者、農業団体、各県の行政・普及・研究機関などから 206 名の参加者を集めて開催した。第 58 回東北農業試験研究発表会(7 月、山形市)では、東北地域内の農業関係試験研究機関から 86 課題の研究発表が行われ、研究・普及関係等 183 名が参加した。

一般公開については、本所(盛岡)で例年 5 月に開催される菜の花公開は、生育が著しく不良となったため開催を中止したが、本所(盛岡)の公開デー(9 月)、大仙研究拠点の一般公開(8 月)及び福島研究拠点の一般公開(9 月)を開催し、当所の研究成果を積極的にアピールした。また、日本学術振興会の研究成果の社会還元・普及事業「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室～KAKENHI」において、「アクアポリンって何?～植物が体をみずみずしく保つしくみについて調べてみよう～」をテーマとして 9 月に岩手県内から 20 名の高校生の参加を得て実施した。その他、小学 5 年生を対象とした「田んぼの科学教室」(7 月、大仙研究拠点)の開催や小中学生の自然観察や体験学習、大学生の施設見学などを積極的に受け入れ、科学技術離れ対策に協力した。

外部への広報活動としては、パティスリー&ブーランジェリージャパン 2015(6 月、東京)、岩手県全国農業機械実演展示会(8 月、岩手)、医福食農セミナー(9 月、岩手)、第 1, 2 回品種マッチングミーティング(10・12 月、東京)、大仙市秋の稔りフェア(10 月、大仙市)、第 138 回秋田県種苗交換会(10・11 月)、アグリビジネス創出フェア 2015(11 月、東京)、リエゾンー I マッチングフェア 2015(11 月、岩手)、食のブランドニッポンフェア 2015(11 月及び 12 月、東京)、復興・地域応援!ふくしま応援フェア&トークライブ(12 月、福島)等への出展・協力を行った。

報道機関に対して、9 月に「土壌伝染性フザリウム病の被害軽減技術に関する研究成果集」、10 月に「小麦の製粉性に関わる遺伝子を多数発見ー遺伝情報を用いた育種による品種開発の効率化に期待ー」、11 月に「「おすそわけ袋」の活用方法等をマニュアルとして公表ー贈答用果物の顧客拡大プロセスに基づく新たな販売戦略ー」、12 月に「ホウレンソウは寒締め栽培で食味が向上し抗酸化能が高まる」、平成 28 年 1 月に「寒冷地向きナタネ新品種「きらきら銀河」」の発表を行った。

また、当所が開発した新技術について、現地での技術指導等を通じて広範な普及を図る「出前技術指導制度」を推進した。27 年度は、「田畑輪換による地力の変化とその維持改善方法」、「大豆粒密植栽培技術の導入」、「湛水直播・移植における最近の難雑草防除法」に関する技術指導など、水田作・畑作を中心に 27 件の現地技術指導、実演、技術相談、講演会などを実施した。

5) 所内における研究活性化等

本年度は、特に競争的資金獲得の可能性のある研究や国際連携に資する研究・交流への支援に重点を置くことを研究活動強化計画の実施方針とし、同実施方針に基づき、「競争的資金応募のための課題遂行」及び「国際研究集会参加に係る経費」等の合計 14 課題について予算配分を行った。また、「査読論文投稿促進費」として計 25 報の英語論文に対して投稿・校閲料等の経費補助を実施した。また、「地域営農モデルの実現に資する研究開発」、「マーケット・イン型の作物品種開発」、「農地の放射能除染や作物への放射能移行低減技術開発の強化」を三本柱と定め、重点化して研究推進するにあたり、これらに資する課題及び先端的シーズ培養に関する課題を募り、優れた 8 課題に対して予算配分を行った。

各研究分野においては、各種発表等の予行演習会や独自開催のセミナーを随時開催した。東北農業研究センターセミナーは、講師を外部から招くなどして 4 回開催した。

6) 所内におけるコンプライアンス実践についての取組み

業務推進室及び管理課が中心となり、実験廃液のうち「水質汚濁防止法」及び「廃棄物の処理および清掃に関する法律」に規定する物質及び廃棄物について、その取扱い（使用・保管・処分）を定めた「実験廃液マニュアル」を作成し、これに基づいた管理を開始した。また、平成27年8月6日付けで制定及び改正された「研究費の不正使用等の防止に関する規程」「研究成果等管理規程」「コンプライアンスの推進体制等に関する規程」等に対応し、研究データの保存と管理について適切に取り扱うため、東北農研としての「実験ノートの運用マニュアル」を作成し、これに基づく研究記録の管理を開始した。

4. 研究業務の概要

生産基盤研究領域

生産基盤研究領域は、農業経営に関する調査・研究を行う農業経営グループ、農業機械や作業システム、地域バイオマスに関する技術開発を行う農業機械グループ、作物生理や品質・機能性に関する研究や技術開発を行う生理機能グループで構成されている。

農業経営グループでは、新技術の経営的評価、ビジネスモデルの策定、食農連携などの研究課題を担当している。

新技術の経営的評価については、プラウ耕・グレーンドリル播種による乾田直播水稻-小麦-大豆2年3作輪作体系のコスト水準を現地実証試験に基づき明らかにした。また、水田作経営について、離農による農地供給の予測から、2020年の東北地域平地農業地域で期待される面積規模は、2010年時点における「稲+畑作」類型の「法人組織」のそれに概ね相当することを明らかにし、直播栽培等の省力化技術導入の必要性を示した。さらに、大規模リンゴ作経営について、摘花剤、葉とらず栽培、収穫袋など結実管理作業の省力化技術が経営の成立条件であることを示した。

ビジネスモデルの策定では、贈答用果物の直接

販売を行う生産者のための新規顧客獲得方策について、「おすそわけ袋」の活用マニュアルを作成し、プレスリリースを行い公表した。また、中山間地域の大規模水田作経営による広域連携ビジネスモデルについて、連携することで共通の課題を解決することが可能になるなどの効果を明らかにし、研究成果情報として公表した。また、有色素米を活用した6次産業化ビジネスモデルについて、低次加工し中域流通に限定すること、持続性を重視し労賃で地域に還元することなど、ビジネスモデルの成立に必要な条件を示した。

食農連携については、食行動データ収集・分析システムで得た「購入理由」などのテキストデータを分析するとともに、分析の手順を整理し、具体的な分析手順を示した。

農業機械グループは、主に高生産性水田輪作システムの確立と地域資源を活用したバイオマス循環利用システムの開発に取り組んでいる。

高生産性水田輪作システムについては、宮城県津波被災地域を対象にプラウ耕グレーンドリル播種体系を基軸とした乾田直播水稻-小麦-大豆2年3作水田輪作体系を現地（名取市）の合筆した3.4haと2.2haの大区画水田で実証したデータを取りまとめ普及成果情報として公表した。3年間の平均収量は、乾田直播水稻533kg/10a、小麦403kg/10a、大豆226kg/10aであった。水稻60kg当たりの費用合計は6,903円、小麦は7,431円、大豆14,711円で、2010年東北平均に対し、それぞれ57%、46%、72%に低減する結果となった。

水田輪作システムに係る土壌水分制御技術については、下層土の透水性が高い条件では、地表面の強鎮圧により日減水深を低減できることが示され、これまで限定されていた乾田直播の適地を拡大できることを明らかにした。東北地方では全水田面積の約32%で新たに乾田直播が可能になり、全体の70%の水田で乾田直播が可能であると推察された。乾田直播水稻-小麦-大豆の2年3作体系における、水稻乾田直播での均平作業については、大豆残渣が影響を及ぼさないため、耕起作業はスタブルカルチで十分であり、圃場の均平化に係る作業時間の短縮化が期待された。その他、地カムラの検出方法、雑草の発生と防除技術等について検討した。以上の実証試験データを中心に、「乾田直播栽培マニュアル-プラウ耕・グレーン

ドリル播種体系」を Ver. 2.3 から Ver. 3 に更新した。

子実用トウモロコシを導入したプラウ耕鎮圧乾田直播水田輪作については、プラウ耕の乾田直播水稲が全刈り収量でロータリ耕区より多かったが、大豆、トウモロコシでは差がみられなかった。さらに、チゼル有芯部分耕を活用した大豆の狭畦密植栽培について、1.2～2.0km/h で播種が可能で、慣行栽培と同等の収量が得られることを実証し、研究成果情報として公表した。

地域資源を活用したバイオマス循環利用システムについては、薪ボイラに木質ペレット、草本系ペレットを利用する技術を開発し、研究成果情報として公表した。稲わら、ジャイアントミスカサス、剪定枝の灰は融点が高く、薪ボイラであっても燃焼空気の供給経路を改善することで、木質ペレット、草本系ペレットを利用することが十分可能であることが示された。これら未利用バイオマスについて、エネルギー自給システムのモデル化を進めるために、核となる要素技術であるナタネ油の SVO を燃料とするディーゼル発電機の実証試験を行い、問題無く使用できることを明らかにした。さらに、バイオマスの直接燃焼熱、木質バイオマス発電の廃熱及び太陽光発電による電力等を利用して生産施設の暖冷房を行うシステムについて、設計・評価用データの蓄積及び想定システムのモデルを用いたエネルギー評価を行った。

生理機能グループの研究内容は、作物生理に関する研究と機能性評価に関する研究とに分けられる。

作物生理に関する研究では、イネが日々の気象条件の変動に応答して根のアクアポリン（水分制御に関わる膜タンパク質）遺伝子の発現量を調節していることを明らかにした。気象条件の指標としてポテンシャル蒸発量を採用し、そのような微気象的な指標とアクアポリンの発現量を定量的に結び付けることにより、イネの根に複数あるアクアポリンの分子種の中でも特に応答性の高いものと低いもの、あるいは負の依存性を持つものがあることを見出した。一方、登熟中のイネ種子内においては、2種のアクアポリンのみが特異的に発現しており、そのうち高い水透過活性を持つ *OsPIP2;1* は、高温ストレスにより発現量が著しく低下することを明らかにした。

また、イネの放射性セシウム吸収抑制技術のために、コシヒカリとセシウム吸収能が高いインド型品種タカナリを用い、セシウム吸収の抑制条件であるカリウムの濃度の異なる栽培条件下において、セシウム吸収・分配に関する試験を開始した。

機能性評価については、紫黒米は炊飯によりアントシアニンが大きく減少するものの、プロトカテク酸の生成により抗酸化能の減少幅が小さいこと、紫黒米炊飯物及び紫黒米から抽出したアントシアニンが 2 型糖尿病モデルマウスの肝臓コレステロール量を低減するなど脂質代謝改善作用を有し、アントシアニンが作用に寄与していることを明らかにした。

畑作園芸研究領域

畑作園芸研究領域は、畑作物育種グループと野菜花きグループで構成されている。

畑作物育種グループでは、麦類（大麦、小麦）並びに特産作物（ナタネ、ソバ）の新品種育成と育種法の開発を行っている。寒冷地向けの高品質の小麦の育成では、「きたほなみ」を母本とする製粉性、めんの色相の優れた小麦「東北 234 号」、グルテンの強さが「ゆきちから」と「銀河のちから」の中間で製パン適性の良い小麦「東北 235 号」を育成した。「東北 235 号」は、*Glu-D1d* と *Glu-B3g* を有し、「ゆきちから」よりグルテンが強靱であるが、「銀河のちから」と比較するとエキステンソグラムの伸張抵抗は小さく、伸長度が長い特性が有り、パンの比容積は大きい。また、「ゆきちから」並の耐雪性を有し、穂発芽性は“難”、縮萎縮病抵抗性は“強”で、収量性は「ゆきちから」と同程度で容積重と千粒重が大きく、外観品質は腹溝の開きが少なく優れる系統である。

マーカー等基盤技術の開発では、コムギのゲノム間及び染色体間での偏りを最小限に抑えたコアマーカーセットを選定した。ゲノムワイド QTL 解析により、粉色に関する量的形質遺伝子座を 12 個同定した。製粉性に関する 2 つの主要 QTL について育種材料を用いたマーカー選抜を開始した。GBSSI-B1, D1 及び SSIIa-B1, D1 を欠く変異体は、その高い澱粉の老化耐性を製パンに生かすことが可能と結論付けられた。

赤さび病抵抗性に関連する研究においては、ネ

バリゴシの赤さび病抵抗性遺伝子集積系統の世代を進め、抵抗性遺伝子を集積した個体を選抜した。

寒冷地向け大麦品種の育成では、「ミノリムギ」に優る耐雪性で「シュンライ」並に早生で「ファイバースノウ」並の搗精白度を持つ「東北皮47号」を開発した。半数体育種法により、fra系統5、fra+ant28系統2、ant28系統1、もち裸系統1の合計9系統のDH5系統を選抜した。オオムギ種子の硝子質粒低減に有効な胚乳形質として破碎澱粉粒変異(fra)遺伝子座に強連鎖する新規DNAマーカーを開発した。本マーカーは国内におけるfra系統育成のための選抜に利用可能である。

ナタネの品種育成では、収油量が高く、菜種ミールの多目的利用可能なダブルロー品質のナタネ「東北99号」を「きらきら銀河」として品種登録出願を行った。「東北101号」は「キザキノナタネ」より多収であり有望と考えられた。また、寒地及び寒冷地向きのダブルロー系統「東北102号」及び「東北103号」を新配付した。ナタネの根こぶ病抵抗性系統については、病原型グループ4の現地圃場において実用的な抵抗性を示した。また、収量性などの特性については「キザキノナタネ」の特性に近いことが確認された。

ソバの品種育成では、「東北3号」は秋ソバ(夏播き)では標準品種「階上早生」より子実重が少なかったが、現地試験等の結果から東北地域に適する夏ソバ品種としての活用が考えられ、品種登録出願することとした。

野菜花きグループでは、野菜の新品種育成と野菜花きの栽培技術開発を担当している。東北地域に適した業務・加工用野菜の新作型の開発では、タマネギの春まき夏どりの新作型及び従来の秋まき春どり作型、セット球を用いた秋どり作型、アスパラガスの伏せ込み栽培の安定多収に向けた研究などを行っている。春まきタマネギでは、初期生育の促進が重要とされ、育苗期の被覆肥料施用が生育促進、増収に有効であることを示した。セット球を用いた秋どり栽培では、専用品種のシャルムを8月上中旬頃に定植を行えば、11月にM規格程度のタマネギを収穫可能で、寒冷地における本作型の開発は十分可能であると思われた。アスパラガスの伏せ込み栽培において、土壌が重粘土の圃場でアスパラガスの大きな株を養成するには、2軸ロータリの畝立て機で高い畝を作ること

が効果的であった。

東北地域に適したクッキングトマトの新作型の開発では、岩手県大槌町及び東北農研(盛岡)において、5回播種による6月から11月まで収穫を通じて、長期出荷のためには、播種期によって収穫期が確実に動かせる早生品種「すずこま」を密植し、低温期にはべたがけ(うきがけ)を利用するのがよいと考えられた。加工業務用キャベツの機械収穫精度向上のための茎の傾き制御に関する試験では、植付け深さにより太さ及び深さ別の根の分布(特に本数)に違いが認められ、押倒し抵抗値にも違いがみられた。寒冷地の春どりに向く極晩抽性ハクサイ品種の育成では、有望系統について5地点で早春露地作型試験を行い、既存の晩抽性品種が早期抽だいする条件下でも晩抽性を発揮し、高い商品化率を示すことを確認した。

寒冷地での夏秋イチゴの安定多収生産技術の開発では、四季成り性品種の花成解明や一季成り性品種の周辺栽培技術の開発を行っている。「なつあかり」では、長日処理によって6月あるいは7月の長日処理で花房数が増加し、秋に増収効果がみられたが、「すずあかね」では7月の長日処理で収量が抑制された。一季成り性品種の夏秋栽培では、クラウン温度制御による花房数の増加等により増収となり、「紅ほっぺ」で多収であった。

寒冷地向け夏秋どりイチゴ系統の育成では、3系統について、収量性や果実特性について一定の評価を得た。寒冷地向け夏どり一季成り性系統「盛岡36号」は、大果で果形が乱れず多収であることから、各試験地での評価は概ね良好であった。選抜効率を高めるため、四季成り性及びうどんこ病(レース0)抵抗性と連鎖するマーカーを開発した。四季成り性個体の早晩性やランナー発生にかかわる遺伝解析のための表現型データを取得した。

環境保全的で経営的にも持続可能な野菜生産技術体系を開発に向けて、化学肥料削減栽培を圃場試験により検討した。夏どりネギ栽培において、リン酸濃度1%のリン酸液肥を育苗箱当たり2L灌注することにより、生育が促進されて収穫期を前進可能となり、春まきタマネギ栽培では、育苗箱当たりリン酸20g相当の過リン酸石灰を施用することにより、PKを50%減肥しても慣行と同等以上の収量が得られた。

花きの生産性向上技術の開発では、灯油燃焼式加温器の排気からの二酸化炭素回収貯留・施用機の利用は、二酸化炭素施用によるスプレーギクの品質向上の手段として有効と考えられた。また、生産量の多いガーベラを中心として生長点近傍部局所加温技術（温水チューブやステンレステープヒーター）によって、加温設定温度を5℃下げても同等の切り花収量が得られ、投入熱量の大幅な削減が可能と試算された。

畜産飼料作研究領域

畜産飼料作研究領域は、寒冷地における飼料作物の栽培、収穫調製及び放牧に関する研究を行う飼料グループ、牧草の育種に関する研究を行う牧草育種グループ、牛の使用及び肉質評価に関する研究を行う畜産グループ及び肉用牛の生理と繁殖に関する研究を行う生理繁殖グループで構成されている。

飼料グループは、ヘアリーベッチを緑肥として利用すると、飼料用トウモロコシの施肥量を、リン酸で10kg/10a程度、窒素で7.5kg/10a程度節減できることを示した。また、飼料用ダイズのリビングマルチとしてヘアリーベッチを用いると、イタリアンライグラスを用いた場合より150kg/10a程度増収すること、及び飼料用ダイズは青立ち状態になっても、発酵品質は良好で栄養価にも問題がないが、植物性エストロゲン含量が著しく上昇することを示した。放牧草地の牧草の乾物蓄積速度はペレニアルライグラスがケンタッキールグラスより高いこと、及びネムノキの樹冠内の牧草の収量は、樹冠外よりも高く維持され、無施肥にもかかわらず年平均4-6t/haに達することを示した。

牧草育種グループは、草地の高度利用を促進するために、イネ科牧草の品種開発とその普及を行っている。イタリアンライグラスについては、越冬性に優れた「クワトロ-TK5」を育成し、品種登録出願を行った。ペレニアルライグラスについては、越夏性に優れる系統「東北7号PR」の利用1年目の地域適応性試験を行った。フェストロリウムについては、「東北1号」や「イカロス」の現地実証圃場を作り、多年生ライグラスの普及のための栽培試験を行った。

畜産グループは2シーズン放牧肥育において肥育後期に大豆サイレージとトウモロコシサイレージを給与しても粗飼料多給型肥育と比較して増体や枝肉成績が遜色ないことを明らかにした。放牧地での短角子牛生産において、夏生まれで親子放牧した子牛の増体は春生まれの子牛より優れることを示した。また、赤身肉の評価では赤身肉の酸化臭が強いと判断されるTBA試験紙のa*値とTBARS値を明らかにし、赤身肉の品質評価法開発へ向けた知見を得た。

生理繁殖グループでは、受胎性評価技術として分娩後の子宮回復状況の評価技術を示し、また、ICTを利用した発情検知システムを開発した。一方、牛の取り扱い易さを向上させる技術開発の一端として、特に離乳時に着目した訓練の効果を検証した。また、ウェアラブル機器を用いた睡眠行動の省力的な計測方法構築に着手した。一方、稲わら利用技術として、透湿防水性シートを用いた被覆保管技術の検討をすすめ、水分調整作業の短縮、保管による嗜好性上昇などが確認された。ルーメン機能制御技術開発のためにルーメンpHモニタリング技術の実証に取り組んだ。

生産環境研究領域

生産環境研究領域は、病害・虫害の防除に関する技術の開発研究を行う病害虫グループ、カドミウム吸収抑制や有機性排水浄化に関する技術の開発研究を行う土壌肥料グループ、気象環境に起因する高・低温障害の発生予測や被害回避に関する技術の開発研究を行う農業気象グループで構成される。

病害虫グループでは、稲、大豆、野菜の病害及び害虫などの研究課題を担当している。稲の病害虫に関しては、「GoogleMapによる気象予測データを利用した農作物警戒情報」システム上のいもち病発生予察情報を活用した適期防除について昨年引き続き現地圃場試験を実施し、適期に薬剤散布することによりいもち病を効果的に抑制することを示した。また、SSR遺伝子型を用いた集団遺伝学的解析により、量的抵抗性遺伝子侵害菌の蔓延までの待ち時間を推定できるシミュレーションモデルを作成した。さらに、ケイ酸質資材の投入により、有機栽培環境下でもイネいもち病の発

生程度及び斑点米カメムシの被害を低減できることを明らかにした。次に、斑点米カメムシの大規模発生源と斑点米被害の関係を調査し、アカスジカスミカメによる斑点米被害発生リスクは調査地点周辺 300 m内の土地利用から予測できることを示すとともに、被害予測モデルに基づき被害程度のハザードマップを作成した。また、土着天敵類が発生しやすい環境条件とその空間スケールについてダイズ作を中心に解析し、カメムシの天敵であるカメムシタマゴトビコバチの発生量に影響する空間スケールと土地利用を解明した。果菜類の土壤病害については、転炉スラグによる土壤 pH 矯正は、複数年にわたってトマト青枯病の被害を軽減させる効果があり、耐病性品種や耐病性台木への接木を併用するとさらにその効果が向上することを実証するとともに、その被害軽減機構には低密度の病原細菌の生育抑制が関与している可能性を明らかにした。また、転炉スラグを塗布した寒天培地上でホモプシス根腐病菌の伸長抑制が観察された。

土壤肥料グループでは、大豆や野菜のカドミウム吸収抑制技術、人工湿地を用いた有機性排水の浄化技術などの研究課題を担当している。大豆のカドミウム吸収抑制に関しては、低吸収性品種・系統の子実中のカドミウム濃度は、普通品種と比べて4割程度低く、目標 pH を 6.5 とし全面施用の苦土石灰量の 50% をうね内に部分施用すれば、子実中カドミウム濃度を最も低減できることを現地実証試験によって明らかにした。野菜のカドミウム吸収抑制に関しては、ハウレンソウのポット栽培試験により、アパタイト系資材の施用による収量の減少は見られず、資材施用に伴い水溶交換態カドミウム濃度が低下し、ハウレンソウ可食部中のカドミウム濃度は低くなる傾向となったが、アロフェン質黒ボク土では効果が認められなかった。また、アパタイト系資材によりハウレンソウのカドミウム濃度は地下部と比べて地上部で大きく低下した。さらに、冬作ハウレンソウのカドミウム濃度は品種により大きく異なり、寒締めによりカドミウム濃度が低減しやすい品種が確認された。冬作の低温条件下においてもセル成型苗移植によりハウレンソウのカドミウム濃度の低減が可能であった。レタスについては、収穫時の土壤 pH は硝酸等の影響により施肥前より低下するが、

土壤中の塩基飽和度は変化が小さく、塩基飽和度から収穫時の土壤中カドミウム濃度を推測できる可能性が示された。水稻については、2013 年作作前の炭カル多量施用（粉状炭カル 3t/10a）後の3年間の生育は無施用と差がなく、玄米中カドミウム濃度が4割程度低減した。また、炭カル施用により土壤の交換性カルシウム含量が増えたが、玄米のカルシウム等の含量には影響しなかった。有機性排水の浄化技術に関しては、伏流式人工湿地ろ過システムにおける ANAMMOX 菌の分布と季節変化を検討し、本菌は多段の最終段に存在し、夏期には一定の密度で存在したが、冬期（2月）には非常に低い値となり、冬期の気温低下が密度に影響することが示唆された。

農業気象グループでは、高・低温障害や病害の発生予測、地球温暖化による作物栽培への影響評価などの研究課題を担当している。広域気象予測データの利用技術に関しては、病害発生予測モデルへの適用を視野に、結露の観測結果と気象観測資料から得られた相対湿度とを高時間分解能で比較したところ、「相対湿度 85%以上」時のおよそ7割で結露の傾向がみられた。これにより農研機構メッシュ気象データシステムより提供される相対湿度を応用し、結露時間として提供できる可能性が示された。メッシュ気象データの利活用事例としては、東北農研で作成している 1km メッシュ気象データを現地気象観測によって補正することで、複雑地形地域に適用する手法を開発した。この手法により、平年値（30年間）による平均的な作期策定のほか、長期間の気候の変化も反映させた作期の策定も可能となった。また、気象データから面的に水稻の出穂期を予測する数値モデルを開発し、予測精度を検証した。30年間の二乗平均平方根誤差は2日前後であり、従来モデルと同程度の精度である。出穂期のメッシュ図は、作柄表示地帯の出穂期をよく表現し、本手法が有効であることが明らかになった。大豆生産に関しては、E4 遺伝子をもつ「エンレイ」を栽培した場合に、気温上昇は生産にプラスに作用した。また、E4 遺伝子を欠失させて早生化した「エンレイ - e4」では、標播では高温による負の影響を受けるが晩播では現在気温が低いので増収すると考えられた。また、環境操作実験や過去の栽培試験データの解析より、開花期以降の土壤乾燥による収量への負

の影響を明らかにした。水田における温室効果ガス排出削減技術に関しては、東北農研内黒ボク水田圃場から放出された CH₄ 量は栽培期間中の積算地温や稲わらすきこみ後の土壌水分量には影響を受けず、稲わらすきこみ後の積算気温と高い相関があることを明らかにした。

水田作研究領域

水田作研究領域は、水田作物の栽培と雑草管理に関する研究を行う水田作グループ、水稻の品種育成とそれに係わる研究を行う稲育種グループ、水田作物の土壌管理と病害に関する研究を行う水田環境グループ、及び大豆の品種育成とそれに係わる研究を行う大豆育種グループで構成されている。

水田作グループでは、水稻・飼料用米等の低投入・高能率湛水直播栽培技術の開発を目指し、水稻無コーティング種子の代かき同時播種の現地実証試験を実施した。3.1 m の大型播種機で現地播種を行ったところ、一部現地で苗立ち不良が見られた。鉄コーティング湛水直播栽培ではドローンによる正規化植生指数画像に基づき追肥地図を作成し、試作した作業位置指示装置を無人ヘリに取り付けて部分追肥を実施した。飼料用イネ品種の普及上の問題とされる漏生イネ対策については、種子越冬能力の年次間・品種間差異が種子休眠性と関連することを示すとともに、石灰窒素を利用した発生防止技術の実用化に向けて、施用後の耕起時期の絞り込みを行った。大豆作では、チゼル有芯部分耕栽培により生育が旺盛になった上に無培土でも倒伏が抑えられ、コンバインロスが低下して全刈収量が増加した。大豆作の雑草防除については、新規選択性茎葉処理剤フルチアセットメチル乳剤の技術指標を作成するため、初期葉害の品種間差異を検討した結果、著しい葉害症状を示す品種のあることが明らかになった。

稲育種グループでは、気象変動に対応して、低コスト栽培に適した業務用向け主食用水稻品種、低コスト生産を可能とする米粉パン、米粉麺用等加工向け多収水稻品種、低コスト生産に適し食用品種との識別性を有する多収飼料用米品種及び高い消化性を持ち地域の環境条件に対応した稲発酵粗飼料用品種の育成を目指し、直播適性、いもち

耐病性、耐冷性の強化を目的とした交配及び集団養成と直播適性、いもち耐病性、耐冷性、高温耐性等を備えた系統の選抜を行った。その結果、有望系統として、耐冷性に優れ、いもち病に強く多収の奥羽 424 号を得た。他に、気象変動に対応する高温耐性を備えた主食用として奥羽 434 号、米粉用として奥羽 435 号、飼料用米として奥羽 436 号、奥羽 437 号、茎葉重割合が高い WCS 用として奥羽飼 438 号を新配付とした。

水田環境グループでは、大規模経営に対応した作物の肥培管理技術を開発するために、安価なハンドヘルド NDVI 測定機を用いた水稻の生育診断を試み、ハンドヘルド NDVI 測定機を数秒間水稻群落上にかざすという極めて簡易な方法により、水稻の窒素吸収量が推定できることを明らかにした。また、スマートフォン接続用のカメラによる葉の画像データから、水稻の葉色値及び窒素含有率が推定できる可能性を見出した。温暖化が進行しても地力を維持し水稻の安定生産を持続するために、堆肥の施用量が異なる長期連用試験のデータをデジタル化し、気象条件と生産性及び品質との関係を解析可能な状態とした。田畑輪換における大豆の多収を目指し、地下水位制御と播種時のスリット成形との組み合わせ効果を検討したところ、両者の組み合わせにより全刈収量は増収した。アメダスと土壌特性データを用いた土壌水分予測モデルを開発し、これを用いた大豆の灌水支援システムを試作した。大豆収量に影響を及ぼす土壌の通気性を圃場で即座に評価するために、ガス拡散係数原位置測定装置を試作し、ガス濃度測定値から拡散係数を計算するための表計算用シートを作成した。飼料用等の多用途米生産に伴う多肥条件における圃場抵抗性遺伝子の効果を明らかにするため、「コシヒカリ」及び圃場抵抗性遺伝子が導入されたその準同質遺伝子系統を用い、窒素施肥がいもち病発病及び病斑形成に及ぼす影響を調査した。その結果、追肥の影響を大きく受ける圃場抵抗性遺伝子と、受けにくい遺伝子が存在することを明らかにした。

大豆育種グループでは、寒冷地向けの安定多収・高品質大豆品種の育成を目指し、「おおすず」にダイズモザイクウイルス C、D 系統抵抗性を導入した「東北 169 号」及び「リュウホウ」にダイズモザイクウイルス C、D・ダイズシストセンチュ

ウレース1抵抗性を導入した「東北173号」の品種化を奨励品種決定調査等の結果から継続検討することとした。また、新たに、茎疫病に対する圃場抵抗性のQTLを導入した「東北182号」及び早生で麦後作の晩播狭畦密植栽培向けの「東北181号」を新配付とした。さらに、寒冷地向けの新規特性を有する品種の育成を目指し、リポキシゲナーゼ欠失・サポニン改良型の「東北179号」及び青大豆の「東北180号」の品種化を奨励品種決定調査等の結果から継続検討することとした。

環境保全型農業研究領域

環境保全型農業研究領域は地域条件に対応した環境保全型農業生産システムの開発に向けて、カバークロープや地域の有機質資材の利用、田畑輪換、等の耕種的技術を活用し、省化学資材・環境保全と生産性を両立させる生産性の高い畑作物・野菜栽培体系の開発を進めている。また、有機農業にも適用可能な蒸気処理防除技術を確立してその展開を行っている。

カバークロープや地域の有機質資材の利用、田畑輪換に関しては、リビングマルチ大豆栽培についての成果は「麦類をリビングマルチに用いる大豆栽培技術マニュアル」の増補改訂版として農研機構のホームページ上に公開され、これを元に現地での普及に努めた。また、規格外大豆を緑肥として用いる小麦栽培体系について、その実用的な展開可能性を明らかにするために農協の協力を仰ぎつつ規格外大豆の緑肥利用に際してのリスクの検証を行い、栽培方法とともにマニュアル「休閑期に大豆緑肥を用いる小麦栽培技術」としてまとめ、これを元に現地での普及に努めた。

蒸気処理防除に関しては、新型機を開発し、複数の現地での除草効果及び作業性の実証を行った。

農業放射線研究センター

農業放射線研究センターは、平成23年3月11日の震災に伴って発生した東京電力福島第一原子力発電所事故によって広範な地域に飛散した放射性物質の農地からの除染と除染廃棄物の減容化、農作物への移行の要因解明と低減技術の確立を担

当している。

中央農業総合研究センター等と共同して、避難区域における営農再開後の営農体系を想定し、作物残渣や家畜糞尿などの有機系資源を用いた乾式メタン発酵と、稲わらや木質チップの固形燃料化によるエネルギー生産及び施設園芸への供給等によるエネルギー・資源循環システムの構築を目指した研究開発を行っている。

農作物への移行低減に関しては、水稻、ソバ、大豆、畦畔草において土壤中の交換性カリ含量を十分に高めることが肝要であることを明らかにし、その現地での適用の徹底を進めている。また、将来的に追加のカリ投入量を削減し、移行抑制に適正なカリ施肥量とするための技術開発に取り組んでいる。

表土剥ぎ取り・客土により除染された圃場は、除染後、直ちに営農に利用されるわけではなく、実際には耕作されずに放置されている圃場が多く存在する。このような農地では雑草の繁茂や土壌流亡が問題であることが明らかとなり、営農再開までの期間に農地を省力的に保全・管理する技術開発に取り組んでいる。また、投入された客土によって生産性が低下するケースが多く、除染によって放射性物質がすべて除去されるわけではないので、除染後農地の肥沃度を向上させるための指針と完全に除去されない放射性物質の農産物への移行を抑制するための技術導入を進めている。

Ⅱ 研究情報活動

II 研究情報活動

1. 研究成果の発表

- 注. 1) 収録対象は、平成27年度に公表したものである。編集に当たっては、平成27年4月現在の組織構成により配列してある。
- 2) 各研究領域の成果は、職員が所属する研究領域ごとに記載した。
研究課題の分担等により他の研究領域に属する課題の実施により得られた成果は、本人が所属する研究領域に収録した。
なお、複数の研究領域による成果については、記載されている所内の著者のうち、配列順序が一番前の著者の所属する研究領域に収録した。
- 3) リストは研究領域ごとに以下の項目で分類し、各項目の中は発表年月（発表又は発行、掲載、印刷された年月）順に記載した。

原著論文：原著性の高い学術論文、研究所報告、叢書等

学会発表等：口頭、ポスターによる学会発表（講演要旨集、本誌に掲載された要旨、シンポジウム講演を含む）、国際研究集会での発表

著書等：上記以外の印刷物、Web掲載及びマスコミ報道

《企画管理部》

原著論文

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
今崎伊織、門田育生	Molecular phylogeny and diversity of <i>Fusarium</i> endophytes isolated from tomato stems	FEMS Microbiology Ecology	91 (9)、未定	2015.09
渡辺満、鮎瀬淳	ハウレンソウに含まれるフラボノイド及び抗酸化能の栽培時期による変動	日本食品科学工学会誌	62 (10)、501-507	2015.10
上杉祥太 (岩手大学)、藤澤望美 (岩手大学)、吉田潤 (岩手医科大学)、渡辺満、且慎吾 (がん研)、矢守隆夫 (がん研)、塩野義人 (山形大学)、木村賢一 (岩手大学)	Pyrrocidine A, a metabolite of endophytic fungi, has a potent apoptosis-inducing activity against HL60 cells through caspase activation via the Michael addition	The Journal of Antibiotics	69、133-140	2015.10
渡辺満、大久保さゆり、菅野洋光	有色素米に含まれる抗酸化成分量の栽培地による差異	東北農業研究	68、23-24	2015.12
小沢洋子 (慶応大学)、永井紀博 (慶応大学)、鈴木美砂 (慶応大学)、栗原俊英 (慶応大学)、篠田肇 (慶応大学)、渡辺満、坪田一男 (慶応大学)	ルテイン高含有ハウレンソウ摂取による黄斑色素密度に対する効果のバイロットスタディ	日本眼科学雑誌	120 (1)、41-48	2016.01

学会発表等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
渡辺満	食品の機能性ってなに？	平成 27 年度第 1 回東北農研市民講座		2015.06
渡辺満	寒締め栽培によるハウレンソウの高品質化・高機能化	東北地域農林水産・食品ハイテク研究会第 3 回ワークショップ		2015.07

著書等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
鈴木健策	幼穂形成前の低水温により失われる「冷害軽減遺伝子ネットワーク」の発見	東北農業研究センターたより	46、5	2015.07
渡辺満	食品の機能性を知ろう	農業共済新聞	7 月 1 日 12 面	2015.07
今崎伊織	土壌伝染性病原菌の病原性に関する研究	日本植物病理学会報	81、186	2015.08
渡辺満	ハウレンソウの抗酸化成分は寒締め栽培により増加する	東北地域農林水産・食品ハイテク研究会だより	1、3	2015.10
今崎伊織	新たな防除技術開発に向けて	農研機構東北農業研究センターシンポジウム「鉄鋼スラグは有望な農業資材となり得るか？ー農業分野での技術開発の可能性を探るー」講演要旨集	35-39	2015.11
今崎伊織	Studies on the mechanisms of pathogenicity in soil-borne plant pathogens	Journal of General Plant Pathology	81 (6)、478-479	2015.11
渡辺満	寒締めで機能性向上	農村ニュース	12 月 21 日 8 面	2015.12
渡辺満	寒締め栽培によりハウレンソウは糖ばかりでなく抗酸化成分も増加	農業日誌平成 28 年日誌のしおり(農林統計協会)		2016.01
渡辺満	ハウレンソウの寒締め栽培は食味、栄養価高い	園芸新聞	1 月 7 日 1 面	2016.01

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
渡辺満	寒締め栽培ハウレンソウ 老化予防の 効果期待	日本農業新聞	1月11日1面	2016.01
渡辺満	ハウレンソウの寒締め栽培 フラボ ノイド含量が増加	農業共済新聞	1月13日11 面	2016.01
渡辺満	ハウレンソウの寒締め栽培 フラボ ノイドの増加	全国農業新聞	1月21日5面	2016.01
河本英憲	「赤平地区総合温室」が12月に竣工	東北農業研究セ ンターたより	48、10	2016.02
渡辺満	寒締め栽培によりハウレンソウの抗 酸化成分は増加する	東北農業研究セ ンターたより	48、6	2016.02

《生産基盤研究領域》

原著論文

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
林秀洋、石川淳子、村井麻理、 Arifa Ahamed (岩手大学)、上 村松生 (岩手大学)	Aquaporins in developing rice grains	Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry	79(9)、 1422-1429	2015.04
村井麻理、桑形恒男 (農業環境 技術研究所)、林秀洋、石川淳子、 森山真久、岡田益己 (岩手大学 農学部)	Rice plants sense daily weather and regulate aquaporin gene expressions in the roots - close correlation with potential evaporation -	農業気象	71(2)、124-135	2015.06
野中章久	生協が回収する廃食用の品質と地域 的資源としての特徴	協同組合研究	34(2)、131-138	2015.06
磯島昭代、長谷川啓哉	消費者のおすそわけ意識と「おすそ わけ袋」による新規顧客の獲得ー大 規模リンゴ作経営における配布実験 によるー	農村経済研究	33(1)、65-73	2015.11
安江紘幸	東北農業・農村における普及事業の 役割ー公・共・私的アクター連携の 可能性ー	農村経済研究	33(2)、94-104	2015.12
堀川彰	東北地域における女性農家世帯員の 就業構造	農業経済研究	87、243-248	2015.12
冠秀昭、大谷隆二、関矢博幸、 中山壮一、齋藤秀文	大区画水稲乾田直播圃場における鎮 圧作業による浸透抑制効果	農作業研究	50(4)、103-113	2015.12

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
泉谷眞実(弘前大学)、野中章久	農産バイオマスや食品廃棄物の利活用の在り方と課題	農村経済研究	33(2)、47-56	2015.12
加藤仁、金井源太	ナタネ精選技術と油品質の向上	農業食料工学会 東北支部報	62、33-36	2015.12
金井源太、野中章久、小綿寿志	無変換ナタネ油および廃食油の発電機導入可能性	農業食料工学会 東北支部報	62、37-40	2015.12
高橋太一	「競争の戦略」分析からみた有機米生産の外部環境	東北農業研究	68、161-162	2015.12
松波寿典、鄭健稿(東北大学)、大木行彦(東北大学)、大寺真史(福島県農業総合センター)、国分牧衛(東北大学)	乾燥ストレスが根粒超着生ダイズ品種作系4号の乾物生産能に及ぼす影響	日本作物学会東 北支部会報	58、57-58	2015.12
松波寿典、齋藤秀文、関矢博幸、大谷隆二、長坂善禎	播種様式の異なる高速播種機を用いたダイズの狭畦密植栽培	日本作物学会東 北支部会報	58、55-56	2015.12
松波寿典、片山勝之	播種様式の違いが晩播狭畦栽培した大豆品種あきみやびの収量、品質に及ぼす影響	日本作物学会東 北支部会報	58、45-46	2015.12
松波寿典、関矢博幸、齋藤秀文	散播栽培法の違いがダイズの生育、収量、品質に及ぼす影響	日本作物学会東 北支部会報	58、43-44	2015.12
篠遠善哉、齋藤秀文、大谷隆二	国産汎用コンバインによる子実生産用トウモロコシの収穫技術の検討	東北農業研究	68、61-62	2015.12
進藤勇人(秋田県農業試験場)、片平光彦(山形大学農学部)、齋藤雅憲(秋田県農業試験場)、中川進平(秋田県農業試験場)、松波寿典、佐々木景司(秋田県農業試験場)、佐藤雄幸(秋田県農林水産部農林政策課)	田畑輪換における水稻無代かき湛水直播栽培の効果	農業食料工学会 東北支部報	(62)、13-16	2015.12
松波寿典、能登屋美咲(秋田県農業研修センター)、三浦恒子(秋田県農業試験場)、金和裕(秋田県農業試験場)、松波麻耶、佐藤雄幸(秋田県農林水産部農林政策課)	寒冷地北部において疎植栽培したあきたこまちの茎数過剰に伴う低収要因	日本作物学会紀 事	85(1)、67-76	2016.01
松波寿典、能登屋美咲(秋田県農業研修センター)、松波麻耶、金和裕(秋田県農業試験場)	秋田県における疎植栽培条件下での追肥の有無があきたこまちの収量、品質に及ぼす影響	日本作物学会紀 事	85(1)、1-9	2016.01
松波麻耶、松波寿典、小玉郁子(秋田県農業試験場)、小川敦史(秋田県立大学)、豊福恭子(秋田県立大学)、石川淳子、国分牧衛(東北大学)	Characterization of the morphological and physiological traits of rice cultivars with adaptation to unflooded condition during early vegetative growth	Plant Production Science	19(1)、173-180	2016.01

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
下口ニナ (東京農業大学)、稲泉博己 (東京農業大学)、安江紘幸、大室健治	Impact of farm-based learning practices on young farmers: case from an organic farm in Ogawa Town, Saitama Prefecture, Japan	ISSAAS	21 (2)、143-166	2016.01
松波麻耶、豊福恭子 (秋田県立大学)、石川淳子、小川敦史 (秋田県立大学)、松波寿典、国分牧衛 (東北大学)	Root development and the expression of aquaporin genes in rice seedlings under osmotic stress	Plant Production Science	19、315-322	2016.02
関矢博幸、齋藤秀文、嶺野英子、河本英憲	寒冷地の飼料用稲-麦二毛作栽培における大麦の適性播種日	東北農業研究	68、59-60	2016.03

学会発表等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
関矢博幸	大区画水田圃場に対応した簡易な流入施肥法	平成27年度関東東海土壌肥料技術連絡協議会春季研究会講演会「省力的施肥技術の現状と展望」		2015.04
湯川智行	土地利用型営農技術の実証研究	農業の革新的技術に関する実証研究の中間成果発表会		2015.05
中山壮一	乾田直播水稻栽培におけるノビエの葉齢進展式の予測性能を高めるには	第17回東北雑草研究会資料	*、2	2015.06
泉谷眞実 (弘前大学)、野中章久	飼料用稲わらの流通広域化事業に関する一考察	2015年度日本農業市場学会大会個別報告	*、第2会場-6	2015.06
長谷川啓哉	加工・業務用果実と生産方式	青果物流通システム高度化研究会～加工・業務用国産果実生産・流通方針の策定に向けた検討～第2回生産段階における課題(農林水産省園芸作物課)		2015.06
関矢博幸、西田瑞彦、高橋智紀、齋藤秀文、冠秀昭、篠遠善哉、松波寿典、中山壮一、大谷隆二	電磁探査法を用いた宮城県沿岸部の輪作水田圃場の評価	日本土壌肥料学会東北支部大会平成27年度秋田大会	*、4	2015.07

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
長谷川啓哉	コメントーカットりんごサプライチェーンの成立条件の解明に向けてー	国産りんごのカットフルーツ仕向け拡大に向けて(農林水産政策研究所)		2015.07
長谷川啓哉	岩手県のりんご生産における今後の課題	果樹の流通販売戦略に係る勉強会(岩手県農産園芸課)		2015.07
中山壮一	お邪魔な植物たち「雑草」とどう付き合う?	第2回東北農研市民講座		2015.07
齋藤秀文、大谷隆二、関矢博幸、冠秀昭、中山壮一、松波寿典、篠遠善哉、長坂善禎	GPS レベラーを用いた圃場の合筆・均平技術の開発	農業食料工学会東北支部平成27年度講演要旨集	*、31-32	2015.08
高橋太一	内部環境・バリューチェーンにみる有機米生産販売活動の特徴と意味	第51回東北農業経済学会新潟大会報告要旨	*、4-2	2015.08
冠秀昭、篠遠善哉、関矢博幸	圃場水分特性を指標とした圃場一筆単位での排水機能診断手法の開発	農業食料工学会支部会大会研究発表会講演要旨集	*、33-34	2015.08
金井源太、野中章久、小綿寿志	無変換廃食油の発電機燃料利用について	農業食料工学会東北支部大会平成27年度研究発表会講演要旨集	*、45-46	2015.08
泉谷眞実(弘前大学)、吉仲怜(弘前大学)、野中章久	「耕畜連携助成」の動向と飼料用稲わら収集事業に与える影響	2015年度東北農業経済学会新潟大会個別報告	*、報告番号1-2	2015.08
宮路広武	東北地域における農業先進技術の経営的評価と農業経営モデル	東北農業試験研究協議会・農業経営研究会・夏期研究会		2015.08
大谷隆二	仙台平野沿岸部における水田農業の復興	農業環境工学関連5学会2015年号合同大会プログラム	*、71-74	2015.09
小綿寿志、金井源太、藤尾利幸(オーテック)、小原勝久(オーテック)	津波被災地における太陽光発電による農産施設への電力供給	農業環境工学関連5学会2015年合同大会講演要旨集 CD-ROM	*、P231	2015.09
冠秀昭	ブラウとグレーンドリルを用いた省力的な乾田直播技術	農業農村工学会大会講演会講演要旨集	*、92-93	2015.09

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
金井源太、小綿寿志	薪ボイラーにおけるペレット燃料利用	農業環境工学関連 5 学 会 2015 年合同大会講演要旨集 CD-ROM	*、G601	2015.09
岡留博司、齊藤勲(ナカショク)、安江紘幸、御子柴義郎、持田秀之、太田久稔、小館琢磨(岩手県農業研究センター)、五月女格、佐々木朋子	三陸地域向け低アミロース米品種の炊飯・流通条件に伴う米飯物性の変動解析	農業環境工学関連 5 学 会 2015 年合同大会プログラム集	*、31	2015.09
安江紘幸	新形質米を活用した 6 次産業化ビジネスモデルの構成要素	平成 27 年度日本農業経営学会研究大会報告要旨	*、140-141	2015.09
安江紘幸	東北復興・創生に向けた特産品開発による地域ブランディングー陸前高田市での社会実験を事例にー	第 4 回地域デザイン学会全国大会予稿集	*、59-62	2015.09
松波寿典	金田一営農組合への出前技術指導	大豆狭畦密植栽培の導入に関する技術指導		2015.09
松波寿典	現地巡回圃場における栽培管理指導及び今後の課題等について	JA いしのまき鳴瀬管内大豆現地検討会		2015.09
大谷隆二	ブラウ耕鎮圧乾田直播	登米アグリビジネス起業家育成塾		2015.09
冠秀昭、関矢博幸、大谷隆二	トラクタで利用できる浅層暗渠施工器とその排水効果	農業農村工学会東北支部第 58 回研究発表会講演要旨集	*、72-73	2015.10
泉谷眞実(弘前大学)、野中章久	飼料用稲わら流通のグローバル化と国内市場形成の特質	日本流通学会第 29 回全国大会自由論題報告	*、16	2015.10
金井源太、小綿寿志	薪ボイラーにおけるペレット燃料利用	第 46 回木質バイオマス円卓会議		2015.10
小綿寿志、金井源太	農業残さのエネルギー利用	第 46 回木質バイオマス円卓会議		2015.10
長谷川啓哉	農業経営論	平成 27 年度営農指導員筆記試験講習会		2015.11
湯川智行	未来の稲作	松園会講演会		2015.11

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
冠秀昭	土壌水分制御技術の導入で野菜作に挑む～暗渠による排水性・保水性の制御～	平成 27 年度 東北地域マッチングフォーラム講演要旨集		2015.11
篠遠善哉、松波寿典、冠秀昭、大谷隆二	水田転換畑における耕起法の違いがトウモロコシの根の生理的特性・形態的特性に及ぼす影響	根の研究	24(4)、146	2015.12
大谷隆二	震災復興から見えた 20 年後の水田農業	全国土を考える会		2015.12
大谷隆二	乾田直播栽培による大規模輪作営農	萌えみのりコンテスト(ヤマタネ)		2015.12
齋藤秀文	GPS レベラーを用いたほ場の均平化作業技術	平成 27 年度 第 2 回水稲直播栽培技術研究会		2015.12
宮路広武	津波被災地の農業復興における農業生産法人の役割 ―宮城県名取市・岩沼市の事例から―	第 6 回東北大学農学研究科連携講座シンポジウム		2016.01
安江紘幸	農産加工ビジネスと商品開発 ―産直センター潟の未来予想図―	直売所レベルアップ講座	*、24	2016.02
松波寿典	大豆に関する新栽培技術および津波被災農地の復旧に関して	JA あきた白神視察研修会		2016.02
磯島昭代	新しい顧客獲得のための「おすそわけ袋」の提案	東北ハイテク研究会 勉強会 「おすそわけ袋」を活用して新しいお客様を増やしませんか ―贈答用りんごを事例に考える―		2016.02
磯島昭代	東北水田農業における園芸作導入の条件と課題 ①秋田県を事例に	平成 27 年度東北農業試験研究推進会議 農業生産基盤推進部会 農業経営研究会		2016.02
高橋太一	東北水田への野菜作導入に関する問題と課題 ―岩手県の調査における事象を中心に―	東北農業試験研究推進会議 農業生産基盤推進部会 農業経営研究会		2016.02

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
関矢博幸	有機農業の生産技術(「有機農業実践の手引き」から)	平成27年度みやぎの環境にやさしい農業推進セミナー		2016.02
磯島昭代	贈答用果物の直接販売を行う生産者のための新規顧客獲得方策 - 「おすそわけ袋の活用」 -	出前技術指導(秋田県鹿角市)		2016.02
冠秀昭	水田転換畑における暗渠排水と土壌水分調節技術の利用	東北農業試験研究推進会議野菜花き推進部会		2016.02
齋藤秀文、片山勝之、持田秀之、野中章久	チゼル有芯部分耕による大豆狭畝栽培技術	農作業研究講演要旨集	51(別)、9-10	2016.03
冠秀昭、関矢博幸、篠遠善哉	電磁探査法による水田転換畑の一筆毎の排水機能評価手法～圃場排水性が子実トウモロコシ生産に及ぼす影響～	農作業研究	51(別1)、61-62	2016.03
関矢博幸、西田瑞彦、高橋智紀、浪川茉莉、齋藤秀文、冠秀昭、篠遠善哉、松波寿典、中山壮一、大谷隆二	麦用レーザー式生育センサー測定値と移植・乾直水稻の幼穂形成期生育量、籾数の関係	農作業研究講演要旨集	51(別1)、41-42	2016.03
野中章久、吉仲怜(弘前大学)、金井源太	水稻経営における電気料金の特徴とWVO自家発電の可能性	2015年度日本農業経済学会大会個別報告	*、K23	2016.03
村井麻理、林秀洋、富永陽子(岩手大学)、松波麻耶(日本学術振興会特別研究員)、石川淳子、藤村恵人、戸上和樹、三浦憲蔵、近藤始彦(名古屋大学)	Influence of potassium fertilization on uptake and distribution of stable cesium (133Cs) in plant in two rice cultivars, Takanari and Koshihikari	第57回日本植物生理学会年会講演要旨	*、282	2016.03
桑形恒男(農業環境技術研究所)、村井麻理、林秀洋、石川淳子、福井眞(早稲田大学)、須長智洋(農業環境技術研究所)	Environmental response of aquaporin gene expressions in the rice roots under natural weather conditions -response to the root-zone temperature	第57回日本植物生理学会年会講演要旨	*、185	2016.03
桑形恒男(農業環境技術研究所)、村井麻理、林秀洋、石川淳子、福井眞(早稲田大学)、須長智洋(農業環境技術研究所)	野外環境におけるイネの根のアクアポリン発現量の気象応答性の解析	日本農業気象学会2016年全国大会講演要旨	*、68	2016.03
林秀洋、村井麻理、石川淳子、富永陽子(岩手大学)、松波麻耶(日本学術振興会特別研究員)	Rice aquaporin localizations in root, and the relationship between morphological changes and aquaporin gene expressions	第57回日本植物生理学会年会講演要旨	*、282	2016.03

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
齋藤秀文	東北地方におけるタマネギ生産の現状と今後	平成 27 年度農業機械開発改良試験研究打合せ会議園芸分科会		2016.03
安江紘幸、岡留博司、御子柴義郎、持田秀之	農村活性化に向けた半農半漁地域における農産加工品の開発プロセスー岩手県陸前高田市広田地区の経営実験を事例にー	2016 年度日本農業経済学会大会報告要旨	*、K31	2016.03
篠遠善哉、松波寿典、冠秀昭、大谷隆二	黒ボク土の水田転換畑におけるプラウ耕がトウモロコシの生育および収量に及ぼす影響	日本作物学会第 241 回講演会要旨集	*、85	2016.03
金井源太、金子幸次 (いわて生協セットセンター)	使用済みてんぷら油による直接発電実験の成果	2016b バイオディーゼル燃料フォーラム		2016.03
中山壮一	研究成果報告：『寒冷地水稲有機栽培の手引き』の紹介	有機栽培技術試験研究成果発表会 (一関地方有機農業推進協議会)		2016.03

著書等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
冠秀昭	水田転換畑における土層改良による排水性の向上	土づくりとエコ農業	47(3)、25-29	2015.05
関矢博幸	流し込み施肥、水田追肥作業を省力化	農業共済新聞	5月27日12面	2015.05
磯島昭代		「おすそわけ袋」の活用ー贈答用果物の直接販売を行う生産者のための新規顧客獲得方策ー	26pp.	2015.08
長谷川啓哉	りんご経営の知識ー大規模経営を成立させるためにはー	りんご技術	97、23-24	2015.08
小綿寿志、金井源太、澁谷幸憲	地域バイオマス利活用システム[9]ー地域実証事例6 地域バイオマスとしてのナタネ利用の実証ー	農業および園芸	90(8)、836-841	2015.08
松波寿典、児玉徹 (全国農業協同組合連合会秋田県本部)、佐野広伸 (秋田県農業試験場)、金和裕 (秋田県農業試験場)	米の外観品質・食味研究の最前線 (38)ー食味向上による国産米の競争力向上のための栽培学的アプローチー	農業および園芸	90(8)、842-846	2015.08

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
長谷川啓哉	りんごニュースの恩恵	りんごニュース (青森県りんご協会)	3000、1	2015.08
長谷川啓哉	基本方針と加工振興	りんごニュース	3001、1	2015.08
磯島昭代	おすそ分け用袋 顧客開拓に有効 贈答用リンゴ箱にセット 東北農業 研究センター調査 「連絡先見て注 文」	日本農業新聞	8月13日7面	2015.08
磯島昭代	活躍 おすそわけ袋 東北農業研究 センター 農家調査で効果実感	日本農業新聞	9月28日13 面	2015.09
大谷隆二	仙台平野の津波被災地域における乾 田直播の導入実証試験	グリーンレポー ト(全農)	10、12-13	2015.10
関矢博幸	土壌塩分濃度の迅速調査法2. 土壌 ECセンサ利用による土壌電気伝導 度の簡易測定法	日本土壌肥科学 雑誌	86、466-468	2015.10
冠秀昭	電磁探査法による土壌電気伝導度の 迅速測定法	日本土壌肥科学 雑誌	86(5)、463-465	2015.10
湯川智行	4. 研究業務の内容 生産基盤研究 領域	平成26年度東北 農業研究センタ ー年報	*、5-6	2015.10
長谷川啓哉	省力技術体系導入による大規模リン ゴ作経営の成立	地域農業の将来 動向と担い手経 営の成立・展開 に必要な技術開 発方向(国立研 究開発法人農 業・食品産業技 術総合研究機構 開発技術評価プ ロジェクト)	*、38-39	2015.10
長谷川啓哉	リンゴ作経営の動向と課題	地域農業の将来 動向と担い手経 営の成立・展開 に必要な技術開 発方向(国立 研究開発法人農 業・食品産業技 術総合研究機構 開発技術評価プ ロジェクト)	*、36-37	2015.10

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
堀川彰、宮路広武	東北津波被災地域に展開する雇用型法人経営及び東北地域の雇用型大規模法人経営モデル	地域農業の将来動向と担い手経営の成立・展開に必要な技術開発方向	*, 22-33	2015.10
堀川彰、宮路広武	東北農業の近年の動向と担い手展望	中央農業総合研究センター研究資料	10、22-33	2015.10
長谷川啓哉	東北中山間リンゴ作経営の規模拡大の課題と技術的対応	中央農業総合研究センター研究資料	10、205-211	2015.10
長谷川啓哉	津軽地域における大規模リンゴ作経営の成立構造と技術的課題	中央農業総合研究センター研究資料	10、198-204	2015.10
関野幸二、磯島昭代、伊藤和子 (宮城県農業・園芸総合研究所)	津波被災地域における雇用型法人経営の展開方向と課題	中央農業総合研究センター研究資料	10、113-120	2015.10
野中章久、小野洋 (日本大学)	Revitalization of rural economies though the restructuring the self-sufficient realm - Growth in small-scale rapeseed production in Japan	Japan Agricultural Research Quarterly	49 (4)、383-390	2015.10
湯川智行	日本農業を支える水稻直播と水田輪作技術	グリーンレポート	11、2-3	2015.11
湯川智行	大区画水田圃場における稲・麦・大豆の省力・低コスト技術	日本の水田農業の目指す方向 (全国農業組合連合会)	23-27	2015.11
前山薫 (岩手県農業研究センター)、高橋太一	新政策に対する担い手の動向と展開方向 - 岩手県の実態をふまえて -	農村経済研究	33 (1)、39-43	2015.11
湯川智行	先端プロ「土地利用型営農技術の実証研究」現地検討会	東北農業研究センターたより	47、8	2015.11
伊東正一 (九州大学)、南石晃明 (九州大学)、陳妹疑 (京都大学)、加賀爪優 (京都大学)、加古敏之 (吉備国際大学)、齋藤文信 (秋田県農業試験場)、渡邊大樹 (北海道大学)、齋藤陽子 (北海道大学)、松江勇次 (九州大学)、加藤和直 (秋田県農業試験場)、松波寿典、熊丸敏博 (九州大学)	世界のジャポニカ米市場と日本産米の国際競争力	農林統計出版	171-191	2015.11

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
磯島昭代	「おすそわけ」で消費拡大 農研機構 販促にオリジナルの袋を提案 生産者から顧客への普及	盛岡タイムス	11月15日1面	2015.11
磯島昭代	東北農研センター おすそ分け推奨 果実用袋の使い方を公開	農経しんぼう	11月16日2面	2015.11
長谷川啓哉	規模拡大は生産性・収益性の向上につながるか 一相馬村農協管内調査より一	りんごタイムス	3012、2	2015.12
金井源太	農業環境工学関連5学会2015年合同大会開催報告	農業施設	46(4)、108-109	2015.12
篠遠善哉	第43回根研究集会に参加して	根の研究	24(4)、133	2015.12
長谷川啓哉	生物多様性とりんご農業	りんごニュース(青森県りんご協会)	3012、1	2015.12
磯島昭代	お裾分け 顧客開拓 袋デザイン 費用を例示 東北農研センター 果実用マニュアル公表	日本農業新聞	12月13日1面	2015.12
磯島昭代	新技術;贈答から顧客開拓 おすそわけ袋	全国農業新聞	12月4日5面	2015.12
長谷川啓哉	リンゴ農業の現状と課題 一流通・消費・経営・技術一	果樹試験研究推進協議会会報(果樹試験研究推進協議会)	39、17-20	2016.01
金井源太	無変換植物油による自家発電技術の可能性について	農業経営通信	266、10	2016.01
磯島昭代	果物の消費拡大 「おすそわけ」好機に 専用袋の活用マニュアル作成 農研機構	農経新聞	1月1日4面	2016.01
磯島昭代	贈答用果物の顧客拡大プロセスと「おすそわけ袋」の活用	農村と都市をむすぶ	772、55-57	2016.02
磯島昭代	マニュアル『おすそわけ袋』の活用を公表	東北農業研究センターたより	48、9	2016.02
長谷川啓哉	青森県リンゴ産地の生産・販売構造と組織再編	農林統計協会	*、117-129	2016.02
宮路広武	モチ米を柱とした大規模水田作ビジネスモデル	大規模水田作経営のビジネスモデル・農研機構中央農業総合研究センター	*、22-25	2016.03

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
安江紘幸	合同販売会社を核とした大規模稲作経営の連携型ビジネスモデル	大規模水田作経営のビジネスモデル	*、18-21	2016.03
高橋太一	寒冷地水田作における複合経営モデルの策定と技術開発要素の提示 — 東北太平洋側 —	中央農業総合研究センター経営研究特別号『収益力向上に向けた水田複合経営の新作型の可能性と技術開発課題』	特別号、60-70	2016.03
大谷隆二、齋藤秀文、関矢博幸、冠秀昭、中山壮一、松波寿典、池永幸子、宮路広武、篠遠善哉、谷口義則、氷見英子、長坂善禎	プラウ耕・グレーンドリル播種による稲-麦-大豆の2年3作輪作体系	平成 27 年度普及成果情報		2016.03
齋藤秀文、片山勝之、持田秀之、野中章久	チゼル有芯部分耕を活用した大豆の狭畦栽培	平成 27 年度研究成果情報		2016.03
安江紘幸、大室健治	中山間地域の大規模水田作経営による広域連携ビジネスモデル	平成 27 年度研究成果情報		2016.03
金井源太	薪ボイラーは空気供給条件の改善で木質および草本系ペレットを燃料利用できる	平成 27 年度研究成果情報		2016.03

《畑作園芸研究領域》

原著論文

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
稲本勝彦、長菅香織、矢野孝喜、山崎博子	Influence of light intensity on the rate of photosynthesis and dry matter accumulation in Oriental hybrid lily 'Siberia' at different developmental stages	Journal of Horticultural Science & Biotechnology	90、259-266	2015.05
山崎博子、庭田英子（青森県産業技術センター野菜研究所）、矢野孝喜、長菅香織、稲本勝彦、山崎篤	氷点下貯蔵終了後のニンクリン茎の根および芽の伸長抑制に及ぼす高温処理温度の影響	園芸学研究	14、273-281	2015.07

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
小林史典(生物研)、呉健忠(生物研)、金森裕之(生物研)、田中剛(生物研)、片桐敏(生物研)、唐沢渉(生物研)、金子聡子(京都大学)、渡邊将太(京都大学)、坂口豊隆(京都大学)、埴優美子(生物研)、藤沢弘子(生物研)、栗田加奈子(生物研)、阿部千香子(日清製粉)、Julio C.M. Iehisa(神戸大学)、大野良子(横浜市大学)、Jan Safar(チェコ実験植物学研究所)、Hana Simkova(チェコ実験植物学研究所)、向井喜之(生物研)、濱田昌雄(生物研)、齊藤美香、石川吾郎、片寄裕一(生物研)、遠藤隆(京都大学)、宅見薫雄(神戸大学)、中村俊樹、佐藤和弘(岡山大学)、荻原保成(横浜市大学)、早川克志(日清製粉)、Jaroslav Dolezel(チェコ実験植物学研究所)、那須田周平(京都大学)、松本隆(生物研)、半田裕一(生物研)	A high-resolution physical map integrating an anchored chromosome with the BAC physical maps of wheat chromosome 6B	BMC Genomics	16、595	2015.08
山崎博子、白岩裕隆(鳥取園試)、板井章浩(鳥取大学)、本多一郎(前橋工科大学)	Involvement of gibberellins in the regulation of tillering in welsh onion (<i>Allium fistulosum</i> L.)	The Horticulture Journal	84(4)、334-341	2015.10
山崎博子、庭田英子(青森県産業技術センター野菜研究所)、矢野孝喜、長菅香織、稲本勝彦	2°C貯蔵後のニンニクの根、芽の伸長抑制に適する高温処理条件	園芸学研究	14、397-402	2015.10
山崎浩道	イチゴ四季成り性品種「なつあかり」の夏秋栽培における被覆肥料の施用が収量に及ぼす影響	東北農業研究	68、131-132	2015.12
本城正憲、布目司、片岡園、矢野孝喜、濱野恵、山崎浩道、山本俊哉、森下昌三、由比進	Simple sequence repeat markers linked to the everbearing flowering gene in long-day and day-neutral cultivars of the octoploid cultivated strawberry <i>Fragaria</i> × <i>ananassa</i>	Euphytica	209、291-303	2015.12
猪熊貴之(日本製粉)、Patricia Vrinten(Bioriginal)、新畑智也(日本製粉)、春原愛(日本製粉)、伊藤裕之、齊藤美香、谷口義則、中村俊樹	Using the hexaploid nature of wheat to create variability in starch characteristics	Journal of Agricultural and Food Chemistry	64(4)、941-947	2016.01

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
川崎光代	越冬性に優れる無エルシン酸品種「キタノキラメキ」	北農	83(1)、29-30	2016.01
Shiaoman Chao(米農務省農業研究局)、 Elias Elias(ノースダコタ州立大学)、David Bensch(コーネル大学)、石川吾郎、Yung-Fen Huang(Agri-Food Canada)、齊藤美香、中村俊樹、Steven Xu(米農務省農業研究局)、Justin Faris(米農務省農業研究局)、Mark Sorrells(コーネル大学)	Genetic mapping of major-effect seed dormancy QTL on chromosome 2B using recombinant substitution lines in tetraploid wheat (<i>Triticum turgidum</i> , L.)	Crop Science	55、59-72	2016.01
木下貴文、山崎浩道、稲本勝彦、山崎博子	Analysis of yield components and dry matter production in a simplified soilless tomato culture system by using controlled-release fertilizers during summer-winter greenhouse production	Scientia Horticulturae	202、17-24	2016.02
Byung-Chun In(Sejong University)、稲本勝彦、土井元章(京都大学)、Sin-Ae Park(Konkuk University)	Using thermography to estimate leaf transpiration rates in cut roses for the development of vase life prediction models	Horticulture, Environment, and Biotechnology	57、53-60	2016.02

学会発表等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
木下貴文	岩手県沿岸南部における中小規模施設向けトマト周年生産体系の構築	岩手野菜研究談話会第4回定例会		2015.06
谷口義則	グルテンの力が強靱な東北産小麦「銀河のちから」のベーカリー素材としての多様性	「パティスリー & ブーランジェリー ジャパン 2015」の「第4回ベーカリー素材 EXPO」		2015.06
山崎篤、山本岳彦、松尾健太郎	春まきタマネギにおける葉の構成について	東北農業研究発表会		2015.07
山本岳彦、松尾健太郎、山崎篤	春まき夏どりキャベツの宮城県沿岸部砂質土壌における施肥方法の検討	2015年度日本土壌肥料学会講演要旨集	*、7	2015.07
村山徹	定植前リン酸苗施用による野菜の減肥栽培	野菜栽培研修会(JA八戸ネギ部会)		2015.07

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
本城正憲	栽培イチゴの季性と連鎖した SSR マーカー	かずさ DNA 研究所ワークショップ イチゴゲノム育種時代の幕開け		2015.07
村山徹	定植前リン酸苗施用技術による露地野菜の施肥量削減	平成 27 年度東北農業試験研究推進会議野菜花き推進部会野菜研究会(夏期)		2015.08
松元哲	農研機構育成の露地野菜品種の特徴	東北農業試験研究推進会議 野菜花き推進部会野菜研究会(夏期)		2015.08
山崎浩道、木下貴文、山崎篤	東北地域でのタマネギ春まき新作型におけるリン酸施用が生育、収量、養分吸収量に及ぼす影響	日本土壤肥料学会講演要旨集	61、143	2015.09
山崎浩道、木下貴文	短日処理期間の高温条件がイチゴ一季成り性品種の出蕾に及ぼす影響	園芸学研究	14 (別 2)、421	2015.09
木下貴文、山崎浩道、稲本勝彦、山崎博子	Application of a simplified soilless culture system using controlled-release fertilizer to tomato production on farmlands damaged by the Great East Japan Earthquake in northern Japan	Book of Abstracts, International Symposium on Growing Media, Composting and Substrate Analysis (SusGro2015)	*, 37	2015.09
木下貴文、山崎浩道、稲本勝彦、山崎博子	春夏期の肥効調節型肥料を用いたトマト閉鎖型養液栽培における硫酸根含有肥料の減肥による尻腐れ果発生の抑制	園芸学研究	14 (別 2)、435	2015.09
村山徹	東北地方の春まきタマネギ栽培における定植前リン酸苗施用の増収効果	日本土壤肥料学会講演要旨集	61、132	2015.09
松尾健太郎、山本岳彦、山崎篤	被災地域におけるアスパラガス伏せ込み栽培の実証試験の取り組みについて	農業環境工学関連 5 学会 2015 年合同大会プログラム集	*, 31	2015.09
山本岳彦、松尾健太郎、山崎篤	キャベツセル苗の定植深度が結球期の耐倒伏性と根系分布へ及ぼす影響	根の研究	24 (3)、93	2015.09

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
齊藤美香、石川吾郎、田中剛(生物研)、片寄裕一(生物研)、金森裕之(生物研)、栗田加奈子(生物研)、千葉洋(東北化学薬品)、中村俊樹	アンプリコンシーケンスによるコムギ遺伝子型決定法の開発状況	育種学研究	17(別2)、6	2015.09
稲本勝彦、木下貴文、山崎博子	ガーベラのクラウン部局所加温は花の発生および花柄伸長を促進する	園芸学研究	14(別2)、282	2015.09
木下貴文	寒冷地におけるセット栽培によるタマネギの秋どり新作型の開発	岩手野菜研究談話会第5回定例会		2015.10
稲本勝彦	クラウン部局所加温によるガーベラの冬季切り花収量の確保	成果報告会「生産現場に革新を起こす施設栽培の最先端技術」		2015.10
塚崎光	タマネギの遺伝資源評価	第5回岩手野菜研究談話会		2015.10
塚崎光	日本のネギの多様性 ～ユニークなネギがいっぱい～	山形在来作物研究会公開フォーラム		2015.10
村山徹	定植前リン酸苗施用によるネギのリン酸減肥栽培	平成27年度東北地域マッチングフォーラム		2015.11
稲本勝彦	ガーベラのクラウン部局所加温による冬季低コスト栽培技術の開発	農林水産省委託プロジェクト研究「施設園芸における熱エネルギーの効率的利用技術の開発」成果発表会		2015.11
山崎篤	東北・北陸地域における新作型開発によるタマネギの端境期生産体系の確立	アグリビジネス創出フェア成果発表会		2015.11
谷口義則	新品種に係わる取り組みについて	岩手中央農業協同組合小麦生産部会矢巾支部研修		2015.11
谷口義則	外国産にひけをとらない国産小麦	第5回農研機構東北農研市民講座		2015.12
村山徹	野菜のリン酸減肥栽培技術 ～ネギの定植前リン酸苗施用技術～	佐藤政行種苗研究会		2016.01

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
村山徹	定植前リン酸苗施用による長ネギの増収とリン酸減肥	革新プロ「東北日本海側水田輪作」現地成果報告会		2016.02
山崎篤	春まきタマネギの栽培技術	市場を意識した産地形成に関する勉強会(第2回)(福島県相双農林事務所主催)		2016.02
谷口義則	「銀河のちから」の栽培状況と課題	大潟村麦類種子生産組合 平成27年度麦類種子生産組合総会 研修会		2016.02
濱野恵、木村文彦(北海道花・野菜技術センター)	イチゴ種子繁殖型品種‘よつぼし’の夏秋どり栽培における長日処理の収量への影響	園芸学研究	15(別1)、307	2016.03
山崎浩道、木下貴文	寒冷地でのイチゴ一季成り性品種の夏秋栽培におけるクラウン冷却処理が出蓄、収量に及ぼす影響	園芸学研究	15(別1)、308	2016.03
池永幸子、谷口義則、伊藤裕之、氷見英子(岡山大学)	寒冷地におけるコムギ・オオムギの生育特性および収量の品種間差異	日本作物学会紀事(別1)	*, 167	2016.03
木下貴文、山崎浩道、稲本勝彦、山崎篤	東北地域のタマネギ春播き夏どり作型における育苗条件の違いが生育および収量に及ぼす影響	園芸学研究	15(別1)、154	2016.03
塚崎光、本城正憲、松尾健太郎、山本岳彦、山崎篤	東北地域向けタマネギ育種に向けた特性データの多変量解析	園芸学研究	15(別1)、150	2016.03
村山徹	品種と施肥量の削減がリーキの収量と品質に及ぼす影響	園芸学研究	15(1)、157	2016.03
猪熊貴之(日本製粉)、新海陽介(日本製粉)、谷口義則、齊藤美香、春原愛(日本製粉)、新畑智也(日本製粉)、Patricia Vrinten(Bioriginal)、中村俊樹	食パンの硬化を軽減する澱粉特性を持つ新たな小麦の開発	育種学研究	18(別1)、220	2016.03
吉田康子(神戸大学)、本城正憲、中澤宏介(高山市役所)、大澤良(筑波大学)	高山市における絶滅した集団由来のサクラソウ個体の探索、および由来推定に重要な条件	第63回日本生態学会大会講演要旨集	*, I1-04	2016.03
其田達也(道総研・北見農試)、蝶野真喜子、石川吾郎、神野裕信(道総研・北見農試)	北海道における軟質秋まき小麦育成系統の休眠型MFT遺伝子の頻度と種子休眠性	育種学研究	18(別1)、190	2016.03

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
山崎篤	東北地域におけるタマネギの春まき作型について	園芸学会春季大会 第 18 回 ネギ類研究小集会		2016.03
木下貴文	東北農業研究センターにおける野菜栽培研究の現状と今後の展望	平成 27 年度野菜茶業試験研究推進会議野菜栽培生理部会 野菜栽培生理研究会		2016.03
村山徹	岩手県沿岸南部における冬春キャベツ栽培技術の確立	岩手野菜研究談話会第 6 回定例会		2016.03
村山徹	定植前リン酸苗施用による野菜のリン酸減肥栽培	野菜栽培改善講習会(埼玉県川越農林振興センター)		2016.03

著書等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
伊藤裕之、池永幸子、谷口義則	ジーンバンク植物部門データベース(農業生物資源研究所)(小麦 KITAMI HARU 14 他 100 系統、大麦 OLD CROMARTY 他 50 系統)	来歴・特性情報検索システム	http://www.gene.affrc.go.jp/plant/kanri/gb_kanri/SEARCH/db/index.html	2015.04
本城正憲	農研機構が育成した機能性がある新品種 ③加熱調理用トマト「すずこま」	農業共済新聞	5 月 1 日 9 面	2015.05
山本岳彦、南出圭祐(石川県農業試験場)、浅木直美(茨城大学)、齋藤雅典(東北大学大学)、伊藤豊彰(東北大学大学)	5.6 新しいタイプの酸性コンポストの機能性と利用 —アシドロコンポストの特性と機能性—	東北大学出版会	183-189	2015.07
村山徹	定植前の苗にリン酸を施用することによるねぎの生育促進とリン酸減肥～初期生育を確保し、リン酸施用を削減～	グリーンレポート(JA 全農営農販売企画部)	553、14-15	2015.07
山崎篤	東北・北陸地域におけるたまねぎの春まき作型を開発	グリーンレポート(全農)	557、14-15	2015.08
本城正憲	極晩生一季成り性イチゴ「豊雪姫」品種紹介パンフレット	農研機構東北農業研究センター品種紹介パンフレット		2015.08

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
本城正憲	寒冷地向け極晩生イチゴ「豊雪姫」	農経しんぼう	8月24日8面	2015.08
中村俊樹、Patricia Vrinten (Bioriginal)、新畑智也(日本製粉)、齊藤美香	Starch modification: a model for wheat MAS breeding	Advances in Wheat Genetics: From Genome to Field	*, 265-273	2015.09
石川吾郎、中村和弘、伊藤裕之、齊藤美香、佐藤三佳子(道総研)、神野裕信(道総研)、吉村康弘(道総研)、西村努(道総研)、前島秀和(長野県)、上原泰(長野県)、中村俊樹	A consistent QTL for flour yield on chromosome 3B in the soft winter wheat variety, Kitahonami	Advances in Wheat Genetics: From Genome to Field	*, 301-307	2015.09
木下貴文、梶田正治(岡山大学)	Environmentally friendly watering system using root-proof capillary wicks for vegetable production	Solanum Lycopersicum: Production, Biochemistry and Health Benefits. Nova Science Publishers, Inc.	111-127	2015.11
本城正憲	極晩生イチゴ「豊雪姫」を育種	日本農業新聞	11月11日13面	2015.11
石川吾郎	秋まき小麦「きたほなみ」から製粉性決定する遺伝子を発見	ニューカントリー	742、102-103	2016.01
濱野恵、山崎浩道、矢野孝喜、森下昌三	四季成り性イチゴの連続開花性の強弱と日長処理による花成誘導効果	平成27年度研究成果情報		2016.03
中村俊樹、新畑智也(日本製粉)、猪熊貴之(日本製粉)、齊藤美香、伊藤裕之、石川吾郎、瀧屋俊幸(日本製粉)、谷口義則、関口哲(日本製粉)	食パンの硬化を低減する澱粉合成遺伝子変異の組合せ	平成27年度研究成果情報		2016.03
稲本勝彦、山崎博子、長菅香織、矢野孝喜	オリエンタル系ユリにおける生育段階ごとの光量と光合成、乾物蓄積との関係	平成27年度研究成果情報		2016.03
川崎光代、大瀧直樹、本田裕、加藤晶子	東北地方の春播き栽培に適するソバ品種候補東北3号	平成27年度研究成果情報		2016.03
本城正憲、由比進、塚崎光、小石原弘明(トヨタ自動車)、榎宏征(トヨタ自動車)、村松正善(トヨタ自動車)、西村哲(トヨタ自動車)	イチゴうどんこ病(レース0)抵抗性に連鎖するDNAマーカー	平成27年度研究成果情報		2016.03

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
本城正憲、布目司、片岡園、矢野孝喜、濱野恵、山崎浩道、山本俊哉、森下昌三、由比進、塚崎光	栽培イチゴの四季成り性に連鎖する SSR マーカー	平成 27 年度研究成果情報		2016.03
松元哲、畠山勝徳、高下新二（日本農林社）、宮崎俊夫（日本農林社）、近藤友宏（日本農林社）	年明けどりに向く根こぶ病抵抗性ハクサイ F1 品種「CR 寒次郎」	平成 27 年度研究成果情報		2016.03
川崎光代	油粕を飼料として利用できるナタネ新品種「きらきら銀河」	東北農業研究センターたより	48、5	2016.03
池永幸子、谷口義則、伊藤裕之	麦の有望品種・系統の評価について（東北地域麦振興協議会資料）	東北地域麦振興協議会（東北農政局生産部生産振興課）資料 1	*、1-8	2016.03

《畜産飼料作研究領域》

原著論文

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
福田栄紀	ネムノキ (<i>Albizia julibrissin</i> Durazz.) がオーチャードグラス (<i>Dactylis glomerata</i> L.) の生育と飼料成分特性に及ぼす影響	日本草地学会誌	61 (1)、1-11	2015.04
内野宙、岩間和人（北海道大学）、実山豊（北海道大学）、弓立敏子（北海道大学）、中村郷久（北海道大学）、Jai Gopal（ICAR）	Interseeding a cover crop as a weed management tool is more compatible with soybean than with maize in organic farming systems	Plant Production Science	18、187-196	2015.04
魚住順	トウモロコシ (<i>Zea mays</i> L.) のかび毒蓄積特性における品種間差	日本草地学会誌	61、115-120	2015.07
作本亮介（生物研）、林憲悟（生物研）、齋藤史織（生物研）、金原浩子（生物研）、木崎景一郎（岩手大学）、伊賀浩輔	Comparison of the global gene expression profiles in the bovine endometrium between summer and autumn	Journal of Reproduction and Development	61 (4)、297-303	2015.08
出口新、魚住順、金子真、嶮野英子	Organic cultivation system of corn-triticale rotation using white clover living mulch	Grassland Science	61、188-194	2015.09

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
久保田明人、秋山征夫、藤森雅博、清多佳子	No decrease in f ratio (ratio of <i>Festuca</i> -specific genome region to the whole genome) in maternally derived progeny of festulolium (<i>Festuca pratensis</i> × <i>Lolium</i> species) across generations	Grassland Science	62、55-60	2016.01

学会発表等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
小松篤司	ウシの咀嚼計と加速度計から行動および姿勢を判別するプログラム	Farm to Table フォーラム		2015.06
福重直輝	ICT を活用した牛発情検知システムの開発	秋田県畜産試験場農業後継者研修		2015.08
藤森雅博、秋山征夫、久保田明人	フェストロリウム「東北1号」「イカロス」「那系1号」	東北農業研究センター牧草育成品種系統セミナー		2015.08
秋山征夫、久保田明人、藤森雅博	東北農研におけるオーチャードグラス育成系統	農研機構東北農業研究センター牧草育成品種系統セミナー		2015.08
藤森雅博、秋山征夫、久保田明人	ペレニアルライグラス「東北7号PR」	東北農業研究センター牧草育成品種系統セミナー		2015.08
秋山征夫、久保田明人、藤森雅博	オーチャードグラス育種の現状と今後の方向	平成27年度 飼料作物育種現地検討会		2015.08
柴伸弥、今成麻衣、米内美晴、渡邊彰	日本短角種の2シーズン放牧における肥育後期の大豆サイレージ給与が増体、枝肉形質および肉質におよぼす影響	日本畜産学会第120回大会	*、55	2015.09
伊賀浩輔、福重直輝	自然哺乳下の黒毛和種における分娩後の子宮修復および機能回復に及ぼす要因	Journal of Reproduction and Development	61、j168	2015.09
深澤充、川畑正寿(青森県畜産研究所)、小松篤司、東山由美	The relationship between Japanese stockperson's attitudes and productivity of dairy cows	Proceeding of 49th Congress of the International Society for Applied Ethology	*、142	2015.09

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
金森香樹(岩手大学)、伊賀浩輔、平田統一(岩手大学)、松原和衛(岩手大学)	ウシの超早期妊娠因子測定用の ELISA の検討	Journal of Reproduction and Development	60、j146	2015.09
藤森雅博、秋山征夫、久保田明人	新規牧草フェストロリウムの特性とその利用について	飼料生産技術現地研修会(家畜改良センター岩手牧場)		2015.10
藤森雅博、秋山征夫、久保田明人	「東北7号PR」の特徴とその利用方法および東北農研育成品種・系統の特徴	セミナー(農作物総合検討会)(山形県)		2015.11
藤森雅博、秋山征夫、久保田明人	「東北7号PR」の特徴とその利用方法および東北農研育成品種・系統の特徴	牧草育種最前線に関する研修会および籾米サイレージ調製の現地検討会(宮城県)		2015.11
福重直輝	低消費電力無線技術を活用した牛の発情検知システムの開発	JST 復興促進センター成果報告会 in 盛岡		2015.11
深澤充	家畜の行動制御による管理作業の安全性、効率の改善	農作業安全セミナー 九州・沖縄版		2015.12
内野宙	子実用トウモロコシ生産に適した品種と収穫時期	平成27年度新技術・普及活動検討会(岩手県中央農業改良普及センター主催)		2016.01
秋山征夫、久保田明人	飼料作物(牧草)の草種・品種見直しによる生産性向上	第一回酪農県集會		2016.02
福田栄紀	寒地型牧草の肥料木・庇陰樹としてのネムノキの特性評価・幹からの距離別にみた牧草と雑草の生育の4年間の推移	日本草地学会誌	62(別)、16	2016.03
小松篤司、深澤充、東山由美、杉浦玲(三菱樹脂)、関矢博幸、大谷隆二、押部明德(国際農林水産業研究センター)	圧碎稲わらの透湿防水シートによる被覆保管が家畜の嗜好性に及ぼす影響	日本畜産学会第121回大会	*, 239	2016.03
東山雅一	放牧草地の可消化養分総量に及ぼす草種と施肥量の影響	日本草地学会誌	62(別)、97	2016.03
東山雅一	放牧草地の植生に及ぼす水飲み場の影響	日本草地学会誌	62(別)、96	2016.03

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
嶮野英子、魚住順、出口新、内野宙	飼料用米サイレージのラッピングマシーンをを用いた簡易調製技術	日本草地学会誌	62(別)、61	2016.03
藤森雅博、秋山征夫、久保田明人	ペレニアルライグラス「東北7号PR」の越夏性と収量性	日本草地学会誌	62(別)、136	2016.03
藤森雅博、谷津英樹(雪印種苗)、秋山征夫、久保田明人、田村健一、横山寛(雪印種苗)、佐藤駿介(雪印種苗)、眞田康治	早生高WSC含量母材系統「PC13OG-B4」の特性	日本草地学会誌	62(別)、137	2016.03
秋山征夫、上山泰史、濱田聖矢(長岡技術科学大学)、久保田明人、加藤大輔、山田・秋山仁美(岩手大学)、高原美規(岩手大学)、藤森雅博	高次倍数性フェストロリウムに生じたゲノム量の減少	日本草地学会誌	62(別)、71	2016.03
山口学	夏期放牧条件下における日本短角種の分娩時の行動	日本畜産学会第121回大会講演要旨	*, 246	2016.03
東山由美、小松篤司、深澤充	哺乳期間の延長が黒毛和種子牛の行動および血液成分におよぼす影響	日本畜産学会第121回大会	*, 245	2016.03
久保田明人、上山泰史、藤森雅博、米丸淳一(農業生物資源研究所)、秋山征夫	耐雪性に優れる四倍体早生イタリアンライグラス系統「東北5号」	日本草地学会	62巻(別)、132	2016.03
深澤充、小松篤司、東山由美、押部明德(国際農林水産研究センター)	加速度計を使って牛の睡眠姿勢時間を計る	第121回日本畜産学会大会講演要旨集	*, 230	2016.03
伊賀浩輔	ゲノム情報を活用した農畜産物の次世代生産基盤技術の開発プロジェクト「繁殖サイクルの短縮や受胎率向上のための技術開発」子宮の生理的機能特性を利用した受胎性評価技術の開発	平成27年度家畜受精卵関連新技術全国会議	*, 45	2016.03

著書等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
山口学	短角牛を代理母に 発育良く収益性向上	日本農業新聞	4月1日14面	2015.04
深澤充	放牧牛の行動	臨床獣医	6月号、46-49	2015.06
柴伸弥	文献紹介	食肉の科学(日本食肉研究会)	56(1)、38、54、58、68	2015.06
深澤充、佐々木正俊(岩手県中央農業改良普及センター)	黒毛和種繁殖雌牛の寒冷地冬季屋外飼養の普及に向けて	畜産技術	723、41-44	2015.08

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
秋山征夫、木村健智(長岡技術科学大学)、久保田明人、藤森雅博、山田・秋山仁美(岩手大学)、高原美規(長岡技術科学大学)、上山泰史	Comparison of genome sizes in reed canarygrass (<i>Phalaris arundinacea</i> L.) exotic and putative native Japanese genotypes by flow cytometry	Japan Agricultural Research Quarterly	49(4)、345-350	2015.10
内野宙、渡辺武(JIRCAS)、Karri Ramu(ICRISAT)、Kanwar L. Sahrawat(ICRISAT)、S. Marimuthu(ICRISAT)、Suhas P. Wani(ICRISAT)、伊藤治(国連大学)	Dynamics of fertilizer nitrogen applied to sweet sorghum (<i>Sorghum bicolor</i> (L.) Moench) in the semi-arid tropics	Japan Agricultural Research Quarterly	49(4)、409-418	2015.10
山口学	日本短角種に出産、哺育された黒毛和種子牛は発育が良い	畜産技術	725、7-12	2015.10
東山由美	飼育環境の違いによるウシのストレス反応は品種間で異なる	東北農業研究センターだより	47、4	2015.11
久保田明人	フェストロリウムにフェスク属のDNAはどれくらい入っている?	東北農業研究センターたより	47、5	2015.11
深澤充、佐々木正俊(岩手県中央農業改良普及センター)	寒冷地における黒毛和種繁殖牛の屋外飼養技術の普及に向けて	養牛の友	11月号、28-31	2015.11
藤森雅博、秋山征夫、久保田明人	ジャイアントミスカンサスの特徴と現地実証試験の様子	ジャイアントミスカンサス研究会		2015.12
嶺野英子	自給高タンパク質源飼料:大豆ホールクロップサイレージの生産と利用	酪農ジャーナル	69、39-41	2016.01
嶺野英子	くず大豆を発酵 TMR 原料として活用する	農業日誌平成 28 年	*、176-177	2016.01
福重直輝、伊賀浩輔、志水学	ICT・複数のセンサを使用し牛の発情を示す乗駕許容行動を判別するシステム	平成 27 年度普及成果情報		2016.02
東山雅一、近藤恒夫、高橋繁男、出口義隆(岩手大学農学部)、成田大展、出口新、村元隆行	日本短角種牛を採草地で冬季放牧する時の家畜管理方法と翌年収量	平成 27 年度研究成果情報		2016.03
池田堅太郎、東山雅一、東山由美	湿潤転換畑での放牧では、耐湿性草種でも踏圧により早期に衰退する	平成 27 年度研究成果情報		2016.03
伊賀浩輔	オキシトシン負荷により分娩後の黒毛和種雌牛の子宮機能回復状況を予測する	平成 27 年度研究成果情報		2016.03
柴伸弥、渡邊彰、樋口幹人、今成麻衣、米内美晴、東山雅一	日本短角種 2 シーズン放牧における肥育中期の目標日増体量は 0.6kg 以上である	平成 27 年度研究成果情報		2016.03
久保田明人、上山泰史、藤森雅博、秋山征夫、米丸淳一(農業生物資源研究所)	耐雪性に優れる早生イタリアンライグラス新品種候補系統「東北 5 号」	平成 27 年度研究成果情報		2016.03

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
小松篤司、深澤充、東山由美、 関矢博幸、杉浦玲(三菱樹脂)、 大谷隆二、押部明德(国際農林 水産業研究センター)	濃厚飼料を多給した黒毛和種去勢牛 に対する圧砕稲わら給与がルーメン 内 pH に与える影響および圧砕稲わ らの市販透湿防水シートによる被覆 保管が嗜好性に及ぼす影響	東北農業研究セ ンター研究報告	118号、79-85	2016.03

《生産環境研究領域》

原著論文

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
工藤洋晃(岩手大学)、工藤一晃、 上村松生(岩手大学)、河合成 直(岩手大学)	Magnesium inhibits cadmium translocation from roots to shoots, rather than the uptake from roots, in barley	Botany	93、345-351	2015.06
L. Chen (Lanzhou University)、 G. A. Swoboda (S.R.Noble Foundation)、C. A. Young (S. R. Noble Foundation)、 菅原幸哉、A. Leuchtmann (ETH Zurich)、C. L. Schardl (University of Kentucky)	Two distinct <i>Epichloe</i> species <i>symbiotic</i> with <i>Achnatherum inebrians</i> , drunken horse grass	Mycologia	107 (4)、 863-873	2015.08
辻盛生(岩手県立大学)、加藤 邦彦、菊池福道(小岩井農牧)、 佐々木理史(小岩井農牧)	鶏舎洗卵所排水に適用した間欠鉛直 流式人工湿地の開始3年間の浄化効 果	水環境学会誌	38 (5)、149-157	2015.09
熊谷悦史、青木直大(東京大学)、 舛谷悠祐(岩手大学)、下野裕 之(岩手大学)	Phenotypic plasticity conditions the response of soybean seed yield to elevated atmospheric CO ₂ concentration	Plant Physiology	169 (3)、 2021-2029	2015.11
中嶋美幸、Weiguo Cheng (山 形大学)、Shuirong Tang (岩 手大学)、堀泰明(山形大学)、 八木沼瑛子(山形大学)、服部 聡(山形大学)、花山熒(山形 大学)、俵谷圭太郎(山形大学)、 Xingkai Xu (中国科学院)	Modeling aerobic decomposition of rice straw during the off-rice season in an andisol paddy soil in a cold region of Japan: effects of soil temperature and moisture	Soil Science and Plant Nutrition	62 (1)、90-98	2016.01
張曉萌(北海道大学)、井上京 (北海道大学)、加藤邦彦、原田 純(北海道大学)、泉本隼人(北 海道大学)、呉姐(北海道大学)、 家次秀浩(たすく)、菅原保英	Performance of hybrid subsurface constructed wetland system for piggery wastewater treatment	Water Science and Technology	73 (1)、13-20	2016.01

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
原田純(北海道大学)、井上京(北海道大学)、加藤邦彦、泉本隼人(北海道大学)、張曉萌(北海道大学)、櫻木宏明(北海道大学)、呉姐(北海道大学)、家次秀浩(たすく)、菅原保英	Long term nitrogen compound removal trends of a hybrid subsurface constructed wetland treating milking parlor wastewater throughout its 7 years of operation	Water Science and Technology	73(5)、1018-1024	2016.03

学会発表等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
程為国(山形大学)、堀泰明(山形大学)、湯水栄(岩手大学)、花山奨(山形大学)、俵谷圭太郎(山形大学)	東北黒ボク水田土壌における稲わら分解に及ぼす温度と水分の影響	日本土壌肥料学会東北支部会講演要旨集	*、4	2015.07
中嶋美幸、程為国(山形大学)、堀泰明(山形大学)、湯水栄(岩手大学)、花山奨(山形大学)、俵谷圭太郎(山形大学)	東北黒ボク水田土壌における稲わら分解に及ぼす温度と水分の影響	日本土壌肥料学会東北支部会講演要旨集	*、4	2015.07
戸上和樹、三浦憲蔵、伊藤久美子(東北大学)、菅野均志(東北大学)、高橋正(東北大学)、南條正巳(東北大学)	湛水培養下で生成したビビアナイトに対する元素の親和性	日本土壌肥料学会東北支部大会平成 27 年度秋田大会 講演要旨	*、5	2015.07
加藤邦彦、井上京(北海道大学)、家次秀浩(たすく)、辻盛生(岩手県立大学)、菅原保英、張曉萌(北海道大学)、泉本隼人(北海道大学)、青木和彦、戸上和樹、工藤一晃、三浦憲蔵、岡紀邦	有機性排水を浄化する多段型伏流式人工湿地ろ過システムの処理効果と設計・管理方法	日本土壌肥料学会東北支部大会平成 27 年度秋田大会 講演要旨	*、7	2015.07
青木和彦、戸上和樹、三浦憲蔵	根圏冷却とアパタイト系資材施用による夏作ハウレンソウのカドミウム濃度低減	日本土壌肥料学会東北支部大会 H27 年度秋田大会講演要旨	*、2	2015.07
加藤邦彦	伏流式人工湿地ろ過システムによる高濃度有機性排水の浄化処理	平成 27 年度第 2 回霞ヶ浦勉強会		2015.07
善林薫、鬼頭英樹、芦澤武人、鈴木文彦	SSR 遺伝子型を用いた圃場いもち病菌の拡散の評価	日本植物病理学会報	81(3)、231	2015.08
田淵研、土田浩治(岐阜大)、滝久智(森林総研)、諏訪順子(茨城農研農総セ)、横須賀知之(茨城農研農総セ)	Seasonal abundances of a bean bug and its natural enemy in seminatural and arable habitats in agricultural landscapes	XVIII. International Plant Protection Congress (IPPC) 2015	*、102	2015.08

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
鬼頭英樹、善林薫	イネいもち病圃場抵抗性遺伝子 Pi34 が病斑形成と PAL 経路に与える影響	日本植物病理学会報	81 (3)、245	2015.08
加藤邦彦	伏流式人工湿地浄化法 10 年間の歩みと排水処理用人工湿地マニュアルの準備	第 10 回人工湿地ワークショップ 2015 in 別海・中標津、研究事例発表会、基調講演		2015.08
吉田めぐみ、藤井直哉 (秋田県農業試験場)、善林薫、大久保さゆり、小林隆 (山形大学)	気象情報等に基づくイネいもち病の無人ヘリによる効率的防除の現地実証試験 ～秋田県現地における実証試験推進状況の紹介～	EBC 研究会ワークショップ 2015		2015.09
戸上和樹、工藤一晃、青木和彦、加藤邦彦、三浦憲蔵	アパタイト系資材施用によるハウレンソウ可食部カドミウム濃度の低減効果	日本土壌肥料学会講演要旨集	61、173	2015.09
加藤邦彦、井上京 (北海道大学)、家次秀浩 (たすく)、菅原保英、張曉萌 (北海道大学)、泉本隼人 (北海道大学)、青木和彦、戸上和樹、工藤一晃、三浦憲蔵	ハイブリッド伏流式人工湿地ろ過システムにおけるリン浄化機能の持続性と強化策	日本土壌肥料学会講演要旨集	61、163	2015.09
加藤邦彦、井上京 (北海道大学)、家次秀浩 (たすく)、菅原保英、原田純 (北海道大学)、張曉萌 (北海道大学)、泉本隼人 (北海道大学)	Estimation of seasonal change of treatment performance by adjusting temperature coefficient for hybrid wetland systems treating agricultural wastewater in cold climate	6th International Symposium on Wetland Pollutant Dynamics and Control, Sep. 2015, York, United Kingdom, Book of Abstracts	*, 270-271	2015.09
菅原幸哉、久保田明人、荒川明、熊谷悦史、中嶋美幸、藤森雅博	Variation of seed transmission ratio of an endophytic fungus, <i>Epichloë occultans</i> (syn. <i>Neotyphodium occultans</i>), after polyploidization of the host plant (<i>Lolium multiflorum</i> : Italian ryegrass) and effect from temperature during heading	Proceedings of 9th International Symposium on Fungal Endophytes of Grasses and 1st International Symposium on Plant Microbiomes	*, 54-55	2015.09
川方俊和	水稻の出穂期を面的に予測する数値モデルの検証	農業環境工学関連 5 学会 2015 年合同大会プログラム	*, 45	2015.09

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
青木和彦、戸上和樹、三浦憲蔵	冬作ハウレンソウの品種による部位別カドミウム濃度変動と収穫前地温による影響	日本土壤肥料学会講演要旨集	61、173	2015.09
工藤一晃、加藤邦彦、戸上和樹、青木和彦、三浦憲蔵	窒素肥料の種類がレタスのカドミウム吸収に及ぼす影響の検討	日本土壤肥料学会講演要旨集	61、173	2015.09
泉本隼人(北海道大学)、井上京(北海道大学)、加藤邦彦、原田純(北海道大学)、張曉萌(北海道大学)、家次秀浩(たすく)、菅原保英	3つの実規模ハイブリッド伏流式人工湿地におけるリン除去特性	平成 27 年度 農業農村工学会大会講演会講演要旨集	*, 634-635	2015.09
張曉萌(北海道大学)、井上京(北海道大学)、加藤邦彦、原田純(北海道大学)、泉本隼人(北海道大学)、家次秀浩(たすく)、菅原保英	Performance of hybrid constructed wetland systems for high content wastewater treatment in cold climate	6th International Symposium on Wetland Pollutant Dynamics and Control, Sep. 2015, York, United Kingdom, Book of Abstracts	*, 275-276	2015.09
井上京(北海道大学)、泉本隼人(北海道大学)、加藤邦彦、張曉萌(北海道大学)、原田純(北海道大学)、家次秀浩(たすく)、菅原保英	Phosphorus removal in three full-scale hybrid subsurface constructed wetland systems	6th International Symposium on Wetland Pollutant Dynamics and Control, Sep. 2015, York, United Kingdom, Book of Abstracts	*, 248-249	2015.09
川方俊和	水稻の出穂期を面的に予測する数値モデルの開発と最近 5 年間の検証	東北の農業気象、講演要旨	60、11	2015.11
門田育生	転炉スラグを用いた持続的土壌 pH 矯正による土壌伝染性フザリウム病の被害軽減効果	日本植物病理学会九州部会シンポジウム		2015.11
永坂厚	「ウリ科野菜ホモプシス根腐病被害回避マニュアル」に基づいた予防的な防除体系の実証	「農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業研究成果発表会」(アグリビジネス創出フェア内)		2015.11

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
永坂厚	『ウリ科野菜ホモプシス根腐病被害回避マニュアル』および『追補版』について	農業環境技術公開セミナー in 秋田ー環境と食の安全を守る農業環境研究ー		2015.11
門田育生	土壌病害の被害軽減機構の解明とその利用①被害軽減機構解明の試み	東北農業研究センターシンポジウム		2015.11
青木和彦、戸上和樹、三浦憲蔵	セル成型苗移植による冬作ホウレンソウカドミウム濃度の低減	東北農業研究	68、151-152	2015.12
門田育生	転炉スラグを用いた土壌 pH 矯正による土壌病害の被害軽減技術	第 21 回農作物病害虫防除フォーラム		2015.12
永坂厚	すいか急性萎凋症について	平成 27 年度新潟砂丘地園芸研修会 (主催: 新潟砂丘地園芸振興協議会)		2016.01
田淵研	斑点米カメムシ類の生態と防除対策	H.27 年度福島県病害虫防除員研修会農作物病害虫防除公開セミナー		2016.01
門田育生	土壌病害の被害軽減は転炉スラグを用いた pH 矯正が効果的	2016 年農業問題研究会		2016.01
吉田めぐみ、藤井直哉 (秋田県農業試験場)、善林薫、小林隆 (山形大学)、南野謙一 (岩手県立大学)、倉内賢一 (青森産技セ農林総研)、上野清 (山形農総研水田農試)、大久保さゆり	気象情報等に基づく無人ヘリによる適期防除と減農薬栽培	革新的技術緊急展開事業「東北日本海側水田輪作」平成 27 年度現地成果報告会 (秋田県)		2016.02
吉田めぐみ、藤井直哉 (秋田県農業試験場)、善林薫、大久保さゆり、小林隆 (山形大)	GoogleMap 版 BLASTAM を活用した無人ヘリによるイネいもち病適期防除の秋田県における現地実証試験	日本植物病理学会報	82、39	2016.02
田淵研、高橋良知 (秋田県農業試験場)、降幡駿介、奥寺繁 (北海道教育大学)、高橋明彦	水田内外の環境評価による斑点米カメムシ被害リスクの検討: 能代市の事例	第 69 回北日本病害虫研究発表会		2016.02
門田育生、岩間俊太 (青森県産業技術センター農林総合研究所)	転炉スラグ施用による土壌 pH 矯正と抵抗性台木への接木とを併用したトマト青枯病の発病抑制	日本植物病理学会報	82、44	2016.02
倉内賢一 (青森県産業技術センター農林総合研究所)、石岡将樹 (青森県産業技術センター農林総合研究所)、吉田めぐみ	GoogleMap 農作物警戒情報を活用した無人ヘリによるイネいもち病の適期防除と減農薬防除の検討	第 69 回北日本病害虫研究発表会		2016.02

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
菅原幸哉	水稲有機栽培に利用可能な病害虫防除技術 ～開発が進む新技術と温故知新～	農食事業「機械除草技術を中核とした水稲有機栽培システムの確立と実用化」および緊プロ事業「水田用除草装置の開発」成果発表会 「水稲の有機栽培に利用可能な技術・機械の開発と現場での実践」 (島根会場: 朱鷺会館、島根県出雲市西新町 2 丁目 2456-4)		2016.02
門田育生、岩間俊太 (青森県産業技術センター農林総合研究所)	ケイ酸カルシウムは低密度のトマト青枯病菌 (<i>Ralstonia solanacearum</i>) の生育を抑制する	平成 28 年度日本植物病理学会大会プログラム・講演要旨予稿集	*、524	2016.03
永坂厚、門田育生	転炉スラグおよびケイ酸カルシウム粉末上におけるホモプシス根腐病菌の伸長抑制	平成 28 年度日本植物病理学会大会プログラム・講演要旨予稿集	*、110	2016.03
熊谷悦史	ダイズ個葉の光化学系に関連するパラメータの遺伝的多様性について	日本作物学会第 241 回講演会要旨集	*、191	2016.03
熊谷悦史、山田哲也	早晩性遺伝子座 E4 が寒冷地ダイズの温暖化応答に及ぼす影響	日本農業気象学会 2016 年全国大会講演要旨集	*、63	2016.03
大久保さゆり、菅野洋光、黒瀬義孝	統計的手法による結露時間の推定	日本農業気象学会 2016 年全国大会	*、126	2016.03
加藤邦彦、井上京 (北海道大学)、家次秀浩 (たすく)、菅原保英、張曉萌 (北海道大学)、泉本隼人 (北海道大学)、青木和彦	畜産排水を浄化する多段型ハイブリッド伏流式人工湿地の処理水質の推定と温度依存性	第 50 回日本水環境学会年会講演集、2016 年、徳島	*、564	2016.03
田淵研、降幡駿介、高橋明彦、奥寺繁 (北海道教育大学)、日本典秀	トラップ色と設置場所の植生がヒメハナカメムシ類捕獲数に及ぼす影響	日本昆虫学会第 76 回大会・第 60 回日本応用動物昆虫学会大会合同大会講演要旨	*、226	2016.03

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
川方俊和	水稻の面的出穂期予測モデルの開発と東北地方への検証	日本農業気象学会 2015 年全国大会講演要旨	*、59	2016.03
菊池慎二 (岩手大学)、Raju Bheemanahall (IRRI)、Krishna Jagadish (IRRI)、熊谷悦史、舛谷悠祐 (岩手大学)、黒田栄喜 (岩手大学)、下野裕之 (岩手大学)	高濃度 CO ₂ 適応性におけるインド型イネ品種のゲノムワイド関連解析	日本作物学会第 241 回講演会要旨集	*、125	2016.03
三輪恵実 (筑波大学)、岡根泉 (筑波大学)、石賀康弘 (筑波大学)、菅原幸哉、山岡裕一 (筑波大学)	日本産ヤマカモジグサを宿主とする <i>Epichloë</i> 属菌の分類学的帰属の再検討	平成 28 年度日本植物病理学会大会プログラム・講演要旨予稿集	*、73	2016.03
辻盛生 (岩手県立大学)、加藤邦彦、家次秀浩 (たすく)、川村輝雄 (たすく)	伏流式人工湿地と活性汚泥法の組み合わせによる酪農パーラー排水処理	第 50 回日本水環境学会年会講演集、2016 年、徳島	*、391	2016.03
松尾和典 (九州大学)、富田真理沙 (東京農業大学)、三田敏治 (九州大学)、田渕研、高橋明彦、降幡駿介	卵塊設置によるクサギカメムシ卵寄生蜂調査	日本昆虫学会第 76 回大会・第 60 回日本応用動物昆虫学会大会合同大会講演要旨	*、82	2016.03
田渕研、仲島義貴 (京都大学)、滝久智 (森林総研)	趣旨説明：害虫管理と景観生態学：実践的な事例の紹介	日本昆虫学会第 76 回大会・第 60 回日本応用動物昆虫学会大会合同大会講演要旨	*、272	2016.03
田渕研、高橋良知 (秋田県農業試験場)、降幡駿介、奥寺繁 (北海道教育大学)、高橋明彦	水田内外の環境評価による斑点米カメムシ被害のリスク評価：能代市での 2 年間の調査から	秋田植物保護談話会		2016.03

著書等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
門田育生、今崎伊織	転炉スラグによる土壌 pH 矯正が野菜の細菌性病害の発生に与える影響	転炉スラグによる土壌 pH 矯正を核とした土壌伝染性フザリウム病の被害軽減技術 研究成果集 (詳細版)	39-46	2015.07

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
永坂厚	転炉スラグによる土壌 pH 矯正がナス半身萎凋病の発病程度に与える影響	転炉スラグによる土壌 pH 矯正を核とした土壌伝染性フザリウム病の被害軽減技術－研究成果集(詳細版)－(東北農業研究センター)	*, 47-48	2015.08
門田育生	プロジェクトの目的と取り組み内容	転炉スラグによる土壌 pH 矯正を核とした土壌伝染性フザリウム病の被害軽減技術－研究成果集(詳細版)－	*, 1-4	2015.08
門田育生	持続的な土壌 pH 管理で土壌病害の被害を軽減させる	土づくりとエコ農業	47、87-89	2015.09
三浦憲蔵、伊藤豊彰(東北大学)、石黒宗秀(北海道大学)	津波被災農地土壌の実態調査と除塩対策に関する総説の概略	日本土壌肥科学雑誌	86(5)、379-380	2015.10
三浦憲蔵	津波被災農地の実態調査 8. 東北地域の津波被災農地土壌の実態調査	日本土壌肥科学雑誌	86(5)、415-417	2015.10
門田育生	土壌 pH 矯正で土壌伝染性フザリウム病の被害を軽減させる	平成 28 年度版農業日誌(農林統計協会)		2015.10
三浦憲蔵	津波被災農地の除塩対策 16. 東北地域の津波被災農地土壌の除塩対策	日本土壌肥科学雑誌	86(5)、459-462	2015.10
青木和彦	葉菜類のカドミウム濃度低減技術の開発－収穫前低温処理と低吸収品種・資材施用による低減－	食品総合研究所研究成果展示会 2015		2015.11
青木和彦	収穫前低温処理によるカドミウム濃度低減－地温が低いほど葉菜類の硝酸含量・カドミウム濃度が低下－	食品総合研究所研究成果展示会 2015		2015.11
門田育生	東北農研シンポジウム「転炉スラグは有望な農業資材となり得るか?－農業分野での技術開発の可能性を探る－	東北農業研究センターたより	48、8	2016.02
永坂厚	キュウリ病気「ホモプシス根腐病」(改訂)農業総覧 病害虫診断防除編 第 2 - ②巻	農山漁村文化協会	追録 46、108、111-116	2016.02
永坂厚	キュウリ病気「ホモプシス根腐病」(改訂)農業総覧 病害虫防除資材編 第 2 巻	農山漁村文化協会	追録 21、675-679	2016.02

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
三浦憲蔵、戸上和樹、吉住佳与、 工藤一晃、青木和彦、加藤邦彦、 屋代幹雄、松尾健太郎、加藤信	苦土石灰のうね内部分施用と低吸収 性ダイズ品種による子実カドミウム 濃度低減	平成 27 年度普及 成果情報		2016.03
加藤邦彦、井上京(北海道大学)、 家次秀浩(たすく)、菅原保英、 辻盛生(岩手県立大学)、原田 純(北海道大学)、張曉萌(北 海道大学)、泉本隼人(北海道 大学)、青木和彦	伏流式人工湿地ろ過システムは有機 排水を冬期も含め長期間安定して浄 化できる	平成 27 年度普及 成果情報		2016.03
田淵研	東北地域における 2003-2013 年の斑 点米カメムシ類の発生と被害の傾向	平成 27 年度研究 成果情報		2016.03
熊谷悦史、青木直大(東京大学)、 舩谷悠祐(岩手大学)、下野裕 之(岩手大学)	大気 CO ₂ 濃度上昇によるダイズの 収量増加における品種間差	平成 27 年度研究 成果情報		2016.03

《水田作研究領域》

原著論文

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
藤井健一郎(農業生物資源研究 所)、加藤信、佐山貴司(農業 生物資源研究所)、 田中佑(京都大学)、中崎鉄也 (京都大学)、石本政男(農業生 物資源研究所)、白岩立彦(京 都大学)	Stability verification of the effects of stem determination and earliness of flowering on green stem disorder of soybean against genetic background and environment	Plant Production Science	18(2)、166-179	2015.04
西田瑞彦、芳村裕之(日立マク セル)、高橋智紀、中山壮一	スマートフォン装着用の接触型接写 レンズを用いた水稻葉デジタル写真 の画像データと SPAD 値との関係	日本土壤肥料学 雑誌	86(3)、202-206	2015.06
福嶋陽、太田久稔、梶亮太、津 田直人	生産力検定試験成績を利用した水稻 の収量形成要因の解析	日本作物学会紀 事	84、249-264	2015.07
戸田恭子、平田香里、増田亮一、 安井健、山田哲也、高橋浩司、 永谷妙子、羽鹿牧太	Relationship between mutations of the pectin methylesterase gene in soybean and the hardness of cooked beans	Journal of Agricultural and Food Chemistry	63、8870-8878	2015.09
大平陽一、佐々木良治	温暖地西部における飼料イネ種子の 土中埋設時期が越冬後の発芽力に及 ぼす影響	日本作物学会紀 事	84、345-350	2015.10

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
白土宏之、大平陽一、山口弘道、 福田あかり	寒冷地の水稲催芽種子の代かき同時 湛水直播栽培における代かき回数と 播種様式が苗立ち・収量に与える影 響	日本作物学会紀 事	84、426-431	2015.10
福嶋陽、太田久稔、梶亮太、津 田直人	東北地域の飼料用水稲品種における 温湯消毒および低温浸種が種子の発 芽率に及ぼす影響	日本作物学会紀 事	84、439-444	2015.10
石黒浩二、持田秀之、安江紘幸	岩手県三陸沿岸における有色バレイ シヨの収量及び品質	日本作物学会東 北支部会報	58、39-40	2015.12
津田直人、太田久稔、山口誠之、 福嶋陽、梶亮太、中込弘二、 片岡知守、遠藤貴司(宮城県古 川農業試験場)、横上晴郁	水稲新品種「えみのあき」の主要特 性	東北農業研究	68、1-2	2015.12
福嶋陽、経塚淳子(東北大学)、 前川雅彦(岡山大学)、太田久稔、 梶亮太、津田直人、吉田明希子 (東北大学)、徳永浩樹(東北大 学)	<i>TAWAWA</i> 遺伝子および <i>APOI</i> 遺伝子 がイネの分げつ性に及ぼす影響	日本作物学会東 北支部会報	58、17-18	2015.12
福嶋陽、林高見、太田久稔、 梶亮太、津田直人	東北地域の水稲品種・系統における 花粉数と耐冷性の関係	日本作物学会東 北支部会報	58、19-20	2015.12
菅野博英(宮城県古川農業試験 場)、白土宏之、佐々木哲(小 泉商事)、牧原邦充(クボタ)	水稲鉄コーティング湛水直播栽培に おける種子の保存期間が発芽と苗立 ちに及ぼす影響	日本作物学会東 北支部会報	58、27-28	2015.12
大竹智美(山形大学)、本多祐 介(山形大学)、荒木宝(山形 大学)、白土宏之、菅原金一(石 井製作所)、片平光彦(山形大 学)、夏賀元康(山形大学)	水稲の代かき同時散播機の作業特性	農業食料工学会 東北支部報	62、9-12	2015.12
浅野目謙之(山形県農業総合研 究センター)、伊藤真智子(山 形県農業総合研究センター)、 後藤元(山形県農業総合研究セ ンター)、一戸每子(山形県農 業総合研究センター)、 三浦浩(山形県農業総合研究セ ンター)、白土宏之	水稲の代かき同時湛水直播栽培にお ける栽培特性	日本作物学会東 北支部会報	58、33-34	2016.01
島村聡、西村岳志(生物研)、 小柴共一(首都大学東京)、 山本亮、平賀勸、中村卓司、上 野(小松)節子	Effects of anti-auxins on asecondary aerenchyma formation in flooded soybean hypocotyls	Plant Production Science	19(1)、154-160	2016.02
西田瑞彦、佐藤雄太(全農秋田 県本部)	Areal variation in the relationship between natural ^{15}N abundances of rice and soil	Soil Science and Plant Nutrition	62、48-51	2016.02

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
加藤信、高田吉丈、島村聡、 平田香里、菊池彰夫、佐山貴司、 石本政男、田口文緒（農業生物 資源研究所）、西尾剛（東北大学）	Transfer of the <i>Rsv3</i> locus from 'Harosoy' for resistance to <i>soybean</i> <i>mosaic virus</i> strains C and D in Japan	Breeding Science	66(2)、319-327	2016.03

学会発表等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
川名義明	東北地域の水稲湛水直播栽培におけ る深水管理を活用した除草体系の適 用性	日本雑草学会第 54回大会講演要 旨集	*、114	2015.04
白土宏之	「萌えみのり」の栽培	萌えみのりの栽 培研修会(JA登 米)		2015.04
白土宏之	東北地域における直播適性品種を用 いた鉄コーティング直播栽培	農業機械化研修		2015.06
白土宏之	東北地域における直播適性品種を用 いた鉄コーティング直播栽培	平成27年度新技 術農業機械化推 進研修「低コス ト・省力化のた めの大規模水田 営農コース」		2015.06
高橋智紀、西田瑞彦、吉田光二 (ジェイカムアグリ株式会社)	育苗箱全量基肥施肥栽培における苗 箱の水分環境	日本土壤肥料学 会東北支部大会 平成27年度秋田 大会	*、6	2015.07
西田瑞彦	スマートフォン装着用のレンズを用 いた水稲の葉色値推定法の検討	平成27年度東北 農業試験研究推 進会議生産環境 推進部会土壤肥 料研究会		2015.07
渡邊寛明	問題となる水田雑草の発生態と防 除対策	第3回宮城県水 稲病虫害雑草防 除情報交換会		2015.07
浪川茉莉、中嶋孝幸(東北大学)、 国分牧衛(東北大学)	ダイズ播種時の湿害軽減を目指した 種子塗布物質の探索	日本作物学会東 北支部会報	58、53-54	2015.08
白土宏之	水稲直播栽培における倒伏防止対策	平成27年度水稲 直播栽培技術研 修会(宮城県)		2015.08

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
西田瑞彦	水稲・大豆の輪換田での地力と土作り	大豆シンポジウム in 青森 (東北地域大豆振興協議会)		2015.08
渡邊寛明	大豆畑で問題となる帰化雑草の特徴と対策の基本	東北大豆シンポジウム in あおもり		2015.08
高橋智紀、吉田修一郎 (東京大学)、西田瑞彦	Effect of drying, reduction, and puddling on pore size distribution of clayey soil from observation with mercury intrusion porosimetry	20th International Soil Tillage Research Organization Conference	*、79	2015.09
高橋智紀、片山勝之、西田瑞彦	地下水制御システムと根系制御を組み合わせたダイズの乾燥ストレス緩和技術	日本土壌肥料学会講演要旨集	61、102	2015.09
白土宏之、川名義明、安藤正 (山形県農業総合研究センター水田農業試験場)、 浅野目謙之 (山形県農業総合研究センター)、 松田晃 (山形県農業総合研究センター水田農業試験場)、 片平光彦 (山形大学)、小野洋 (日本大学)、菅原金一 (石井製作所)、伊藤景子、大平陽一、山口弘道	寒冷地の現地圃場における水稲催芽種子を用いた代かき同時湛水直播の作業性、苗立および収量	日本作物学会第 240 回講演会要旨集	*、5	2015.09
大平陽一、白土宏之	石灰窒素の水稲発生抑制効果に及ぼす施用後の耕起時期の影響	日本作物学会第 240 回講演会要旨集	*、11	2015.09
西田瑞彦、土屋一成、高橋智紀	Can nitrate supply improve internal efficiency of paddy rice under field conditions?	Conference Proceedings, 12th International Conference of the East and Southeast Asia Federation of Soil Science Societies	*、91-92	2015.09
西田瑞彦、芳村裕之 (日立マクセル株式会社)、高橋智紀、中山壮一	スマートフォン装着用接写レンズを用いた水稲葉写真による SPAD 値推定の可能性	日本土壌肥料学会講演要旨集	61、128	2015.09

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
渡邊寛明	雑草イネとは何かー発生経過や被害にみられる海外との違いー	日本作物学会第240回講演会シンポジウム	*、144	2015.09
吉田修一郎(東京大学)、高橋智紀、木坂康隆(東京大学)、西田和弘(東京大学)	Effect of redox condition on water retention of deformable paddy soil	20th International Soil Tillage Research Organization Conference	*、77	2015.09
菅野博英(宮城県古川農業試験場)、白土宏之、牧原邦充(クボタ)、佐々木哲(小泉商事)、北川誉紘(宮城県古川農業試験場)、門間由美子(宮城県古川農業試験場)	水稻鉄コーティング直播栽培における倒伏軽減法の検討 第1報 品種と播種量の関係	日本作物学会第239回講演要旨集	14	2015.09
Dongyan Liu(名古屋大学)、西田瑞彦、土屋一成、高橋智紀、浅川晋(名古屋大学)	Response of active community of methanogenic archaea in paddy field soil to a management of paddy-upland rotation	日本土壤肥料学会講演要旨集	61、31	2015.09
Dongyan Liu(名古屋大学)、西田瑞彦、土屋一成、高橋智紀、浅川晋(名古屋大学)	The changes of active community of methanogenic archaea in paddy field soil in response to a management of paddy-upland rotation	Conference Proceedings, 12th International Conference of the East and Southeast Asia Federation of Soil Science Societies	*、134	2015.09
高橋智紀	田畑輪換が形成する土壌構造と根圏環境	水田肴の会		2015.09
西田瑞彦	重窒素自然存在比による有機産米判別の可能性と課題	重窒素圃場利用研究会討論会(重窒素圃場利用研究会)		2015.09
白土宏之	「萌えみのり」の栽培	「産地指定需給米生産部会」設立総会(JA秋田ふるさと)		2015.09
渡邊寛明	Present status and management approaches of weedy rice in Japan	Proceedings I of the 25th Asian-Pacific Weed Science Society Conference	*、12	2015.10

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
西田瑞彦	田畑輪換畑での大豆栽培における土壌窒素肥沃度低下	土づくり研究会 (土づくり肥料推進協議会)		2015.10
白土宏之	種子コーティング不要！ シンプルな水稲湛水直播栽培 —無コーティング代かき同時湛水直播による省力低コスト安定生産技術—	秋田県種苗交換会		2015.10
西田瑞彦	田畑輪換による水田土壌の地力の変化とその対策	土づくりに関するセミナー(富山県農林水産業技術センター)		2015.10
延里充弘(名古屋大学)、高橋宏和(名古屋大学)、平賀勲、島村聡、中園幹生(名古屋大学)	ダイズにおける二次通気組織形成の分子機構の解明	第 23 回育種学会中部地区談話会		2015.11
白土宏之	無コーティング種子代かき同時播種機 —水稲の低コスト生産を実現—	アグリビジネス創出フェア		2015.11
福嶋陽	東北農研が育成した水稲品種における低温発芽性および低温伸長性	秋田育種談話会		2015.12
高橋智紀	大潟村における FOEAS 利用の実際と課題	万能水田実証事業報告・検討会		2016.01
高橋智紀	大豆栽培における土壌管理について	大豆栽培モデル対策事業実績検討会		2016.01
島村聡	大豆における湿害の現状とその要因	東北農業試験研究推進会議畑作物推進部会		2016.01
白土宏之	古代稲生産組合研修会資料	古代稲生産組合研修会		2016.01
横上晴郁	東北農業研究センターで育成した加工用品種	平成 27 年度東北農業試験研究推進会議「流通・加工」研究会		2016.02
白土宏之	無コーティング代かき同時播種栽培の紹介	平成 27 年度登米市水稲直播栽培成果報告会		2016.02
白土宏之	大規模稲作経営に対応した省力・低コスト稲作技術	西北型大規模稲作省力・低コスト技術フォーラム		2016.02

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
川名義明、白土宏之	無コーティング代かき同時播種水稻 直播栽培における除草剤の薬害と水 管理の関係	日本雑草学会第 55 回大会講演要 旨集	*, 118	2016.03
白土宏之	萌えみのりの栽培技術	萌えみのり栽培 研修会		2016.03
白土宏之	「収益性を確保する省力低コスト技 術」 - (農) 能代グリーンファー ム常盤で実証した技術の紹介 -	平成 28 年度能代 山本稲作経営研 究会		2016.03
白土宏之	東北地域における直播適性品種を用 いた鉄コーティング直播栽培	鉄コーティング 水稻直播栽培研 修会		2016.03
白土宏之	水稻無コーティング種子の代かき同 時播種栽培の紹介と水稻の低コスト 生産技術の展望	農業食料工学会 農業機械部会セ ミナー		2016.03

著書等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
大平陽一	石灰窒素施用による漏生イネの発生 低減	植調	49 (7)、7-10	2015.10
西田瑞彦	田畑輪換圃場の地力維持	日本農業新聞	10 月 28 日 16 面	2015.10
高階史章 (秋田県立大学)、西 田瑞彦、浅川晋 (名古屋大学)	第 12 回東・東南アジア土壌科学連 合会議 (12th ESAFS) 報告	日本土壌肥科学 雑誌	86、600	2015.12
大平陽一	石灰窒素の秋季施用による漏生イネ の発生低減	石灰窒素だより	150、4-6	2015.12
高橋智紀	世界の土・日本の土は今 地球環境・ 異常気象・食糧問題を土からみると	一般社団法人農 産漁村文化協会	90-96	2015.05
西田瑞彦	世界の土・日本の土は今 地球環境・ 異常気象・食料問題を土からみると: 田んぼと水田土壌が支えてきた「も の」と「こと」	農山漁村文化協 会	79-89	2015.05
白土宏之	産業用無人ヘリコプターを利用した 水稻鉄コーティング湛水直播栽培	植調	49 (2)、10-15	2015.05
西田瑞彦	水稻品質向上に対応する肥培管理技 術<穂肥編>	農業共済新聞	5 月 27 日 8 ~ 9 面	2015.05
平田香里	蒸煮大豆の硬さを加工せずに予測で きる DNA マーカー	東北農業研究セ ンターたより	46、2	2015.07
太田久稔	パンに適した米粉が製造できる水稻 新品種「ゆめふわり」	グリーンレポー ト	554、14-15	2015.08

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
西田瑞彦	気温データによる肥効調節型肥料の溶出推定の精度改善法	農業と科学	2015年8/9月号、1-5	2015.08
大平陽一	落下種子対策	飼料用米の生産・給与技術マニュアル〈2015年度版〉	*、58-63	2015.09
高橋智紀	地形連鎖を活用した集水域の水質浄化と冬期湛水	農業および園芸	91、149-154	2016.01
西田瑞彦	田んぼの地力が落ちている！？	再生と利用	150、72-75	2016.01
西田瑞彦	田畑輪換で生じている地力問題とその克服に向けて(1)	週刊農林(農林出版社)	2270、14-16	2016.01
西田瑞彦	「再生と利用」150号にあたってー循環型社会の要への期待ー	再生と利用	150、28-29	2016.01
白土宏之、川名義明、安藤正(山形県農業総合研究センター水田農業試験場)、浅野目謙之(山形県農業総合研究センター)、片平光彦(山形大学)、菅原金一(石井製作所)	水稻の無コーティング種子の代かき同時浅層土中播種栽培マニュアル(ver.1)			2016.02
西田瑞彦	田畑輪換で生じている地力問題とその克服に向けて(2)	週刊農林(農林出版社)	2274、6-8	2016.02
白土宏之	水稻品種「萌えみのり」の鉄コーティング湛水散播栽培	東日本大震災復興関連研究成果集	*、156	2016.02
西田瑞彦	水稻高品質・安定生産のための肥培管理技術(土づくり～基肥編)	農業共済新聞	2月24日6～7面	2016.02
白土宏之、川名義明、大平陽一、伊藤景子、安藤正(山形県農業総合研究センター)、浅野目謙之(山形県農業総合研究センター)、片平光彦(山形大学)、菅原金一(石井製作所)	水稻の無コーティング種子代かき同時浅層土中播種技術	平成27年度普及成果情報		2016.03
持田秀之	東北日本海側において播種期、栽植密度及び1株本数がダイズの生育収量に与える影響	東北農業研究センター研究報告	118、69-77	2016.03
菊池彰夫、島村聡、加藤信、平田香里、河野雄飛、湯本節三、高田吉丈	病虫害抵抗性で収量が多い中粒のダイズ新品種「はたむすめ」の育成	東北農業研究センター研究報告	118、21-35	2016.03
高橋智紀、西田瑞彦、吉田光二(ジェイカムアグリ)	水稻の育苗箱全量施肥における培土と施肥位置が苗箱内の水分環境に与える影響	東北農業研究センター研究報告	118、57-68	2016.03

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
太田久稔、山口誠之、福寛陽、梶亮太、津田直人、中込弘二、片岡知守、遠藤貴司(古川農業試験場)	多収で直播栽培向きの良食味水稲品種「ちほみのり」の育成	東北農業研究センター研究報告	118、37-48	2016.03
津田直人	直播適性の高い寒冷地向け早生品種「ちほみのり」の育成、並びにその栽培、利用	水稲直播研究会誌	第39号、52-55	2016.03

《環境保全型農業研究領域》

原著論文

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
西村愛子、浅井元朗、澁谷知子、黒川俊二、中村浩也(丸文製作所)	A steaming method for killing weed seeds produced in the current year under untilled conditions	Crop Protection	71、125-131	2015.05
黒川俊二、中谷敬子、澁谷知子、渡邊寛明、浅井元朗、今泉智通、小林浩幸	農耕地における外来雑草早期警戒システム	雑草研究	60(3)、101-106	2015.09

学会発表等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
好野奈美子、小林浩幸、高橋義彦、浅井元朗	放射性物質を除染した農地の雑草植生に影響を与える要因の探索	日本雑草学会第54回大会講演要旨集	*、90	2015.04
小林浩幸、内田智子、三浦礼	選別後のくず大豆に混入していた雑草種子と圃場での出芽能力	日本雑草学第54回講演要旨集	*、122	2015.04
西村愛子、浅井元朗、渡邊寛明	宮城県津波被災地の農地整備作業および作付管理過程における畦畔植生の変化	日本雑草学会第54回大会講演要旨集	*、91	2015.04
浅井元朗	北米からきた雑草たち	第13回岩手生態学ネットワーク市民講座		2015.05
浅井元朗	雑草多発要因を診断、共有する共通問診票	第17回東北雑草研究会	*、2	2015.06

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
加藤優来(山形県農業総合研究センター)、横山克至(山形県農業総合研究センター)、浅井元朗	水稲収穫後の蒸気処理による有機栽培圃場の雑草種子死滅効果	第17回東北雑草研究会	*、3	2015.06
小綿寿志(岩手県中央農業改良普及センター)、門間剛(岩手県農業普及技術課)、渡邊麻由子(岩手県盛岡農業改良普及センター)、吉田光輝(北興化学工業)、浅井元朗	岩手県の大豆圃場におけるナルコビエの雑草害と現地対策事例	第17回東北雑草研究会	*、2	2015.06
浅井元朗	蒸気処理による地表面の雑草種子駆除技術	2015年度農研機構産学官連携交流セミナー		2015.07
内田智子、松波寿弥、高橋義彦、小林浩幸	異なるカリ施肥条件下でのダイズ植物体における放射性セシウム及びカリ集積量の推移	日本土壤肥料学会講演要旨集	61、168	2015.09
西村愛子、浅井元朗、小林浩幸	Changes in weed communities of arable field margins in response to recovery efforts and cropping management following the 2011 tsunami disaster in Miyagi, Japan	25th Asian Pacific Weed Science Society Conference		2015.10
浅井元朗	現場で役立つ雑草の診断と防除対策	緑の安全管理士特別研修会		2015.10
浅井元朗	麦作の雑草防除対策	新品種・新技術コーディネーター研修会(CO ² 麦類)		2015.10
大久保慎二(自然農法国際研究開発センター)、千嶋英明(自然農法国際研究開発センター)、加藤茂(自然農法国際研究開発センター)、岩石真嗣(自然農法国際研究開発センター)、浅井元朗	有機畑作圃場における自走式蒸気処理防除機の効果1	第16回日本有機農業学会		2015.12
奥田充、花田薫、柴卓也、平江雅宏、浅井元朗、小林浩幸	イネ縞葉枯ウイルスのイネ科雑草及び牧草への感染性	日本植物病理学会報	82、33	2016.02
浅井元朗	蒸気処理防除機の開発と有機農業における活用	やまがた有機農業推進コンソーシアム「水稲有機栽培における先進事例研修及び現地実証成果・設計検討会」		2016.02

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
浅井元朗、澤田均(静岡大学)、山下雅幸(静岡大学)、V. D. Suci Handayani(岐阜大学大学院連合)、市原実(静岡農技研)	畦畔草地および輪作麦ほ場におけるエンドファイト感染/非感染ネズミムギの動態モデル	日本雑草学会第55回大会講演要旨集	*、71	2016.03
大久保慎二(自然農法国際研究開発センター)、千嶋英明(自然農法国際研究開発センター)、加藤茂(自然農法国際研究開発センター)、岩石真嗣(自然農法国際研究開発センター)、浅井元朗	有機畑作圃場における自走式蒸気処理防除機の効果2	日本雑草学会第55回大会講演要旨集	*、114	2016.03
下野綾子(東邦大学)、浅井元朗	グリホサート抵抗性ヒユ属外来雑草の侵入	第63回日本生態学会大会		2016.03
浅井元朗	畑地・水田の難防除雑草対策について	山形県 平成27年度専門スキルアップ研修(作物)		2016.03
浅井元朗	雑草の増減と有機栽培	高島町有機農業推進協議会研修会		2016.03

著書等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
浅井元朗	帰化雑草生態と防除14 ネズミムギ、カラスムギ	ながの農業と生活	613、47-49	2015.05
浅井元朗	雑草種子を駆除する自走式蒸気処理防除機の開発	グリーンレポート	552、14-15	2015.06
浅井元朗、小沼明弘(農業環境技術研究所)、奥野潤一(植調研究所)、白倉伸一(バイエルクロップサイエンス)、早坂大亮(近畿大学)	海外誌のコンテンツから	雑草研究	60(2)、60-65	2015.06
浅井元朗	麦の雑草 早わかりフォトブック	バイエルクロップサイエンス		2015.07
浅井元朗	大豆連作圃場における難防除雑草の発生状況と低減対策	東北農業試験研究推進会議畑作部会畑作物栽培研究会		2015.08

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
浅井元朗、小沼明弘（農業環境技術研究所）、奥野潤一（植調研究所）、白倉伸一（バイエルクロップサイエンス）、早坂大亮（近畿大学）	海外誌のコンテンツから	雑草研究	60(3)、109-116	2015.09
浅井元朗、小沼明弘（農業環境技術研究所）、奥野潤一（植調研究所）、白倉伸一（バイエルクロップサイエンス）、早坂大亮（近畿大学）	海外誌のコンテンツから	雑草研究	60(4)、176-181	2015.12
浅井元朗	夏期湛水と雑草防除	「なつみずたんぼ」シンポジウム		2016.01
浅井元朗	「トピックス」革新プロ（自走式蒸気処理防除機）現地検討会	東北農業研究センターたより	48、9	2016.02
浅井元朗	蒸気処理で地表面の雑草種子を駆除 自走式蒸気処理防除機 JJ7	ニューカントリー（㈱北海道協同組合通信社）	744、12-14	2016.03
浅井元朗	除染農地の営農再開までの間の雑草管理	東日本大震災復興関連研究成果集	*、148-149	2016.03

《農業放射線研究センター》

原著論文

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
久保堅司、小林浩幸、根本和俊（福島県農業総合センター）、平山孝（福島県農業総合センター）、松波寿弥、市橋康弘（環境省）、太田健、慶徳庄司（福島県農業総合センター）、信濃卓郎	Decreasing radioactive cesium in lodged buckwheat grain after harvest	Plant Production Science	19(1)、91-95	2015.07
箭田佐衣子（農業環境技術研究所）、石川哲也、草佳那子	関東地方における飼料用米向け水稲品種の収量と窒素吸収量の関係	日本作物学会紀事	84(3)、303-308	2015.07
好野奈美子、小林浩幸、高橋義彦、齋藤邦人（内外エンジニアリング株式会社）	剥ぎ取り除染を行った農地において表土剥ぎ取りおよび客土が地力に与える影響	環境放射能除染学会誌	3(3)、145-152	2015.09

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
江口哲也、太田健、石川哲也、松波寿弥、高橋義彦(特別研究員等)、久保堅司、山口紀子(農環研)、木方展治(農環研)、信濃卓郎	Influence of the nonexchangeable potassium of mica on radiocesium uptake by paddy rice	Journal of Environmental Radioactivity	147、33-42	2015.09
原田直樹(新潟大学)、本島彩香、五十嵐和輝(新潟大学(現福島県庁))、野中昌法(新潟大学)	東京電力福島第一原子力発電所事故後のクワ(<i>Morus alba</i>)におけるセシウム-137の部位別濃度とカリ液肥の樹体散布の影響	Radioisotopes	64(10)、613-619	2015.10
申文浩、久保田富次郎、浜田康治、人見忠良、太田健	Dynamic analysis of radioactive cesium in decontaminated paddy fields	Journal of Water and Environment Technology	13(5)、383-394	2015.11
松波寿弥、申文浩、高橋義彦、北島枝織(株式会社環境科学コーポレーション)、土屋貴史(株式会社環境科学コーポレーション)、信濃卓郎	ゲル化法を用いた懸濁物質を含む農業関連水試料中の放射性セシウムの定量	Radioisotopes	64、681-686	2015.11
久保堅司、小林浩幸、藤田雅也、太田健、南山泰宏(京都教育大学)、渡邊好昭、中島隆、信濃卓郎	Varietal differences in the absorption and partitioning of cadmium in common wheat (<i>Triticum aestivum</i> L.)	Environmental and Experimental Botany	124、79-88	2015.12
藤本竜輔、光永貴之、竹内正彦	東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う避難指示区域北部の農地周辺において避難指示がイノシシの出現に及ぼした影響	哺乳類科学	55(2)、145-154	2015.12
小林伸英(福島県農業総合センター)、齋藤隆(福島県農業総合センター)、松波寿弥	福島県浜通りの農地における雑草に含まれる放射性セシウム濃度の実態把握	日本作物学会東北支部会報	58、1-3	2015.12
渡部敏裕(北海道大学)、浦山勝(北海道大学)、信濃卓郎、Rouse Okada(北海道大学)、大崎満(北海道大学)	Application of ionomics to plant and soil in fields under long-term fertilizer trials	SpringerPlus	4、781	2015.12
松波寿弥、小林真、安藤象太郎(国際農林水産業研究センター)、寺島義文(国際農林水産業研究センター)、霍田真一(国際農林水産業研究センター)、佐藤広子	栽植密度および施肥水準がエリアンサス(<i>Erianthus arundinaceus</i> (L.) Beauv.)の乾物収量に及ぼす影響	日本草地学会誌	61、224-233	2016.01

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
松波寿弥、村上敏文、藤原英司 (農業環境技術研究所)、信濃卓 郎	Evaluation of the cause of unexplained radiocaesium contamination of brown rice in Fukushima in 2013 using autoradiography and gamma-ray spectrometry	Scientific Reports	6、20386	2016.02
藤村恵人、吉岡邦夫(福島県農 業総合センター)、太田健、石 川哲也、佐藤誠(福島県農業総 合センター)、佐藤睦人(福島 県農業総合センター)	The inhibitory effects of potassium chloride versus potassium silicate application on ¹³⁷ Cs uptake by rice	Journal of Environmental Radioactivity	153、188-194	2016.03

学会発表等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
藤本竜輔	イノシシによる農業被害の防止技術	原・小林地区獣 害対策勉強会 (二本松市役所、 県北農林事務 所)		2015.04
本島彩香、原田直樹(新潟大学)、 野中昌法(新潟大学)	水田とイネ・大豆・桑の放射性セシ ウム動態と農業用水の影響と残され た課題 ～大豆の放射性セシウム吸 収抑制～	ゆうきの里と各 大学の研究成果 発表会 里山の災害復興 プログラム報告 会		2015.04
久保堅司	そばとコムギの移行抑制対策と残さ れた問題	放射性物質対策 に関わる問題の 抽出と対策に 関するワーク ショップ		2015.04
松波寿弥、村上敏文、藤原英司 (農業環境技術研究所)、荒尾知 人(農業環境技術研究所)、信 濃卓郎	¹³⁴ Cs/ ¹³⁷ Cs 放射能比から推定した 玄米を汚染した放射性セシウムの由 来	第4回京都大学 原子炉実験所原 子力安全基盤科 学研究シンポジ ウム	*、102	2015.05
信濃卓郎、村上敏文、松波寿弥、 石川哲也、太田健、藤村恵人、 齋藤隆(福島県農業研究セン ター)、佐藤睦人(福島県農業 研究センター)	Possible mechanism of radioactive cesium contamination on rice in Fukushima 2013	International Symposium on Radiological Issues for Fukushima's Revitalized Future	*、105	2015.05

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
久保田富次郎、申文浩、浜田康治、人見忠良	農業用ため池における水中の放射性セシウムのモニタリング	日本地球惑星科学連合 2015 年大会	*、 AHW27-P08	2015.05
藤村恵人、江口哲也、石川哲也、太田健、信濃卓郎	Evaluation of radioactive cesium absorption from paddy soil by rice	第 4 回京都大学原子炉実験所原子力安全基盤科学研究プロジェクト国際シンポジウム	*、104	2015.05
藤村恵人、石川哲也、石川淳子、松波寿弥、高橋義彦	Difference in ¹³⁷ Cs uptake between two paddy rice cultivars	13 th International Conference on the Biogeochemistry of Trace Elements	*、233	2015.07
牧野知之（農業環境技術研究所）、赤羽幾子（農業環境技術研究所）、荒貴裕（農業環境技術研究所）、山口弘（農業環境技術研究所）、木方展治（農業環境技術研究所）、藤原英司（農業環境技術研究所）、太田健、石川哲也、神谷隆（太平洋セメント）、青野克己（太平洋セメント）、齋藤隆（福島県農業総合センター）、宮原佳彦（生物系特定産業技術研究支援センター）、戸田勉（ササキコーポレーション）	水田における土壌攪拌—排水処理および沈降排土処理による放射性セシウム除去技術の開発	環境放射能除染研究発表会要旨集	4、81	2015.07
齋藤隆（福島県農業総合センター）、高橋和広（福島県農業総合センター）、牧野知之（農業環境技術研究所）、太田健	Effect of potassium fertilizer application method on uptake of ¹³⁷ Cs in brown rice	ICOBTE2015 ABSTRACT	*、192	2015.07
信濃卓郎	農業再建への取り組み	リスコム職能教育プロジェクト（北海道大学）		2015.08
久保堅司、江口哲也、松波寿弥、藤村恵人、小林浩幸、太田健、信濃卓郎	そばにおけるカリウムとセシウムの動態と土壌の交換性カリ含量との関係	日本作物学会第 240 回講演会要旨集	*、128	2015.09
江口哲也、太田健、石川哲也、藤村恵人、松波寿弥、高橋義彦、信濃卓郎	フィンランド産金雲母施用による水稲への放射性セシウム移行低減	日本土壌肥科学会講演要旨集	61、165	2015.09
江口哲也、太田健、好野奈美子、村上敏文、松波寿弥、高橋義彦	黒ボク傾斜畑における地表面被覆による放射性物質の流出防止効果	日本土壌肥科学会講演要旨集	61、154	2015.09

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
信濃卓郎	農業現場における放射性セシウムと粘土の関係では説明できないこと	粘土科学討論会	*、50	2015.09
信濃卓郎	Overview of analytical strategies after the Fukushima Daiichi NPP accident	IAEA/FAO Technical meeting		2015.09
申文浩	ろ過法および蒸発濃縮法	水中の放射性セシウムのモニタリング技術を考えるシンポジウム		2015.09
申文浩、保高徹生(産業技術総合研究所)、松波寿弥、高橋義彦、久保田富次郎、信濃卓郎	農業用水中の溶存態放射性セシウムの分析における前処理方法の検討	平成 27 年度農業農村工学会大会講演会講演要旨集	64、584-585	2015.09
竹倉憲弘、薬師堂謙一	ロータリキルン式バーナー燃料用木質チップの乾燥調製方法の検討	農業環境工学関連学会 2015 年合同大会	CD-ROM	2015.09
藤村恵人、信濃卓郎	農研機構東北農業研究センター 福島拠点での取組	第 293 回生存圏シンポジウム		2015.09
藤村恵人、久保堅司、江口哲也、松波寿弥、小林浩幸、太田健、信濃卓郎	そばにおける土壌の交換性カリ含量と放射性セシウムの吸収との関係	日本作物学会第 240 回講演会要旨集	*、127	2015.09
藤村恵人、石川哲也、太田健、江口哲也、松波寿弥、高橋義彦、信濃卓郎	水稲における ^{137}Cs 集積量の推移	日本土壌肥料学会講演要旨集	*、152	2015.09
本島彩香、原田直樹(新潟大学)、野中昌法(新潟大学)	化学肥料(硫酸カリ)と有機質肥料によるダイズの放射性セシウム吸収抑制効果の比較	日本土壌肥料学会講演要旨集	61、168	2015.09
海野祐介(環境技研)、高雄惇英(北海道大学)、江口哲也、武田晃(環境技研)、渡部敏裕(北海道大学)、信濃卓郎	土壌に蓄積する有機態リンの主要な形態である難溶性フィチン酸塩の放射性セシウムイオン吸着特性	日本土壌肥料学会講演要旨集	61、160	2015.09
山口千仁(九州大学)、陶山明子(九州大学)、瀧本裕希(福岡県立大学)、大鎌直子(東京電機大学)、信濃卓郎、保倉明子(東京農工大学)、丸山明子(九州大学)	カドミウム処理による植物体内の硫黄分配の変化	日本土壌肥料学会講演要旨集	61、55	2015.09
李相潤(筑波大学)、石井敦(筑波大学)、谷口智之(筑波大学)、佐藤政良(筑波大学)、申文浩	灌漑用水開発からみた韓国の河川流量の特徴	平成 27 年度農業農村工学会大会講演会講演要旨集	64、362-363	2015.09

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
齋藤隆(福島県農業総合センター)、太田健、牧野知之(農業環境技術研究所)、齋藤隆(福島県農業総合センター浜地域研)	福島県内の農地における放射性物質に関する研究(第29報)ー水稻生育期間中の水溶性カリウム濃度に基づく玄米中放射性Cs濃度の推定	日本土壤肥料学会講演要旨集	61、166	2015.09
藤本竜輔	イノシシの被害対策のポイントについて	第3回鳥獣被害対策地域リーダー育成研修会(実践編)(福島県農林水産部環境保全農業課)		2015.09
松波寿弥	Unexplained radiocesium contamination of brown rice in Fukushima in 2013	Biological Workshop on Cs Bioremediation Embassy of France in Japan		2015.10
久保田富次郎、申文浩、浜田康治、人見忠良	遠隔監視による濁度・水文観測の課題と放射性セシウムの動態調査への活用	平成27年度農業農村工学会東北支部大会講演会講演要旨	58、24-27	2015.10
申文浩、久保田富次郎、浜田康治、人見忠良	農業用水に含まれる放射性Csのモニタリング技術	第67回日本生物工学会大会シンポジウム	*, 356	2015.10
李相潤(筑波大学)、石井敦(筑波大学)、谷口智之(九州大学)、佐藤政良(筑波大学)、申文浩	河川流量特性からみた韓国近世水田開発	平成27年度農業農村工学会関東支部大会講演会講演要旨	66、89-90	2015.10
江口哲也	水稻によるカリウム吸収にともなう雲母のバーミキュライト化	農業生態系における放射性セシウムの吸着・固定化ー可給化メカニズムの解明に向けたワークショップ		2015.10
申文浩	農業用水のモニタリングと減圧ろ過と蒸発濃縮法	2015(平成27)年度第1回放射能測定分析技術研究会(RADI研)セミナー		2015.10
藤本竜輔	イノシシ被害対策の重要なポイント	野生動物対策技術研究会第6回全国大会		2015.10

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
木幡裕介(新潟大学)、本島彩香、後藤淳(新潟大学)、上田仁(茨城大学)、永井泰樹(日本原子力研究開発機構)、原田直樹(新潟大学)、野中昌法(新潟大学)	大容量 NaI 検出器を使用した Cs-137 測定	2015 年度日本土壌肥料学会 関東支部大会	*、12	2015.11
藤本竜輔	鳥獣被害の“総合対策”と“連携”	平成 27 年度 相双地方有害鳥獣被害防止対策会議(相馬地方会議)(相双農林事務所)		2015.11
藤本竜輔	イノシシ対策技術と普及指導の効果	鳥獣被害対策地域リーダー育成研修会(喜多方市役所)		2015.11
信濃卓郎	農地除染と移行低減対策	福島の未来と問題の変遷 長崎大学公開シンポジウム		2015.12
申文浩、久保田富次郎、浜田康治、人見忠良、太田健、松波寿弥、八戸真弓	除染後水田における放射性セシウムの動態分析	第 6 回横幹連合コンファレンス	6、140-141	2015.12
太田健	土壌侵食に伴う放射性セシウムの流出と除染後農地の管理	第 32 回資源植物科学シンポジウム(岡山大学) 東日本大震災被災農地の営農再開に向けて	*、7-8	2015.12
藤村恵人、石川哲也、松波寿弥、高橋義彦(特別研究員等)、太田健、信濃卓郎	北陸 193 号とコシヒカリの放射性セシウム吸収の比較	日本作物学会東北支部会報	*、37-38	2015.12
藤本竜輔	福島県の避難指示区域における野生動物出現モニタリングの近況	平成 27 年度関東東海ブロック鳥獣害研究会		2015.12
久保堅司	小麦の赤かび病抵抗性の評価と解析	平成 27 年度東北農業試験研究推進会議 畑作物推進部会		2016.01
久保堅司	小麦の赤かび抵抗性の評価と解析	平成 27 年度東北農業試験研究推進会議 畑作物推進部会 本会議		2016.01

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
信濃卓郎	農地除染と移行低減対策	福島環境回復にかかるシンポジウム		2016.02
申文浩	河川水実証栽培に関する研究成果	実証試験栽培成果勉強会		2016.02
太田健	環境保全型農業における基本技術と効果について	平成27年度環境と共生する農業推進研修会		2016.02
藤本竜輔	イノシシの生態と農業被害対策	鳥獣被害対策研修会(県北農業共済組合)		2016.02
久保堅司、小林浩幸、村上源吉(川俣町)、八戸真弓、高橋義彦、濱松潮香、太田健、信濃卓郎	放射性セシウムの物理的除染を行った福島県伊達郡川俣町山木屋地区の圃場におけるそばによる営農再開の試み	日本作物学会第241回講演会要旨集	*、104	2016.03
久保堅司、平山孝(福島県農業総合センター)、栗山泰(農林水産省)、小林浩幸、太田健、信濃卓郎	土壌から玄そばへの放射性セシウムの移行性の年次変化と移行に及ぼす要因の解析を基にしたカリによる吸収抑制対策の緩和に関する考察	日本作物学会第241回講演会要旨集	*、105	2016.03
藤村恵人、上田義勝(京都大学)、杉山暁史(京都大学)	水稲におけるセシウム吸収量の品種間差異への土壌可給態カリウム濃度の関与	第307回生存圏ミッションシンポジウム	*、57-58	2016.03
藤村恵人、鈴木安和(福島県農業総合センター)、石川淳子、石川哲也、太田健、信濃卓郎	塩化カリ多量施用によるポット栽培水稲の生育抑制	日本作物学会第241回講演会	*、101	2016.03
藤本竜輔	営農再開地域に適した野生動物侵入防止柵の検討	日本農作業学会2016年度春季大会	51(別1)、27-28	2016.03
久保堅司	カリ肥料による放射性セシウムの移行低減効果と適正施肥量への取り組み:畑作における状況	放射性セシウムによって汚染された農地における中長期的なカリウムによる移行抑制対策の課題化に向けたテーブルリサーチ		2016.03
信濃卓郎	農地除染技術及び農作物への移行低減技術の研究開発への取組	新しい福島農業の創造を支える農業研究シンポジウム		2016.03

著書等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
申文浩、久保田富次郎	濁度の連続観測を利用した水中の放射性セシウム濃度予測・警報システムマニュアル	東北農業研究センター・農村工学研究所	1-38	2015.04
久保堅司、根本和俊(福島県農業総合センター)、小林浩幸、栗山泰(農林水産省)、原田浩秀(農林水産省)、松波寿弥、江口哲也、木方展治(農業環境技術研究所)、太田健、慶徳庄司(福島県農業総合センター)、木村武、信濃卓郎	Decreasing radioactive cesium in buckwheat in Japan	ICOBTE 2015 FUKUOKA ABSTRACT BOOK	*、359	2015.07
海野祐介(環境技研)、高雄惇英(北大院農)、江口哲也、武田晃(環境技研)、渡部敏裕(北大院農)、信濃卓郎	Adsorption of radiocesium by metal phytate, a major component of soil organic phosphorous	ICOBTE 2015 FUKUOKA Abstract Book	*、186	2015.07
久保堅司	カリ施用によるそばの放射性セシウムの低減	東北農業研究センターたより	46、7	2015.07
信濃卓郎	農業再建への研究者としての取り組み	科学技術コミュニケーション	17、85-91	2015.07
早岡英介(北海道大学)、久保田直(映画監督)、信濃卓郎、本田紀生(NPO)	パネルディスカッション ー福島の再生と科学技術コミュニケーションー	科学技術コミュニケーション	17、99-112	2015.07
信濃卓郎、Q. Chu(北海道大学)、渡部敏裕(北海道大学)、松波寿弥、小林大輔(福島医大)、大河内利康(福島県立医科大学)	Varietal difference in the radio cesium uptake in amaranths and soybean	ICOBTE 2015 FUKUOKA	*、038	2015.08
山口千仁(九州大学)、瀧本裕希(福井県立大学)、信濃卓郎、保倉明子(九州大学)、丸山明子(九州大学)	Effects of cadmium treatment on uptake and translocation of sulfur in <i>Arabidopsis thaliana</i>	ICOBTE 2015 FUKUOKA	*、449	2015.08
恩田裕一(筑波大学)、保高徹生(産業技術総合研究所)、辻英樹(国立環境研究所)、北村清司(日本分析センター)、江口定夫(農業環境技術研究所)、平野七恵(農業環境技術研究所)、申文浩、青野辰雄(放射線医学総合研究所)、塚田祥文(福島大学)、山口裕顕(スリーエムジャパン株式会社)、末木啓介(筑波大学)、南公隆(産業技術総合研究所)、川本徹(産業技術総合研究所)、難波謙二(福島大学)、村上道夫(福島県立医科大学)、宮津進	環境放射能モニタリングのための水中の放射性セシウムの前処理・分析法	水中の放射性セシウムのモニタリング手法に関する技術資料検討委員会	22-30 及び 50-65	2015.09

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
信濃卓郎	農産物への放射性セシウムの移行抑制対策	JATAFF ジャーナル	3(9)、24-20	2015.09
藤本竜輔、竹内正彦、山崎晃司 (東農大地域環境科学)	茨城県北部におけるカワネズミ <i>Chimarrigale platycephala</i> の生息確認	茨城県自然博物館研究報告	18)、61-63	2015.12
申文浩	農業用水中の濁度による放射性セシウム濃度の推定技術	東北農業研究センターたより	48、7	2016.02
申文浩、久保田富次郎、浜田康治、人見忠良	農業用水に含まれる放射性セシウムのモニタリング技術	環境バイオテクノロジー学会誌	15(2)、91-97	2016.02
久保堅司、小林浩幸、根本和俊(福島県農業総合センター)、平山孝(福島県農業総合センター)、松波寿弥、市橋康弘(環境省)、太田健、慶徳庄司(福島県農業総合センター)、信濃卓郎	倒伏による玄そばへの放射性セシウムの混入と収穫後の調製による低減対策	平成27年度普及成果情報		2016.03
江口哲也、太田健、石川哲也、松波寿弥、久保堅司、信濃卓郎	フィンランド Siilinjarvi 産金雲母施用は玄米への放射性セシウム移行を低減する	平成27年度研究成果情報		2016.03
藤本竜輔、光永貴之、竹内正彦	イノシシの出現頻度は避難指示の有無と関係がない	平成27年度研究成果情報		2016.03
藤本竜輔、竹内正彦	イノシシ用電気柵の設置段階におけるヒューマンエラーの類型と普及指導による解消効果	東北農業研究センター研究報告	118、87-92	2016.03

《研究支援センター》

原著論文

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
二瓶直登(東京大学)、藤村恵人、田野井慶太郎(東京大学)、山下伸夫、森本品、中西友子(東京大学)、村上敏文	Effect of the application of polluted wheat (<i>Triticum aestivum</i> L. Thell) straw during plowing on the transfer of radiocesium from the soil to komatsuna (<i>Brassica rapa</i> L. var. <i>perviridis</i>)	Soil Science and Plant Nutrition	62、117-120	2016.03
関澤春仁(福島県農業総合センター)、佐藤真理(福島県農業総合センター)、相原隆志(福島県農業総合センター) 村上敏文、八戸真弓、濱松潮香	カキ果実におけるヘタを経由した放射性セシウム-137の移行	Radioisotopes	69(3)、129-135	2016.03

学会発表等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
村上敏文、藤村恵人、松波寿弥、 信濃卓郎	Geographical distribution of polluted plants adhered by radioactive compounds in Fukushima 2013	Abstracts: International symposium on radiological issues for Fukushima's revitalized future	*、103	2015.05
由比進	野菜の原産地、旬を創る	盛岡大学講義 (地域食材資源 論)		2015.10
由比進	野菜と種	盛岡大学講義 (地域食材資源 論)		2015.10
北本尚子(岩手大学)、西川和 裕(サカタのタネ)、松浦拓也 (岩手県農業研究センター)、高 畑義人(岩手大学)、由比進	早春まき露地作型を可能にする極晩 抽性ハクサイ品種の育成	第10回東北育種 研究会	*、P11	2015.11
小野寺大樹(岩手大学)、北本 尚子(岩手大学)、由比進、高 畑義人(岩手大学)	ハクサイ光感受性関連遺伝子の機能 解析	第10回東北育種 研究集会	*、P8	2015.11
由比進	ダイコン?カブ?問題、クッキング トマト、トマトで遺伝の勉強	盛岡大学講義 (地域食材資源 論)		2015.11
由比進	人の都合 植物の都合 環境の都合	岩手大学全学共 通教育科目(教 養科目) 環境分科会特別 講義「植物栽培 と環境テクノロ ジー」		2015.12

著書等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
村上敏文	根っこになって土を診る ④ CEC ってなに?	現代農業(農山 漁村文化協会)	5月号、32-33	2015.04
村上敏文	根っこになって土を診る ⑤塩基バランスってなに?	現代農業(農山 漁村文化協会)	7月号、36-37	2015.06
村上敏文	根っこになって土を診る ⑥団粒ってなに?	現代農業(農山 漁村文化協会)	8月号、36-37	2015.07

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
村上敏文	根っこになって土を診る ⑦ C/N 比ってなに？	現代農業（農山 漁村文化協会）	9月号、36-37	2015.08
村上敏文	転作田を空から見ると	現代農業（農山 漁村文化協会）	10月号、279	2015.09
村上敏文	根っこになって土を診る ⑧菌根菌ってなに？	現代農業（農山 漁村文化協会）	11月号、32-33	2015.10
由比進	シャニカマエハウス	農家が教える無 敵のマイハウス （農山漁村文化 協会）	*、101	2015.10
村上敏文	根っこになってを土を診る ⑨チッソ固定ってなに？	現代農業（農山 漁村文化協会）	12月号、32-33	2015.11
村上敏文	根っこになって土を診る ⑩チッソが多いと・・・	現代農業（農山 漁村文化協会）	1月号、28-29	2015.12

2. 特許・品種登録等

1) 特許・実用新案の出願及び登録

(平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月)

(区 分) 特 許 権 等 の 名 称	発明考案者	公 告 又 は 公 開 年 月 日	登 録 年 月 日 及 び 登 録 番 号
【特許】 (登録)			
○下層土圧縮装置	大谷 隆二、関矢 博幸、 冠 秀昭、 (株)パディ研究所、キャタ ピラー九州(株)		H27. 6. 5 第 5754664 号
(出願中)			
○植物ホルモン関連物質を処理した忌避 植物と植物ウイルスを接種したおとり 植物の植栽配置による微小害虫アザミ ウマ類制御技術	櫻井 民人、 中央農業総合研究セン ター、国立研究開発法人 理化学研究所	H24. 9. 20	
○燃焼排ガス中の二酸化炭素を利用した 園芸用施設への二酸化炭素供給装置	稲本 勝彦、 国立研究開発法人産業技 術総合研究所、奈良県、 大阪瓦斯(株)、日本軽金属 (株)	H25. 4. 25	
○2つのGBSSIと2つのSSIIaの酵素活 性を欠損したコムギから調製された小 麦粉	中村 俊樹、齋藤 美香、 日本製粉(株)	H25. 9. 26	
○高純度セレブロシドの製造方法	木村 俊之、 オルガノ(株)、日本製粉(株)	H26. 12. 4	
○2つのGBSSIと2つのSSIIaの酵素活 性を欠損したコムギから調製された小 麦粉を使用した品質劣化が抑制された 食品	中村 俊樹、齋藤 美香、 日本製粉(株)	H27. 2. 19	
○少なくとも2つのGBSSIと2つのSSIIa の酵素活性を欠損したコムギから調製 された小麦粉を使用した糖を添加しな い食品の製造方法	中村 俊樹、齋藤 美香、 日本製粉(株)	H27. 2. 19	
○少なくとも2つのGBSSIと2つのSSIIa の酵素活性を欠損したコムギから調製 された小麦粉を使用したマルトース高 含有生地(高糖)の製造方法	中村 俊樹、齋藤 美香、 日本製粉(株)	H27. 2. 19	

(区 分) 特 許 権 等 の 名 称	発 明 考 案 者	公 告 又 は 公 開 年 月 日	登 録 年 月 日 及 び 登 録 番 号
○2つのGBSSIと2つのSSIIaの酵素活性を欠損したコムギから調製された小麦粉を使用した冷凍食品	中村 俊樹、齋藤 美香、 日本製粉(株)	H27. 2. 19	
○作物の生長促進を伴う土壌伝染性病害防除法、有用微生物の検定方法、土壌pH矯正物質の検定方法、及び植物病害抵抗性誘導物質の検定方法	今崎 伊織、門田 育生	H27. 4. 2	
○トコトリエノールの製造方法及びそのための植物	木村 映一、吉田 泰二、 木村 俊之、(国大) 東北大学、富山県	H27. 4. 27	
○播種床形成器、施肥・播種装置	松尾 健太郎、 藤澤 佳行、山崎 篤、 山本 岳彦	H27. 10. 22	
ほか4件			
【実用新案】 なし			

2) 種苗法による品種登録

(平成27年4月～平成28年3月)

植物の種類	品種の名称	登録年月日	登録番号	育 成 者
稲	いわいだわら	H27. 6. 19	第24363号	太田 久稔、山口 誠之、福嶋 陽、 梶 亮太、津田 直人、中込 弘二、 片岡 知守、遠藤 貴司、国立研究開 発法人国際農林水産業研究センター
なたね	ななはるか	H28. 3. 7	第24831号	川崎 光代、本田 裕、加藤 晶子、 由比真美子、山守 誠、遠山 知子、 石田 正彦、手塚 隆久、千葉 一美

その他出願中

植物の種類	品種の名称	出願年月日	育成者
稲	べこげんき	H26. 4. 3	太田 久稔、山口 誠之、福嶋 陽、 梶 亮太、津田 直人、中込 弘二、 片岡 知守、遠藤 貴司
小麦	こしちから	H26. 4. 18	谷口 義則、伊藤 裕之、池永 幸子、 中村 俊樹、石川 吾郎、吉川 亮、 中村 和弘、平 将人、八田 浩一、 前島 秀和、伊藤 美環子、中村 洋、 伊藤 誠治
稲	ちほみのり	H26. 4. 18	太田 久稔、山口 誠之、福嶋 陽、 梶 亮太、津田 直人、中込 弘二、 片岡 知守、遠藤 貴司
稲	ときめきもち	H26. 4. 22	太田 久稔、山口 誠之、福嶋 陽、 梶 亮太、津田 直人、中込 弘二、 片岡 知守、遠藤 貴司、国立研究開発法 人国際農林水産業研究センター
大豆	はたむすめ	H26. 5. 16	菊池 彰夫、島村 聡、加藤 信、 平田 香里、河野 雄飛、湯本 節三、 高田 吉丈
なたね	きらきら銀河	H27. 6. 10	川崎 光代、本田 裕、由比真美子、 山守 誠、加藤 晶子
イタリアンライグ ラス亜種	クワトロローTK5	H28. 3. 28	久保田明人、上山 泰史、藤森 雅博、 米丸 淳一、秋山 征夫

3. 育成品種、遺伝資源の受入・移管・増殖・保存数

1) 育成品種（平成 27 年度出願）

- ・なたね「きらきら銀河」（東北 99 号）
- ・イタリアンライグラス亜種「クワトロローTK5」（東北 5 号）

2) 育成品種一覽 (平成 28 年 3 月現在)

水 稻

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	早 晩 性	耐 倒 伏 性	耐 冷 性	食 味	いもち病抵抗性	
			母	父						抵 抗 性 遺 伝 子 型	圃 場 抵 抗 性
1 ハツニシキ	農林 84 号	奥羽 224 号	農林 22 号	農林 1 号	1954	中	や	や	下	+	中
2 ヤマセニシキ	農林 139 号	奥羽 225 号	農林 22 号	農林 1 号	1962	中	中	中	上	+	中
3 ウゴニシキ	農林 143 号	奥羽 242 号	農林 51 号	農林 1 号	1963	中	中	中	上	P _k	中
4 フクニシキ	農林 152 号	奥羽 245 号	54BC-68	ハツニシキ	1964	中	中	中	上	P _k	や
5 オトモチ	農林 171 号	奥羽 260 号	こがねもち	奥羽 225 号	1966	早	や	や	(良)	P _{ia}	や
6 フクノハデ	農林 181 号	奥羽 249 号	奥羽 237 号	東北 76 号	1966	中	中	中	上	P _{ii}	や
7 ハツヒノビ	農林 182 号	奥羽 250 号	ハツニシキ	十石	1967	中	中	中	上	P _{ia}	や
8 イサリノリ	農林 198 号	奥羽 267 号	ハツニシキ	十石	1969	中	中	中	上	+	中
9 ササニシキ	農林 199 号	奥羽 269 号	東北 78 号	奥羽 329 号	1969	中	中	中	上	P _{ia}	中
10 トヨニシキ	農林 210 号	奥羽 268 号	東北 78 号	奥羽 239 号	1970	中	中	中	上	P _{ia}	中
11 ヒメノモチ	農林 221 号	奥羽 277 号	大系 227	こがねもち	1972	中	中	中	(良)	P _k	中
12 ハヤニシキ	農林 222 号	奥羽 278 号	奥羽 239 号	フジミノ	1972	早	中	中	上	+	中
13 ハヤニシキ	農林 222 号	奥羽 282 号	奥羽 239 号	奥羽 269 号	1976	早	中	中	上	P _{ia}	や
14 ハヤニシキ	農林 239 号	奥羽 301 号	ふ系 70 号	奥羽 17	1979	早	中	中	上	P _k ,P _{ii}	や
15 アヤニシキ	農林 253 号	奥羽 311 号	トヨニシキ	曲系 17	1979	早	中	中	上	P _k ,P _{ii}	や
16 ヒデコモチ	農林 254 号	奥羽 331 号	中系 1076	ふ系 72 号	1979	早	中	中	(良)	P _{ia} ,P _{ib}	中
17 おおき	農林 320 号	奥羽 346 号	中部 47 号	奥羽 316 号	1993	中	中	中	上	P _{ia} ,P _{ib}	中
18 ふおき	農林 342 号	奥羽 331 号	奥羽 239 号	奥羽 313 号	1996	中	中	中	上	P _{ia} ,P _{ii}	中
19 朝紫	農林 343 号	奥羽 344 号	東糯 396	奥羽 331 号	1996	中	中	中	上	P _{ia}	や
20 スノーパール	農林 356 号	奥羽 354 号	74wx2N-1	奥羽 331 号	1998	中	中	中	上	+	や
21 おくのむらさき	農林 367 号	奥羽 368 号	東北糯 149 号	奥羽 331 号	2000	中	中	中	上	P _{ib}	や
22 シルキパール	農林 375 号	奥羽 354 号	探系 2019	ふ系 143 号	2001	中	中	中	上	P _{ia}	中
23 紅衣	農林 384 号	奥羽 赤 370 号	(奥羽 331 号 × A5) の F1	奥羽 331 号	2002	早	中	中	上	+	や
24 ちゆひかり	農林 390 号	奥羽 366 号	東北 143 号	奥羽 338 号	2003	中	中	中	上	P _{ia} ,P _{ii}	極
25 恋あす	農林 407 号	奥羽 359 号	北海 269 号	奥羽 316 号	2005	中	中	中	上	P _{ia} ,P _{ii}	弱
26 ベこお	農林 408 号	奥羽 観 387 号	オオチカラ	西海 203 号	2005	中	中	中	上	P _{ia} -2,(P _{ia})	弱
27 奥羽観 383 号	農林 416 号	奥羽 観 383 号	H-451	紫穂 No.1	2008	早	中	中	上	+	弱
28 萌えみのり	農林 417 号	奥羽 赤糯 388 号	南海 128 号	はえぬき	2006	中	中	中	上	P _{ia} ,P _{ii}	中
29 ややげもち	農林 425 号	奥羽 赤糯 395 号	たつこもち	紅衣	2006	中	中	中	上	+	や
30 紫こぼし	農林 417 号	奥羽 観 389 号	ふくひびき	97UK-46	2007	早	中	中	上	P _{ib} ,P _k	中
31 祝い苗	農林 417 号	奥羽 観 378 号	関東生長	朝紫	2011	中	中	中	上	P _{ia}	中
32 祝い紫	農林 417 号	奥羽 観 379 号	紫穂 No.1	対馬在来	2011	中	中	中	上	P _k	中
33 きんのめぐみ	農林 417 号	奥羽 411 号	おきにいり / あ	対馬在来	2011	中	中	中	上	P _{ia} ,P _{ii}	中
34 ちゆひかり	農林 417 号	奥羽 411 号	いそみのりの F1	おきにいり	2013	中	中	中	上	P _{ia} ,P _{ii}	中
35 ゆめふわり	平 25 水稲 農林 454 号	奥羽 405 号	たきたて	放育 2 号	2015	早	中	中	上	P _{ii}	中
36 えみのあだわら	平 25 水稲 農林 449 号	奥羽 407 号	奥羽 111 号	奥羽 382 号	2015	中	中	中	上	P _{ia} ,P _{ii}	極
37 いわげんわり	平 25 水稲 農林 456 号	奥羽 409 号	奥羽 観 394 号	奥羽 観 395 号	2015	早	中	中	上	P _k ,P _{ib}	不明
38 ちほのり	平 26 水稲 農林 459 号	奥羽 観 414 号	奥羽 系 864	青系 観 161 号	—	早	中	中	上	P _{ia} ,P _{ib}	不明
39 ちほのり	平 26 水稲 農林 461 号	奥羽 416 号	奥羽 382 号	青系 157 号	—	早	中	中	上	P _{ia} ,P _{ii}	強
40 ときめもち	平 26 水稲 農林 482 号	奥羽 糯 413 号	奥羽 糯 391 号	奥羽 直 376 号	—	中	中	中	上	P _{ia} ,P _{ii} ,P _k	強

小 麦

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	主な用途	成熟期	芒の有無	穂の色	耐寒雪性	赤さび病抵抗性
			母	父							
1 スソノコムギ	農林 77 号	東北 77 号	農林 10 号	北関東 5 号	1950	めん用	中	有	白	やや弱	やや弱
2 ムツベンケイ	農林 78 号	東北 84 号	F5-1582	Egyptian Amber	1950	めん用	晩	有	白	やや弱	やや弱
3 アオバコムギ	農林 81 号	東北 79 号	農林 7 号	Ardito	1951	パン用	早	無	褐	強	やや弱
4 ナンブコムギ	農林 82 号	東北 95 号	農林 33 号	農林 27 号	1951	めん用	早	有	白	中	中
5 ヒツミコムギ	農林 88 号	東北 103 号	農林 39 号	東北 56 号	1953	めん用	晩	無	褐	強	中
6 オクコムギ	農林 90 号	東北 97 号	農林 39 号	東北 56 号	1955	めん用	晩	無	褐	強	中
7 サキユウコムギ	農林 91 号	東北 91 号	農林 33 号	農林 27 号	1956	めん用	晩	有	褐	強	弱
8 フルツマサリ	農林 94 号	東北 105 号	東北 78 号	農林 39 号	1956	めん用	晩	無	褐	中	中
9 キタカミコムギ	農林 97 号	東北 110 号	東北 101 号	東北 83 号	1959	めん用	晩	有	白	やや弱	中
10 シモフサコムギ	農林 101 号	東北 108 号	東北 79 号 (アオバコムギ)	北関東 44 号	1963	めん用	中	無	白	やや弱	中
11 ミヤギノコムギ	農林 102 号	東北 117 号	東北 106 号	農林 10 号	1964	めん用	早	有	白	中	やや弱
12 ハチマンコムギ	農林 113 号	東北 122 号	東北 108 号	農林 27 号	1973	パン用	中	無	白	中	やや強
13 ハナガサコムギ	農林 116 号	東北 126 号	北陸 46 号	(HopexTimstein) ×農林 58 号	1974	めん用	中	無	白	中	強
14 ワカマツコムギ	農林 127 号	東北 143 号	キタカミコムギ	東北 126 号 (ハカガサコムギ)	1982	めん用	晩	有	白	中	強
15 コユキコムギ	農林 133 号	東北 167 号	東北 126 号	ユキチヤボ	1988	パン用	中	有	白	中	弱
16 あきたっこ	農林 137 号	東北 183 号	ワカマツコムギ	東北 144 号	1992	めん用	中	有	白	中	やや弱
17 はつもち	—	東北 210 号	関東 107 号	白火	1998	ブレンド	早	有	白	やや弱	中
18 もち乙女	—	東北 211 号	関東 107 号	白火	1998	ブレンド	極早	有	白	弱	やや弱
19 ネバリゴシ	農林 152 号	東北 206 号	関東 107 号	チホクコムギ	2000	めん用	やや早	無	白	中	強
20 ハルイブキ	農林 153 号	東北 205 号	Stozher	東北 195 号	2001	パン用	中	有	白	中	強
21 ゆきちから	農林 157 号	東北 214 号	東北 141 号	さび系 23 号	2002	パン用	やや早	無	白	強	強
22 もち姫	農林 166 号	東北 217 号	はつもち	(もち盛系 C-G1517 ×ハルイブキ)F1	2006	菓子・ ブレンド用	やや早	有	白	やや弱	やや強
23 銀河のちから	—	東北 223 号	東北 209 号	ハルイブキ	2014	パン用・め ん用	やや早	有	褐	中	中
24 ゆきはるか	—	東北 224 号	キヌヒメ	きぬあずま	2014	菓子用	やや早	有	白	中	やや強
25 こしちから	平 26 小麦農林 177 号	東北 225 号	東北 209 号	ハルイブキ	—	パン用・め ん用	やや早	有	褐	中	中

大豆

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登 録 年 次	成 熟 期	花 色	葉 形	病虫害抵抗性	
			母	父					センチュウ	SMV
1 ワセシロゲ	農林12号	た系16号	白毛9号	た系6号	1956	早の晩	紫	円	弱	AB
2 ハツカリ	農林18号	東北1号	大白1号	奥羽13号	1959	中の早	紫	円	弱	AB
3 ネマシラズ	農林25号	東北6号	下田不知	純系分離	1961	晩	紫	円	強	AB
4 ムツメシロ	農林38号	東北16号	白蔬太	本育65号	1965	早の晩	紫	円	弱	(A)(B)
5 ライデン	農林42号	東北27号	農林4号	ネマシラズに γ 線照射	1966	中の早	紫	円	強	AB
6 ムツシロタマ	農林45号	東北13号	白蔬太	白鶴の子	1967	中	白	円	弱	弱
7 ワセシロメ	農林46号	東北17号	農林4号	本育65号	1967	早の晩	紫	円	弱	AB
8 ライコウ	農林52号	東北28号	東北6号	ネマシラズに γ 線照射	1969	中	紫	円	強	AB
9 オクシロメ	農林59号	東北35号	東北6号	南郡竹館	1972	中の晩	紫	円	強	AB
10 カルマイ	農林60号	東北32号	ライデン	山白玉	1973	中の早	紫	円	強	弱
11 ナンブシロメ	農林62号	東北40号	ネマシラズ	北見長葉(白臍)	1977	中	紫	長	強	AB
12 デワムスメ	農林63号	東北45号	刈系52号	Harosoy	1977	中	紫	円	強	ABCD
13 スズユタカ	農林76号	東北65号	刈系52号	東北35号	1982	中の晩	紫	円	強	ABCD
14 タチコガネ	農林77号	東北61号	関東53号 (シロセンナリ)	東北35号 (オクシロメ)	1983	中の早	紫	円	強	AB
15 ワセズナリ	農林78号	東北70号	コケシジロ	オクシロメに γ 線照射	1983	早	紫	円	強	AB
16 フクシロメ	農林82号	東北41号	ユウヅル	刈交36F7	1985	早の晩	紫	円	強	AB
17 スズカリ	農林83号	東北69号	房成	オクシロメ	1985	中	紫	円	強	AB
18 タチユタカ	農林86号	東北80号	納豆小粒に γ 線照射	刈系92号	1987	中の晩	紫	円	弱	ABCD
19 コスズ	農林87号	東北85号	東北52号	刈系102号	1987	中	紫	円	弱	AB
20 トモユタカ	農林92号	東北92号	スズユタカ	刈交343F7	1990	中の早	紫	円	強	ABC
21 リユウホウ	農林100号	東北113号	刈系244号	刈系221号(コスズ)	1995	中の早	紫	円	強	AB
22 鈴の音	農林101号	東北115号	刈交296F6	刈系237号	1995	早の晩	紫	長	弱	AB
23 おおすず	農林109号	東北112号	刈交296F6	刈系237号	1998	中の早	紫	円	弱	AB
24 たまうらら	農林112号	東北118号	スズユタカ	エンレイ	1999	中の早	紫	円	弱	AB
25 ハタユタカ	農林113号	東北128号	東北96号	刈系434号に γ 線照射	2001	晩の早	紫	円	強	ABCD
26 ゆめみのり	農林117号	東北124号	赤青D165	デワムスメ	2002	中の晩	紫	円	弱	ABCD
27 ふくいぶき	農林122号	東北126号	スズユタカ	タチユタカ	2002	中の晩	紫	円	強	ABCD
28 青丸くん	農林123号	東北141号	刈交778F5	九交335F2(γ)-M4	2002	中の早	紫	円	弱	CD
29 すずさやか	農林125号	東北135号	刈系508号	コスズ	2003	中の晩	紫	円	強	ABCD
30 すずかおり	農林127号	東北148号	刈交778F5	刈交0459F1	2004	中	紫	円	弱	ABCD
31 きぬさやか	農林130号	東北151号	刈交778F5	コスズ	2005	晩の早	白	卵形	弱	ABCD
32 すずほのか	農林135号	東北146号	東北129号	刈交0264MYF6	2007	やや	紫	三角形	弱	ABCD
33 里のほほえみ	農林139号	東北160号	フクシロメ	刈系623号	2009	晩	白	鋭先卵形	弱	ABCD
34 あきみやび	平25だいわ農林146号	東北164号	東北143号	刈系675号	2015	中	紫	鋭先卵形	弱	ABCD
35 シュウリュウ	平25だいわ農林147号	東北166号	東北156号	ふくいぶき	2015	やや	紫	鋭先卵形	弱	ABCD
36 はたむすめ	平25だいわ農林150号	東北171号			-	やや	紫	鋭先卵形	強	ABCD

注1. 病虫害抵抗性: SMV はダイズモザイクウイルスであり、A、B、C、Dはウイルスの系統別抵抗性を示す。

大麦 (皮麦)

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	用途	成熟期	収量性	耐寒雪性	精麦適性	病害抵抗性 うどんこ病
			母	父							
1 ミユキオオムギ	農林 24 号	東北皮 14 号	はがねむぎ	北陸皮 26 号	1975	精麦用	中	多	強	中	中
2 シンジュボシ	農林 36 号	東北皮 34 号	東北皮 30 号	シュンライ	2002	精麦用	やや早	やや多	やや強	大	中
3 小春二条	-	東北皮 38 号	(ニシノゴールド×ミユキオオムギ) F1	ミナルゴールド	2008	醸造用等	中	やや多	やや弱	やや大	中

そば

品 種 名	登録番号	旧系統名	育 種 素 材	登録年次	用 途	育成日数	耐倒伏性	播種期	収量性	千粒重
1 にじゆたか	—	東北 1 号	葛生在来と戸隠在来(秋)を相互交配・集団採種し、個体別系統から選抜	2014	めん用	やや短	強～極強	夏播き用	中	大

はとむぎ

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	用 途	成熟期	草 丈	収量性	粒 重	葉枯病
			母	父							
1 はとむすめ	農林 1 号	奥羽 2 号	「岡山在来」	「線照射突然変異」	1992	飲用等	中	中	多	中の軽	中
2 はとひかり	農林 2 号	奥羽 3 号	「岡山在来」	「線照射突然変異」	1995	飲用等	中の晩	中	中の多	中の重	中
3 はとじろう	農林 3 号	東北 2 号	「黒石在来」	より純系分離	1995	飲用等	早	短	中の少	中の重	中
4 はとゆたか	農林 4 号	東北 3 号	東北 1 号	奥羽 4 号	2004	飲用等	中の早	短	多	中の重	やや弱
5 はときさら	—	東北 4 号	東北 1 号	オホーツク 1 号	2013	飲用等	極早	極短	中	中	やや弱

なたね

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	用途	成熟期	収量性	耐倒伏性	エルシンの有無	菌核病抵抗性
			母	父							
1 トワダナタネ	農林44号	東北67号	東北41号 (アサヒナタネ)	MR1号	1973	搾油用	中の晩	多	やや弱	有	やや弱
2 カミキタナタネ	農林45号	東北77号	東北67号 (アサヒナタネ)	ミホナタネ	1986	搾油用	中の晩	やや多	強	有	強
3 アサキノナタネ	農林46号	東北82号	アサキノナタネ	Z.E.N	1990	搾油用	中の早	やや多	やや弱	無	弱
4 キザキノナタネ	農林47号	東北84号	アサキノナタネ	Rapora	1990	搾油用	中の晩	多	強	無	強
5 キラリボシ	農林48号	東北90号	盛系188	KARAT	2002	搾油用	中	多	やや強	無	やや強
6 ななしきぶ	農林49号	東北91号	盛系148	オオミナタネ	2002	搾油用	中	多	強	無	やや強
7 菜々みどり	-	東北89号	キザキノナタネ	カミキタナタネ	2004	搾油・野菜用	中の晩	多	強	無	強
8 キタノキラメキ	-	東北97号	キザキノナタネ	Onyx	2014	搾油用	晩	多	強	無	強
9 ななはるか	平25ななはるか農林50号	東北96号	チサキノナタネ	盛脂148	2016	搾油用	中の早	中	やや強	無	中
10 きらから銀河	-	東北99号	チサキノナタネ	キラリボシ	-	食油用	中の早	多	強	無	弱

なばな

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	用途	収穫期	収量性	食味	表皮のロウ質	根こぶ病抵抗性
			母	父							
1 はらの輝	農林1号	盛系234号	トワダナタネの突然変異		1994	野菜用	晩	中	極良	無	無

トマト

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	用途	熟期	草姿	果実の特性		
			母	父					形	大きさ	色
1 みのり	農林3号	東北4号	Pritchard	Victor	1957	加工用	早	心止り	扁球	大	赤
2 KGM051	-	KC02-115	とまと中間母 本農10号	PK341	2008	生食用	やや晩	普通	腰高球	やや大	濃赤
3 すずこま	-	盛平1号	A-33-129-91	Piline	2013	加工用	極早	心止り	腰高球	やや中	赤

はくさい

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	品種	熟期	輸 送 貯蔵性	球の特性		
			母	父					形	大きさ	かぶり
1 あさひ	農林1号	東北4号	千葉1号	花心	1957	長	早	低	丸～砲弾型	中	やや浅
2 みちのく	農林2号	東北5号	白色包頭連	松島2号	1957	長	中の早	良	砲弾型	やや大	やや浅

ねぎ

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	用途	品質特性			形態的特性	
			母	父			葉身部	辛味	草丈	葉身分枝の縮まり	分けつ発生頻度
1 TAM-1	-	TAM-1	元蔵×他4種		2014	F1播種用	軟	少	やや短	優	低

いちご

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	用途	収穫期	収量性	食味	果実硬度	病 害 抵抗性
			母	父							
1 なつあかり	農林21号	盛岡29号	サマーベリー	北の輝	2004	生食用	四季成り性	中	四季成り性 品種の中で良 ～極良	やや軟	うどんこ病 に中
2 デコルージュ	農林22号	盛岡31号	Pajaro	盛岡26号	2004	ケーキ用	四季成り性	中～多	四季成り性 品種の中で良	硬	うどんこ病 に強
3 豊雪姫	-	盛岡35号	盛岡32号	カレンベリー	2014	生食用・ ケーキ用	一季成り性	多	良	中	炭疽病に強

しば

品 種 名	登録番号	旧系統名	育 種 素 材	登録年次	形態及び生態的な特徴	病害抵抗性
1 チバラフロン	-	愛媛41-5号	しば在来42系統よりラージパッチ耐病性、初冬季緑色保特性選抜試験を経て1系統を選抜	2003	冬枯れの開始が遅く、初冬季の緑度保持力が高い	ラージパッチに対する抵抗性

注1.「チバラフロン」は、千葉県との共同育成品種である。

しろくろーバ

品 種 名	登録番号	旧系統名	合 成 母 材 名	登録年次	形態及び生態的な特徴	病害抵抗性
1 キタオオハ	農林1号	東北1号	Oregon Lasino, Italy Ladino, 東北農試在来より選抜した6栄養系により合成	1971	国産初の大葉型品種で採草用、瘦地での生産性良好	モザイク病、汚斑病に抵抗性
2 マキバシロ	農林2号	東北9号	Tregor (F), Pertina (NL), 5849 (Aus)より選抜した8栄養系により合成	1980	中葉型でやや大葡萄系の伸長が大採草適性良好	褐斑病、そばかす病等に抵抗性
3 ミネオオハ	農林4号	東北15号	海外育成50品種より選抜した32栄養系により合成 外国産6品種を母体に合成	1989	大葉型で永続性、オーチャードグラスとの混播性、窒素耐性に優れる	
4 ノースホワイト	農林5号	東北21号	USDAより導入したPI223824 (AFG)、228367 (IR)、234264 (IRQ)、245124 (USA)、250996 (YUG)、253322 (YUG)、287989 (SPN)、300157 (SAF)より選抜した50栄養系により合成	1994	国産初の小葉型で放牧専用、チモシーとの混播、適性、永続性に優れる	菌核病抵抗性

桑

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	系統型	先枯れ	収葉量	密植適合性	病害抵抗性 (縮葉細菌病性)
			母	父						
1 みつしげり	桑農林10号	東61-03	No.71	改良単返	1988	ヤマグラフ系	少ない	良質多収	良好	やや強

フェストロリウム

品 種 名	登録番号	旧系統名	育 種 素 材	登録年次	形態及び生態的な特徴	病害抵抗性
1 東北1号	-	東北1号	フェストロリウム既存3品種1299個体から集団及び母系選抜法によって選抜した13系統の多交配による	2012	草丈が高く、採草に向く多収系統。耐湿性に優れ、寒冷地の転作田等での栽培にも適する。	冠さび病に抵抗性
2 イカロス	-	盛系1号	フェストロリウム既存品種1651個体から集団選抜法によって選抜した7系統の多交配による	2014	茎数が多く、寒冷地の草地や畑での採草または放牧利用に適する。	冠さび病、雪腐病（褐色小粒菌核）に抵抗性

イタリアングラス亜種

品 種 名	登録番号	旧系統名	育 種 素 材	登録年次	形態及び生態的な特徴	病害抵抗性
1 クワトロ-TK5	-	東北5号	四倍体早生耐雪性系統から集団および母系選抜法により選抜した8系統の多交配による	-	早生で耐雪性に優れ、東北地域での二毛作体系での飼料生産が可能	雪腐病に抵抗性

3) 作物遺伝資源・作物品種の受入・移管・増殖・配布・保存数

作物名	平成 27 年度		平成 27 年度末 保存数	平成 27 年度		備考
	受け入れ	移管		再増殖	配布	
水 稲	0	0	931	50	0	
小 麦	0	66	80	0	0	
大 麦	0	27	38	0	0	
大 豆	117	77	393	150	0	
ナ タ ネ	0	0	127	0	0	
ハ ト ム ギ	10	10	12	10	0	
ア ワ	0	0	2	0	0	
ル タ バ ガ	0	0	1	0	0	
ツケナ(ナタネ類)	0	0	4	0	0	
カ ブ	0	0	11	0	0	
キ ビ	0	0	1	0	0	
ジ ュ ズ ダ マ	0	0	40	0	0	
ソ バ	0	0	2	0	0	
ホ ウ レ ン ソ ウ	0	0	601	10	0	
ト マ ト	0	0	1,847	0	0	
イ チ ゴ	5	0	412	60	13	
イタリアンライグラス	0	0	14	0	0	
ペレニアルライグラス	0	0	36	0	0	
ハイブリッドライグラス	0	0	37	0	0	

作物名	平成 27 年度		平成 27 年度末 保 存 数	平成 27 年度		備 考
	受け入れ	移 管		再増殖	配 布	
オーチャードグラス	0	0	14	0	0	
リードカナリーグラス(くさよし)	0	0	61	0	0	
ウシノケグサ類	0	0	6	0	0	
しば	0	0	67	0	0	
ススキ属	24	0	88	0	0	
合 計	156	180	4,825	280	13	

4. 広 報 活 動

1) 所刊行物

平成 27 年度に出版した刊行物（会議資料は除く）は、次のとおりである。なお、研究報告等に収録された論文題名は「1. 研究成果の発表」に掲載してある。

(1) 研究報告、ニュース、年報等

誌 名 (巻 号)	印 刷 数
東北農業研究センターたより No. 46	2,700
東北農業研究センターたより No. 47	2,700
東北農業研究センターたより No. 48	2,700
東北農業研究センター研究報告 No. 118	850
東北農業研究センター農業経営研究第 33 号	500

(2) 広報誌（要覧、パンフレット等）

誌 名	印 刷 数
平成 27 年度東北地域マッチングフォーラム講演要旨集	400
「転炉スラグによる土壌 PH 矯正を核とした土壌伝染性フザリウム病の被害軽減技術」研究成果集（詳細版）	500
東北農業研究センターシンポジウム講演要旨	330
東北農業研究センターで育成した品種パンフレット	2,000
開放型研究施設ご案内	500
極晩生一季成り性イチゴ「豊雪姫」	2,000
世界的にめずらしいもち小麦「もち姫」	2,000
「転炉スラグによる土壌 pH 矯正を核とした土壌伝染性フザリウム病の被害軽減技術」研究成果集	2,000
クッキングトマト・レシピ集	2,000
東北・北陸地域におけるタマネギの春まき栽培技術 技術解説編	1,000
農林水産省攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業「東北日本海側多雪地域における畜産との地域内連携を特徴とした低コスト大規模水田輪作体系の実証研究」	3,000

2) 視察者、見学者の受入（一般公開は除く）

区分	生産者	消費者	青少年	マスコミ	行政	研究機関 (大学等)	民間	海外	その他
件数	24	9	9	1	10	30	14	4	2
人数	405	146	802	3	79	383	65	41	19

3) 催事（一般公開・イベント・体験学習等）及び協力

(1) 研究所一般公開

公開名	開催日	開催場所	参加者数
大仙研究拠点一般公開 「東北の水稲・大豆研究の最前線」	H27. 8. 29	東北農研大仙研究拠点	263
東北農研公開デー 「Let's Go! みんなで楽しく農力アップ!」	H27. 9. 5	東北農研本所	1,756
福島研究拠点一般公開	H27. 9. 11-12	福島県農業総合センター	296

(2) イベント

イベント名	開催日	開催場所	参加者数
なし			

(3) 科学技術離れ対策の協力状況

イベント名	主催者（共催）	協力の内容	開催日	開催場所	参加者数
平成27年度ひらめき・ときめきサイエンス「アクアポリンって何?～植物が体をみずみずしく保つしくみについて調べてみよう～」	(独) 日本学術振興会	研究機関で行っている最先端の科研費の研究成果について、高校生を対象に、研究体験を通じて、科学研究への興味を深めるプログラムを実施。	H27. 9. 19	東北農研本所	20
農業体験学習	盛岡市立北厨川小学校	地元小学校からの依頼で、3学年児童に農業体験学習を実施。	H27. 5 ~ H27. 11 の期間で 8日間	東北農研本所	472
田んぼの科学教室	東北研大仙研究拠点	水田を中心とした作物（稲及び大豆）の育成について講義と実習を実施。	H27. 6. 30 H27. 7. 6 ～ 7. 7	大仙研究拠点	202
職場体験学習	盛岡市立北陵中学校	総合的な学習の職場体験学習として2年生を受け入れ、野菜栽培研究及び牧草育種研究の補助業務について、作業体験を実施。	H27. 7. 8	東北農研本所	7

イベント名	主催者（共催）	協力の内容	開催日	開催場所	参加者数
職場体験学習	盛岡市立渋民中学校	総合的な学習の職場体験学習として2年生を受け入れ、畜産研究補助業務（牛舎と放牧地の仕事）について、作業体験を実施。	H27. 10. 27	東北農研本所	2
職場体験学習	岩手県立盛岡農業高等学校	総合的な学習の職場体験学習として動物学科2年生を受け入れ、畜産研究（牛肉のうま味成分分析業務）について、作業体験を実施。	H27. 11. 9 ～ 11. 11	東北農研本所	6
職場体験学習	八幡平市立安代中学校	総合的な学習の職場体験学習として2年生を受け入れ、畑作物育種研究及び畜産研究の補助業務について、作業体験を実施。	H27. 7. 8 ～ 7. 9	東北農研本所	2
社会科学習	秋田魁新報社	地元新聞社からの依頼	H27. 8. 7	大仙研究拠点	2
社会科学習	仙北市立角館小学校	地元小学校からの依頼	H27. 8. 25	大仙研究拠点	80
社会科学習	仙北市立桜木内小学校	地元小学校からの依頼	H27. 11. 2	大仙研究拠点	10
インターンシップ	秋田県立角館高校	地元県立高校からの依頼	H27. 7. 30 ～ 7. 31	大仙研究拠点	3

(4) 科学技術離れ対策以外のイベントへの協力及び参画

イベント名	主催者（共催）	協力の内容	開催日	開催場所
パティスリー&ブーランジェリージャパン 2015	日本イージェイケイ	パンに関するあらゆる原材料・食材・製造技術が一堂に集まるベーカリーに特化した専門展示会。ベーカリー業界の更なる発展の一役を担う展示会として開催。	H27. 6. 16 ～ 6. 18	東京国際展示場
第70回岩手県全国農業機械実演展示会	岩手県農業機械協会	全国農業機械メーカーの最新農業機械を一堂に展示実演し、安全安心な農畜産物の低コスト生産技術・知識を広く情報発信し、農業経営の向上安定を期するとともに、岩手県農業の持続的発展に寄与することを目的に開催。	H27. 8. 28 ～ 8. 30	岩手産業文化センター
医福食農セミナー	農林水産省東北農政局盛岡地域センター	病院や福祉施設の給食等に地場産食材活用の事例等を紹介し、新たな時代のニーズを見据えた地場産食材活用のあり方を考えるセミナー	H27. 9. 10	ホテルルイズ

イベント名	主催者（共催）	協力の内容	開催日	開催場所
第1回品種マッチングミーティング	農林水産省	品種育成者が優れた特性を持つ品種について実需者等に直接説明を行い品種のマッチングを図る	H27.10.5	TKP品川カンファレンスセンター
平成27年度大仙市秋の稔りフェア	秋田県大仙市	秋田県大仙市地域における、秋の稔りへの感謝と市民の地域農業への理解を求めることを趣旨に開催。	H27.10.24 ～10.25	大仙市役所駐車場等
第138回秋田県種苗交換会	秋田県農協中央会	1878年（明治11年）から続いている秋田県で最大の農業関係イベント。種子交換はもとより、農業に関連する様々な展示、販売等を秋田県内各市を毎年周り、1週間の会期で開催。	H27.10.29 ～11.4	鹿角市
アグリビジネス創出フェア2015	農林水産省	農林水産・食品産業分野における研究機関、大学等の高い技術シーズや研究開発及びその成果の実用化を支援する制度など、新たなアグリビジネスの創出として開催。	H27.11.18 ～11.20	東京国際展示場
リエゾン-I マッチングフェア2015	いわて産学連携推進協議会（リエゾン-I）	企業のニーズと大学等研究機関の研究シーズとのマッチングを行うため、研究者と企業担当者との個別相談会として開催。	H27.11.4	岩手大学復興祈念銀河ホール
プロ米EXP02015	日本食農連携機構	実需者と生産者と一堂に集めて、魚無用米の安定取引をテーマにしたセミナー&交流商談会	H27.11.24	東京都立産業貿易センター
食のブランドニッポンフェア2015「食のセミナー in 東京」	農研機構	農研機構の開発食材の紹介や試食、食材を利用したメニューの提供を行い、農研機構の知名度アップを図る。	H27.11.27	トラストシティカンファレンス丸の内
食のブランドニッポンフェア2015「食のセミナー+料理教室 in 東京ガス」	農研機構	農研機構の開発食材の紹介や試食、食材を利用したメニューの提供を行い、農研機構の知名度アップを図る。	H27.12.2	東京ガス
第2回品種マッチングミーティング	農林水産省	品種育成者が優れた特性を持つ品種について実需者等に直接説明を行い品種のマッチングを図る	H27.12.10	AP品川
復興・地域応援！ふくしま応援フェア&トークライブ	東北財務局福島財務事務所	「被災地を忘れない」メッセージを発信するとともに、復興・地域支援機関の取り組みが県民に理解されるようにする。	H27.12.19	福島市公会堂

4) シンポジウム・セミナー（主催又は共催）

シンポジウム・セミナー・研究会等名称	開催日	開催場所	参加者数
第 1 回農研機構東北農研市民講座－食品の機能性ってなに？－	H27. 6. 13	東北農業研究センター（盛岡市）	43
第 2 回農研機構東北農研市民講座－お邪魔な植物たち「雑草」とどう付き合う？－	H27. 7. 11	東北農業研究センター（盛岡市）	57
第 3 回農研機構東北農研市民講座－臭いだけがカメムシじゃないんだよ－	H27. 8. 8	東北農業研究センター（盛岡市）	32
第 4 回農研機構東北農研市民講座－日本短角牛と黒毛牛、なにが違う？－	H27. 10. 10	東北農業研究センター（盛岡市）	30
第 5 回農研機構東北農研市民講座－外国産にひけをとらない国産小麦－	H27. 11. 14	東北農業研究センター（盛岡市）	36
第 6 回農研機構東北農研市民講座－農研機構東北農研が今後重点的に取り組む農業研究－	H27. 12. 12	東北農業研究センター（盛岡市）	26
平成 27 年度第 1 回東北農研セミナー	H27. 6. 5	東北農業研究センター福島研究拠点（福島市）	38
平成 27 年度第 2 回東北農研セミナー	H27. 7. 13	東北農業研究センター（盛岡市）	66
平成 27 年度第 3 回東北農研セミナー	H27. 11. 12	東北農業研究センター（盛岡市）	112
平成 27 年度第 4 回東北農研セミナー	H28. 2. 19	東北農業研究センター（盛岡市）	21
放射性物質対策に関わる問題の抽出と対策に関するワークショップ 第 1 回 畑作に関連した問題と対策	H27. 4. 27	畜産草地研究所那須研究拠点（那須塩原市）	25
第 1 回大課題 510 参画任期付研究員ワークショップ－農業における放射性物質対策対策－	H27. 5. 19 ～ 5. 20	いわき産業創造研究館（いわき市）	34
農林水産省委託プロジェクト「広域・大規模生産に対応する業務・加工用作物品種の開発（実需者のニーズに応じた広域適正を持つ小麦・大麦品種等の開発）」（バリュープロ）現地検討会	H27. 6. 2	宮城県涌谷町、福島県南相馬市	49
2015 年度福島県野生動物情報交換集会	H27. 6. 11	東北農業研究センター福島研究拠点（福島市）	13
放射性物質対策に関わる問題の抽出と対策に関するワークショップ 第 2 回 牧草地に関連した問題と対策	H27. 6. 25	福島県川俣町、東北農業研究センター福島研究拠点（福島市）	31
食料生産地域再生のための先端技術展開事業「土地利用型営農技術の実証研究」平成 27 年度現地検討会	H27. 7. 14 ～ 7. 15	耕谷アグリサービス（名取市）、TKP ガーデンシティ仙台	144
平成 27 年度攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業「東北日本海側水田輪作」青森県現地検討会	H27. 7. 17	青森県つがる市、出来島コミュニティ消防センター（つがる市）	70
第 58 回東北農業試験研究発表会	H27. 7. 28	山形テルサ（山形市）	183

シンポジウム・セミナー・研究会等名称	開催日	開催場所	参加者数
食料生産地域再生のための先端技術展開事業「中小区画土地利用型営農技術の実証研究」平成27年度現地検討会	H27. 7. 30 ～ 7. 31	陸前高田市、岩手農業研究センター（北上市）	50
農林水産業の革新的技術緊急展開事業（うち産学の英知を結集した革新的な技術体系の確立）「雑草種子および漏生作物種子を防除する自走式蒸気処理防除機の開発と実証」現地検討会	H27. 7. 30 ～ 7. 31	自然農法国際研究開発センター農業試験場（松本市）、安曇野市現地圃場	15
平成27年度プロジェクト研究「米粉利用に適した品種及び低コスト粉碎技術の開発」現地検討会	H27. 8. 25 ～ 8. 26	東北農業研究センター大仙研究拠点（大仙市）、大湯村現地	20
放射性物質対策に関わる問題の抽出と対策に関するワークショップ 第3回 水田作に関連した問題と対策	H27. 8. 28	中央農業総合研究センター（つくば市）	28
平成27年度攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業「東北日本海側水田輪作」秋田県現地検討会	H27. 9. 1 ～ 9. 2	能代グリーンファーム常磐、秋田県畜産試験場、ゲストハウス「フォーシーズン」（大仙市）	67
平成27年度東北ソバフォーラム	H27. 9. 10	山形県農業総合センター（山形市）	51
平成27年度農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業「豚排泄物由来肥料を最大限活用した飼料用米の多収栽培技術の開発」現地検討会	H27. 10. 5	岩手県一関市内現地圃場、フリーデン大東農場（一関市）	17
タマネギ凍結乾燥粉末中のケルセチン含有量測定法講習会	H27. 10. 8	東北農業研究センター（盛岡市）	7
農業生態系における放射性セシウムの吸着・固定化ー可給化メカニズムの解明に向けたワークショップ	H27. 10. 13	コラッセ福島（福島市）	43
農林水産業の革新的技術緊急展開事業（うち産学の英知を結集した革新的な技術体系の確立）「雑草種子および漏生作物種子を防除する自走式蒸気処理防除機の開発と実証」現地検討会	H27. 10. 14	おきたま興農舎（山形県高島町）	27
食料生産地域再生のための先端技術展開事業「露地園芸技術の実証研究」平成27年度現地検討会加工・業務用ハウレンソウ分科会（機械収穫実演及び研修会）	H27. 11. 4	農事組合法人林ライス圃場（岩沼市）	93
平成27年度青果物流通システム高度化事業（全国推進事業）加工・業務用野菜生産振興研修会、食料生産地域再生のための先端技術展開事業「露地園芸技術の実証研究」現地検討会	H27. 11. 4	農事組合法人林ライス圃場（岩沼市）、岩沼市民会館	150
農業環境技術公開セミナー in 秋田「環境と食の安全を守る農業環境」	H27. 11. 12	秋田県農業試験場（秋田市）	73
放射性物質対策に関わる問題の抽出と対策に関するワークショップ 第4回 果樹・茶に関連した問題と対策	H27. 11. 13	野茶研金谷茶業研究拠点（島田市）	27

シンポジウム・セミナー・研究会等名称	開催日	開催場所	参加者数
平成 27 年度東北地域マッチングフォーラム「野菜導入が新たな水田作経営を創る－水田輪作で収益向上をめざすために－」	H27. 11. 20	山形テルサ（山形市）	206
東北農研シンポジウム「鉄鋼スラグは有望な資材となり得るか？－農業分野での技術開発の可能性を探る－」	H27. 11. 27	東京農業大学横井講堂（東京都）	194
ジャイアントミスカンサス研修会	H27. 12. 12	東北農業研究センター（盛岡市）	17
東北ソバ研究会	H28. 2. 10	仙台合同庁舎（仙台市）	47
攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業「東北日本海側多雪地域における畜産と地域内連携を特徴とした低コスト大規模水田輪作体系の実証」平成 27 年度青森県現地成果報告会	H28. 2. 10	青森国際ホテル（青森市）	50
平成 27 年度補正予算「革新的技術開発・緊急展開事業」への提案課題「寒冷地北部の日本海側水田地帯における野菜導入と省力的大規模輪作体系の実証」に関するテーブルリサーチ	H28. 2. 16	東北農業研究センター（盛岡市）	30
攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業「東北日本海側多雪地域における畜産と地域内連携を特徴とした低コスト大規模水田輪作体系の実証」平成 27 年度秋田県現地成果報告会	H28. 2. 23	プラザ都（能代市）	52
攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業「東北日本海側多雪地域における畜産と地域内連携を特徴とした低コスト大規模水田輪作体系の実証」平成 27 年度山形県現地成果報告会	H28. 3. 4	山形県農業総合研究センター水田農業試験場（鶴岡市）	70
放射性セシウムによって汚染された農地における中長期的なカリウムによる移行抑制対策の課題化に向けたテーブルリサーチ	H28. 3. 25 ～ 3. 26	東北農業研究センター福島研究拠点（福島市）	17

5. 図書資料収集・文献提供等

◎収書数

平成27年度に収集した図書・資料は以下のとおりである。

	単行書(冊)							資料(冊)		
	和書			洋書			合計	和書		
	購入	寄贈 交換	計	購入	寄贈 交換	計		購入	寄贈 交換	計
本所(厨川)	30	118	148	0	0	0	148	8	86	94
(鍋屋敷)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大仙研究拠点	2	1	3	1	0	1	4	0	7	7
(刈和野)	0	0	0	0	0	0	0	0	8	8
福島研究拠点	24	0	24	3	0	3	27	1	63	64
合計	56	119	175	4	0	4	179	9	164	173

	資料(冊)				逐次刊行物(誌)						合計
	洋書			合計	和書			洋書			
	購入	寄贈 交換	計		購入	寄贈 交換	計	購入	寄贈 交換	計	
本所(厨川)	0	1	1	95	95	420	515	63	420	483	998
(鍋屋敷)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大仙研究拠点	0	0	0	7	17	61	78	3	61	64	142
(刈和野)	0	0	0	8	7	0	7	0	0	0	7
福島研究拠点	0	1	1	65	29	17	46	0	17	17	63
合計	0	2	2	175	148	498	646	66	498	564	1,210

管理換え等による収集数・除籍数

	収書数					除籍数				
	単行書	資料	逐次刊行物	合計(冊)	視聴覚資料	単行書	資料	逐次刊行物	合計(冊)	視聴覚資料
本所(厨川)	0	0	0	0	0	47	14	0	61	0
(鍋屋敷)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大仙研究拠点	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(刈和野)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福島研究拠点	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	47	14	0	61	0

注：視聴覚資料はマイクロフィルム(ロール、フィッシュ)や映像テープをさす。

◎蔵書数

平成 27 年度末の蔵書数は以下のとおりである。

	単行書(冊)			資料(冊)			単行書・資料合計(冊)	
	和書	洋書	計	和書	洋書	計	和書計	洋書計
本所(厨川)	21,846	3,564	25,410	27,206	1,211	28,417	49,052	4,775
(鍋屋敷)	1,287	380	1,667	7,440	47	7,487	8,727	427
大仙研究拠点	3,252	6,131	9,383	6,682	211	6,893	9,934	6,342
(刈和野)	1,050	170	1,220	1,022	14	1,036	2,072	184
福島研究拠点	4,181	740	4,921	11,361	226	11,587	15,542	966
合計	31,616	10,985	42,601	53,711	1,709	55,420	85,327	12,694
		逐次刊行物(誌)			視聴覚資料等			
	合計	和書	洋書	計	ロールフィルム	フィッシュフィルム	映像テープ	その他
本所(厨川)	53,827	4,940	1,356	6,296	104	9,243	60	225
(鍋屋敷)	9,154	340	18	358	0	0	0	0
大仙研究拠点	16,276	670	162	832	0	0	0	0
(刈和野)	2,256	20	2	22	0	0	0	0
福島研究拠点	16,508	3,996	1,422	5,418	0	0	0	0
合計	98,021	9,966	2,960	12,926	104	9,243	60	225

◎サービス

平成 27 年度に情報広報課(厨川)及び隔地図書室で行ったサービスは以下のとおりである。

	貸出 冊数	コンテンツ・サービス		文献複写サービス					
		誌数	延べサービス 研究室数	外部への複写依頼件数			外部からの複写依頼件数		
				農水関係 機関	外部機関	合計	農水関係 機関	外部機関	合計
本所(厨川)	153	8	62	113	45	158	116	61	177
(鍋屋敷)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大仙研究拠点	39	0	0	17	3	20	1	0	1
(刈和野)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福島研究拠点	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	192	8	62	130	48	178	117	61	178

Ⅲ 連携・研修・技術協力

III 連携・研修・技術協力

1. 産学官の連携・協力

1) 産学官連携支援活動

平成19年4月1日に発足した「産学官連携支援センター」では、①新品種や新技術等の研究成果を農業者や農業団体、企業等の実需者にPRするとともに、その普及・定着を図ること、②東北農研の保有する研究能力や研究成果を活用した共同研究や共同開発を支援すること、の2つを主な業務として活動している。

(1) 出前技術指導

平成20年度に発足した出前技術指導制度は、東北農研が研究開発した栽培技術、品種、機械等について、研究担当者が農業者、農業団体、企業等の要請に応じて現地に出向き指導するものである。平成27年度に実施した技術指導の内容は、「田畑輪換による地力の変化とその維持改善方法に関する技術指導」「田畑輪換による地力の変化とその維持改善方法に関する技術指導」「大豆狭畦密植栽培技術の導入に関する技術指導」「湛水直播・移植における最近の難雑草防除法」など水田作、畑作関連を中心とし、実施回数は27回を数えた。

(2) テーブルリサーチ、ミニテーブルリサーチ

農食事業などの競争的資金を活用した産学官連携によるプロジェクト研究、あるいは地域戦略プロなどの大型の現地実証事業について、東北農研が中核機関として企画し提案することを目指し開催している。「テーブルリサーチ」では、構想されている技術開発の必要性や研究計画の妥当性について、関係する研究者、有識者を広く集めて素案段階で検討し、「ミニテーブルリサーチ」では、

おおむね固まった素案をもとに研究者グループが具体的な研究計画や申請書案を検討する。

平成27年度は、2月16日に「平成27年度補正予算『革新的技術開発・緊急展開事業』への提案課題『寒冷地北部の日本海側水田地帯における野菜導入と省力的大規模輪作体系の実証』に関するテーブルリサーチ」、3月25日に「放射性セシウムによって汚染された農地における中長期的なカリウムによる移行抑制対策の課題化に向けたテーブルリサーチ」を開催した。前者については、当該テーブルリサーチでの検討をふまえ提案課題をブラッシュアップした結果、「革新的技術開発・緊急展開事業」(地域戦略プロ)において採択された。また、後者については、今後、農水省委託プロもしくは科研費への応募を検討することとした。

(3) いわて産学連携推進協議会(リエゾン-I)

本協議会の目的は、研究機関会員のシーズと岩手県内企業等のニーズとをマッチングさせることにより、新たなビジネスの創出を図り新産業育成や地域雇用の創出に努めるとともに、研究機関会員の各種研究成果のビジネス化に向けた支援及び外部資金調達の支援を行うことにある。11月4日に岩手大学復興祈念銀河ホールで開催されたいわて産学官連携フォーラム(リエゾン-I マッチングフェア2015)には、近年の研究成果として「転炉スラグを用いた土壌pH矯正による土壌病害被害軽減技術」「病害に強く良質なダイズ新品種『シュウリュウ』」「晩春から初夏の端境期に出荷可能な多収イチゴ新品種『豊雪姫』」の3件を出展した。

2) 行政との連携・協力

(1) 東北地域研究・普及連絡会議

本会議は 19 年度に創設された。27 年度は 11 月 4 日に仙台合同庁舎で開催され、①東北地域研究・普及連絡会議開催要領の改正について、②農林水産技術会議事務局及び生産局技術普及課関連の予算要求、③「国の施策で対応すべき技術的課題」候補の選定、④「新品種・新技術の開発・保護・普及の方針」に基づき導入が期待される品種・技術の普及について、⑤農業新技術 200X 等の普及、⑥研究機関と普及組織の連携、について説明及び意見交換が行われた。③では東北農業試験研究推進会議を通じて各機関より提出された 62 課題、④では同じく 4 課題が了承され、研究推進課に提出されることとなった。⑤では、農業新技術 200X の普及展開方法について、それぞれ意見交換があった。

(2) 東北地域農林水産・食品ハイテク研究会対応役員（所長）、企画委員（企画管理部長）、運営協力（上席研究員）として活動に参画した。6 月 4 日に仙台市内で開催された企画委員会では 26 年度活動報告と 27 年度活動計画が審議された。また、7 月 1 日に TKP ガーデンシティ勾当台で開催された役員会・総会において、27 年度事業計画と予算案が承認された。

東北地域において農林水産省等の競争的資金を活用した産学官連携共同研究の課題化を推進するため、産学官連携共同研究検討会議を開催した。12 月 11 日にいわて県民情報交流センター（盛岡市）において、1 月 15 日に TKP ガーデンシティ勾当台（仙台市）において、計 2 回開催し、研究開発推進委員（競争的資金への応募・採択経験の豊富な各種分野の研究者）、地域アドバイザー（国

立研究開発法人・公設試験研究機関の研究者）等が、競争的資金に応募する共同研究課題について、課題提案者に対する指導・助言を行った。

3) 大学との連携・協力

連携大学院

農研機構は、産学官連携、協力の促進強化の中で連携大学院制度等を活用し、大学との一層の連携強化を図ることとしている。

東北農研では、平成 18 年度より岩手大学院連合農学研究科と「連携大学院協定」を締結し、大学院生への研究指導を行っている。平成 27 年度は、14 名の研究者が客員教授の発令を受け、大学院教育に参加した。

4) 共同研究・協定研究等の実施状況

(金額：千円)

分類	共同研究		協定研究		備考
	件数	農研機構予算額	件数	農研機構予算額	
国	1	—	0	—	
大 学	8	2,400	14	—	
地方公共団体	11	500	12	—	
民 間	11	5,000	11	—	
他 独 法	2	1,400	5	—	
そ の 他	3	—	10	—	
合 計	36	9,300	52	—	

5) 依頼分析等の実施状況

依頼分析・同定の件名	分析点数	依頼を受けた日	延べ日数
牛肉中 α -トコフェロールの分析	32	H27.10.7	2日
玄米のIP(イメージングプレート)分析	5	H27.2.9	5日
粉塵のIP分析	15	H27.3.3	8日
カキのIP分析	1	H27.7.7	20日
水稲のIP分析	6	H27.7.10	8日
カキのIP分析	3	H27.8.4	29日
水稲のIP分析	14	H27.8.13	8日
水稲のIP分析	3	H27.9.2	8日
水稲 モミのIP分析	18	H27.9.3	7日
水稲 モミのIP分析	18	H27.9.16	3日
カキのIP分析	3	H27.9.17	28日
水稲のIP分析	4	H27.9.24	3日
水稲 モミのIP分析	20	H27.9.25	3日
水稲 モミのIP分析	7	H27.9.26	3日
牧草のIP分析	12	H27.10.16	8日
たばこのIP分析	10	H27.10.19	8日
カキのIP分析	8	H27.10.28	30日
カキのIP分析	13	H27.12.2	8日
牧草候補系統の共生糸状菌感染状況調査	300	H27.4.1	5日
地下水位の測定	1	H27.8.13	1日
土壌蒸発散の推定	1	H27.8.5	1日
ダイズ収量および収量構成要素	3	H27.10.30	1日
樹園地の雑草の同定	1	H27.6.2	1日
そば畑の雑草の同定	1	H27.6.5	1日
麦畑の雑草の同定	1	H27.6.11	1日
麦子実混入種子の同定	1	H27.6.15	1日
水田雑草の同定	1	H27.6.21	1日
除草剤不効雑草の同定	1	H27.6.23	1日
除草剤不効雑草の同定	1	H27.7.13	1日
大豆畑の雑草の同定	1	H27.8.1	1日
大豆畑の雑草の同定	1	H27.8.25	1日
畑地雑草の同定	1	H27.8.26	1日
畑地雑草の同定	1	H27.8.28	1日
ヒルガオ科雑草の同定	1	H27.9.3	1日
イネ科雑草の同定	1	H27.9.4	1日
野菜畑の雑草の同定	1	H27.11.13	1日
野菜畑の雑草の同定	1	H27.11.24	1日
麦畑の雑草の同定	1	H27.12.3	1日
小麦品質分析	28	H27.9.1	25日
大麦品質分析	15	H27.9.1	5日
オタネニンジンの元素分析	25	H27.9.24	5日
育種家種子「イカロス」の倍数性調査	1	H27.9.8	2日
カキのIP分析	5	H27.12.18	5日
カキのIP分析	6	H28.1.5	8日
カキのIP分析	14	H28.1.19	8日

6) 開放型研究施設の利用状況

1. 共同利用した施設一覧

共同利用した施設・機械等
温度勾配実験施設
機能性評価実験棟

2. 機構外部からの利用状況

利用者の類型	利用実績 (人×日)		
	温度勾配実験施設	機能性評価実験棟	計
他独法職員			
大学等	1,111	27	1,138
公立試験研究機関		22	22
民間			
その他	141	96	237
合計	1,252	145	1,397

3. 機構外部からの利用目的

利用目的の類型	利用実績 (人×日)		
	温度勾配実験施設	機能性評価実験棟	計
共同研究			
協定研究			
依頼研究員			
研修・講習等	8	49	57
その他	1,244	96	1,340
合計	1,252	145	1,397

2. 研究者の受入れ等

1) 交流

流動研究員

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域名	期 間
	なし			

2) 留学

国内留学

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域名	期 間
	なし			

3) 研修・講習等

依頼研究員

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域名	期 間
	なし			

技術講習生

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域名	期 間
岩手大学大学院 農学研究科	1	筋肉および浸漬液に含まれるコラーゲン含量の分析	畜産飼料作研究領域	H27. 4. 1 ~ H28. 3. 31
岩手大学農学部	1	筋肉および浸漬液に含まれるコラーゲン含量の分析	畜産飼料作研究領域	H27. 4. 1 ~ H28. 3. 31
岩手大学大学院 農学研究科	3	肥育牛の枝肉解体研修	畜産飼料作研究領域	H27. 4. 6 ~ H27. 4. 23
岩手大学農学部	4	肥育牛の枝肉解体研修	畜産飼料作研究領域	H27. 4. 6 ~ H27. 4. 23
青森県産業技術 センター畜産研 究所	1	肥育牛の枝肉解体研修	畜産飼料作研究領域	H27. 4. 8 ~ H27. 4. 9
岩手大学農学部	1	牛の妊娠初期での末梢血 遺伝子発現変化の解析	畜産飼料作研究領域	H27. 5. 25 ~ H28. 3. 25
新潟大学大学院 自然科学研究科	1	放射性セシウム吸収に及 ぼす粘土鉱物組成の影響 に関する研究	農業放射線研究セン ター	H27. 8. 10 ~ H27. 8. 14
弘前大学農学生 命科学部	3	バイオ燃料を中心とした 資源循環システムの評価 方法等に関する研修	生産基盤研究領域	H27. 8. 10 ~ H27. 8. 12

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域名	期 間
新潟大学大学院 自然科学研究科	1	放射性セシウム吸収に及ぼす粘土鉱物組成の影響に関する研究	農業放射線研究センター	H27. 8. 24 ~ H27. 8. 28
熊本県農業研究センター草地畜産研究所	1	肥育牛の脂肪酸組成・脂肪の融点の測定技術の習得	畜産飼料作研究領域	H27. 8. 31 ~ H27. 9. 4
北里大学獣医学部	1	生体を用いた牛の繁殖機能に関する研究	畜産飼料作研究領域	H27. 9. 1 ~ H27. 9. 8
岩手大学農学部	1	温度・CO ₂ 濃度上昇が大豆等に及ぼす影響解明	生産環境研究領域	H27. 9. 4 ~ H27. 9. 11
岐阜大学大学院 連合獣医学研究科	1	経膈採卵技術を利用した牛卵巣のバイオプシーに関する技術	畜産飼料作研究領域	H27. 9. 15 ~ H28. 3. 31
茨城大学農学部	1	小麦の加工適性評価に関する研究	畑作園芸研究領域	H27. 9. 24 ~ H27. 9. 30
岩手県農業研究センター畜産研究所	2	飼料中アミノ酸分析、ロース肉中アミノ酸分析、ロース肉せん断力価、ロース肉クッキングロス	畜産飼料作研究領域	H27. 12. 8 ~ H28. 1. 31
山形県農業総合研究センター養豚試験場	1	食肉の剪断力価の測定法技術取得	畜産飼料作研究領域	H28. 1. 5 ~ H28. 1. 15

国際協力事業団研修員

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域名	期 間
	なし			

国際農林水産業研究センター招へい

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域名	期 間
	なし			

4) 外部研究者 招へい研究員

所 属	人 数	目 的	受入研究領域名	期 間
	なし			

日本学術振興会事業外国人特別研究員

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域名	期 間
	なし			

日本学術振興会事業特別研究員

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域名	期 間
—	1	イネの窒素吸収を制御する根系機能の遺伝的特性と窒素環境応答に関する研究	生産基盤研究領域	H26. 4. 1～H30. 3. 31

5) その他

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域名	期 間
キリバス共和国 名誉領事	1	東北農研セミナー「キリバス共和国における燃料・食料自給化の重要性と今後導入すべき技術の方向」講師	生産基盤研究領域	H28. 2. 19～H28. 2. 19

3. 研究者の派遣等

1) 交流

流動研究員

所 属	人 数	課 題 名	派 遣 先	期 間
	なし			

2) 留学

国内留学

所 属	人 数	課 題 名	留 学 先	期 間
	なし			

長期在外研究員

所 属	人 数	課 題 名	派 遣 先 国	期 間
	なし			

3) その他

海外派遣

所 属	人 数	目 的	派 遣 先 国	期 間
畜産飼料作研究 領域	1	良質粗飼料の生産と利用の国際シンポジウム及び畜産科学院海外科学者招聘セミナー講演	大韓民国（国立畜産科学院）	H27. 11. 2～H27. 11. 6

4. 技術協力・指導

1) 研修会等への講師派遣

平成 27 年度に技術指導等の講師派遣依頼を受けた内容は以下のとおりである。

所 属	内 容	期 間	場 所	依 頼 者
生産基盤研究領域	平成27年度関東東海土壌肥料技術連絡協議会春季研究会	H27. 4. 16	千代田区	関東東海土壌肥料技術連絡協議会
水田作研究領域	(出前技術指導) 萌えみのり栽培技術指導	H27. 4. 17	登米市	J Aみやぎ登米
水田作研究領域	(出前技術指導) 「水稲直播栽培」雑草対策と除草剤の使用方法	H27. 4. 23	横手市	横手市水稲病害虫防除協議会、 J A秋田ふるさと
環境保全型農業研究領域	岩手生態学ネットワーク・市民講座「人と自然と生態学」	H27. 5. 16	盛岡市	岩手生態学ネットワーク
水田作研究領域	東北地域における大豆等に関する指導	H27. 6. 9	花巻市	岩手県豆腐流通協議会
水田作研究領域	(出前技術指導) 「萌えみのり」の直播・移植栽培のポイント	H27. 6. 10	横手市	J A秋田ふるさと
水田作研究領域	東北地域における直播適性品種を用いた鉄コーティング直播栽培	H27. 6. 25	水戸市	農林水産省農林水産研修所
水田作研究領域	(出前技術指導) 飼料用米生育確認、栽培指導	H27. 6. 25 H27. 7. 25 H27. 8. 25	大仙市、仙北市	(合)秋山商店
生産基盤研究領域	平成27年度農研機構－J A全農「新技術普及検討会」におけるご講演について（ご依頼）	H27. 7. 8	千代田区	全国農業協同組合連合会営農販売企画部
水田作研究領域	(出前技術指導) 萌えみのり栽培技術指導	H27. 7. 8	登米市	J Aみやぎ登米
生産基盤研究領域	果樹の流通販売戦略に係る研修会	H27. 7. 9	盛岡市	岩手県農林水産部
水田作研究領域	(出前技術指導) 飼料米専用品種の栽培技術	H27. 7. 15	川西町	置賜地区飼料米生産利用協議会
畑作園芸研究領域	(出前技術指導) 八幡平市・雫石町認定農業者対象現地視察「夏秋イチゴの取組み」	H27. 7. 16	雫石町	雫石町農業経営者協議会
研究支援センター業務第1科	(出前技術指導) 八幡平市・雫石町認定農業者対象現地視察「夏秋イチゴの取組み」	H27. 7. 16	雫石町	雫石町農業経営者協議会

所 属	内 容	期 間	場 所	依 頼 者
農業放射線研究センター	北海道大学（農）「リスクミ食農教育プロジェクト」が開催するシリーズ学習会第1回「農地と農作物はどうなったか」	H27. 8. 3 ～8. 4	札幌市	北海道大学
水田作研究領域	（出前技術指導） 湛水直播栽培（鉄コーティング）	H27. 8. 18	大崎市	宮城県米づくり推進本部
水田作研究領域	（出前技術指導） 飼料用米栽培指導	H27. 8. 18	大仙市、仙北市	（合）秋山商店
水田作研究領域	（出前技術指導） 田畑輪換による地力の変化とその維持改善方法に関する技術指導	H27. 8. 20	大仙市	O-LISA研究会
水田作研究領域	平成27年度東北地区稲作経営者現地研究会	H27. 8. 25 ～ 8. 26	花巻市	岩手県認定農業者組織連絡協議会
水田作研究領域	東北大豆シンポジウムinあおもり	H27. 8. 27	仙台市	東北地域大豆振興協議会（東北農政局生産部）
生産基盤研究領域	（出前技術指導） 大豆狭畦密植栽培技術の導入に関する技術指導	H27. 9. 14	二戸市	農事組合法人金田一営農組合
畜産飼料作研究領域	平成27年度中央畜産技術研修会（放牧）	H27. 9. 30	西郷村	農林水産省生産局
環境保全型農業研究領域	平成27年度新品種新技術コーディネーター活動支援事業新品種新技術コーディネーター研修会（麦類（そばを含む））	H27. 10. 8	港区	（一社）全国農業改良普及支援協会
農業放射線研究センター	放射性セシウムバイオレメディエーションに関する生物学ワークショップ	H27. 10. 14 ～10. 15	港区	在日フランス大使館
水田作研究領域	土作りに関するセミナー	H27. 10. 15 ～10. 16	富山市	富山県農林水産総合技術センター
水田作研究領域	土づくり研究会	H27. 10. 22	仙台市	全国農業協同組合連合会肥料農薬部東北営農資材事業所
環境保全型農業研究領域	平成27年度「特別研修会」	H27. 10. 22	北区	（公社）緑の安全推進協会
農業放射線研究センター	2015（平成27）年度第1回放射能測定分析技術研究会（RAD I研）セミナー	H27. 10. 23	江戸川区	（一社）日本環境分析測定協会
畜産飼料作研究領域	飼料生産技術現地研修会	H27. 10. 30	盛岡市	（独）家畜改良センター岩手牧場

所 属	内 容	期 間	場 所	依 頼 者
畑作園芸研究領域	山形在来作物研究会公開フォーラム	H27. 10. 31 ～11. 1	酒田市	酒田市
生産基盤研究領域	平成27年度営農指導員筆記試験講習会	H27. 11. 6	紫波町	J A岩手県中央会
生産基盤研究領域	「2015年度松園会セミナー」未来の稲作について	H27. 11. 7 ～11. 8	松戸市	松園会
生産環境研究領域	平成27年度「農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業」研究成果発表会inアグリビジネス創出フェア2015での講演	H27. 11. 19	江東区	(公社) 農林水産・食品産業技術振興協会
畑作園芸研究領域	平成27年度「農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業」研究成果発表会inアグリビジネス創出フェア2015での講演	H27. 11. 19	江東区	(公社) 農林水産・食品産業技術振興協会
畑作園芸研究領域	(出前技術指導) 東北地方におけるイチゴ種子繁殖型品種「よつぼし」と夏秋どりイチゴの栽培技術	H27. 11. 20	川内村	㈱KiMiDoRi
畑作園芸研究領域	小麦生産部会矢巾支部研修	H27. 11. 27	矢巾町	岩手中央農業協同組合
生産基盤研究領域	(出前技術指導) 水稲直播における圃場の均平化技術	H27. 12. 3	大崎市	宮城県米づくり推進本部
生産基盤研究領域	第25回ボトムプラウ有機物循環農法体験記授賞式での講演「震災復興から見えた20年後の水田農業」	H27. 12. 7 ～12. 8	土浦市	スガノ農機株式会社
生産環境研究領域	第21回農作物病虫害防除フォーラム	H27. 12. 9	千代田区	農林水産省消費・安全局
畑作園芸研究領域	加工業務用タマネギ研究会平成27年度冬春まきタマネギ栽培試験成績検討会	H27. 12. 10 ～12. 11	平塚市	全国農業協同組合連合会営農販売企画部
生産基盤研究領域	第4回萌えみのり栽培コンテストにおける講演	H27. 12. 11	浦安市	㈱ヤマタネ
生産基盤研究領域	事例に学ぶ「稼げる農業経営」研修会(平成27年度第1回加工技術向上研修会)	H27. 12. 11	南会津町	福島県南会津農林事務所
農業放射線研究センター	第32回資源植物科学シンポジウム「東日本大震災被災農地の営農再開に向けて」	H27. 12. 16	岡山市	国立大学法人岡山大学
企画管理部	寒締めほうれんそう、及びクッキングトマトの導入に向けた課題	H27. 12. 23	二本松市	あぶくま農と暮らし塾

所 属	内 容	期 間	場 所	依 頼 者
生産環境研究領域	砂丘地園芸研究会	H28. 1. 19 ～1. 20	新潟市	新潟砂丘地園芸 振興協議会（新 潟みらい農業協 同組合）
生産環境研究領域	平成27年度病害虫防除員研修会 農作物病害虫防除公開セミナー	H28. 1. 20	郡山市	（後者）福島県 植物防疫協会
水田作研究領域	（出前技術指導） 地球温暖化に対応した水稻朝紫 の移植・直播の安定生産技術	H28. 1. 23	大仙市	大仙市古代稲生 産組合
水田作研究領域	（出前技術指導） 湛水直播・移植における最近の 難雑草防除法	H28. 1. 23	大仙市	大仙市古代稲生 産組合
生産基盤研究領域	（出前技術指導） 大豆の安定多収技術（狭畦密植 栽培）	H28. 1. 25	三種町	集落営農組合八 竜アグリサービ ス
水田作研究領域	（出前技術指導） 萌えみのりの栽培技術指導	H28. 1. 25	登米市	J Aみやぎ登米
畜産飼料作研究領域	平成27年度新技術・普及活動検 討会	H28. 1. 27	滝沢市	中央農業改良普 及センター
畜産飼料作研究領域	平成27年度第1回酪農講演会	H28. 2. 3	山形市	山形県村山総合 支庁
生産基盤研究領域	J I C A「P E A C Eプロジェ クト」研修員に対する技術指導	H28. 2. 7 ～2. 9	津市	三重大学
畑作園芸研究領域	平成27年度麦類種子生産組合総 会（研修会）	H28. 2. 12 ～2. 13	大潟村	大潟村麦類種子 生産組合
農業放射線研究センター	環境と共生する農業推進研修会	H28. 2. 15	郡山市	福島県農林水産 部
水田作研究領域	（出前技術指導） 飼料用米専用品種の栽培技術	H28. 2. 17	川西町	置賜地区飼料米 生産利用協議会
生産基盤研究領域	（出前技術指導） リンゴ直接販売における顧客獲 得のための「おすそわけ袋」活 用ビジネスモデル	H28. 2. 18	鹿角市	鹿角市
農業放射線研究センター	福島環境回復に係るシンポジウ ム	H28. 2. 20 ～2. 21	中央区	国立研究開発法 人 日本原子力研究 開発機構
畑作園芸研究領域	市場を意識した産地形成に関す る勉強会（第2回）	H28. 2. 22	南相馬市	㈱日本総合研究 所
生産基盤研究領域	平成27年度みやぎの環境にやさ しい農業推進セミナー	H28. 2. 23	仙台市	宮城県農林水産 部

所 属	内 容	期 間	場 所	依 頼 者
水田作研究領域	(出前技術指導) 無コーティング代かき同時播種 栽培	H28. 2. 24	登米市	登米市
水田作研究領域	(出前技術指導) 鉄コーティング水稻直播栽培	H28. 3. 3	秋田市	全農秋田県本部
生産環境研究領域	(出前技術指導) 東北地方を対象としたメッシュ 農業気象データ解析ツールと地 図表現	H28. 3. 7	大崎市	宮城県古川農業 試験場
研究支援センター業務第 1科	NHK製作番組「うまいッ！」 カリフラワーの専門家として出 演	H28. 3. 7	渋谷区	(株)NHKプラネ ット四国支社
生産基盤研究領域	平成27年度青森県産業技術セン ター職員自主研修農林系研究に おける現地実証試験の進め方研 修	H28. 3. 7	黒石市	(地独)青森県産 業技術センター 農林総合研究所
水田作研究領域	(出前技術指導) 水稻直播栽培	H28. 3. 9	能代市	秋田県山本地域 振興局農林部
水田作研究領域	宮城県麦・大豆研修会	H28. 3. 14	大崎市	宮城県農林水産 部
畑作園芸研究領域	市場を意識した産地形成に関す る意見交換会	H28. 3. 15	南相馬市	(株)日本総合研究 所
水田作研究領域	(出前技術指導) 萌えみのりの栽培技術について	H28. 3. 16	美里町	J Aみどりの
水田作研究領域	水稻栽培技術について今後の展 開と研究方向を探る	H28. 3. 18	さいたま市	農業食品工学会 農業機械部会
水田作研究領域	(出前技術指導) 飼料用米の栽培方法について	H28. 3. 29	大仙市	(合)秋山商店

2) 海外出張

平成 27 年度に研究・調査・指導等の派遣依頼を受けた海外出張は以下のとおりである。

所 属	内 容	期 間	出 張 先	依 頼 者
畜産飼料作研究領域	海外実用畜産技術等活用推進事 業のための調査	H27. 9. 20 ～H27. 9. 26	イタリア (ベ ネト州立農業 研究機構、パ ドバ大学)	畜産技術協会

3) 講習会等の開催

平成 27 年度に開催した行政・普及部局、農業者等を対象とした講習会、講演会は以下のとおりである。

講習会・講演会名	開催日	参加人数	講 師
(該当無し)			

5. 国際会議・研究集会（参加）

平成 27 年度に国際会議及び研究集会に参加した内容は次のとおりである。

なお、発表者として参加した場合、発表内容は「II 研究情報活動」に記載してある。

所 属	期 間	会 議 名	開 催 場 所
農業放射線研究センター	H27. 6. 19 ～H27. 6. 27	国際シンポジウム Rhizosphere 4	オランダ
生産環境研究領域	H27. 8. 22 ～H27. 8. 29	第18回国際植物保護会議	ドイツ
畑作園芸研究領域	H27. 9. 6 ～H27. 9. 13	International Symposium on Growing Media, Composting and Substrate Analysis (SusGro2015)	オーストリア
水田作研究領域	H27. 9. 12 ～H27. 9. 19	国際耕うん学会20回大会	中国
生産環境研究領域	H27. 9. 12 ～H27. 9. 21	WETPOL 2015	イギリス
水田作研究領域	H27. 9. 16 ～H27. 9. 22	第12回東・東南アジア土壌科学連合国際会議	中国
生産環境研究領域	H27. 9. 26 ～H27. 10. 4	イネ科植物共生糸状菌国際シンポジウム及び植物微生物国際シンポジウム	オーストラリア
畑作園芸研究領域	H27. 10. 17 ～H27. 10. 23	AACCI 2015 Annual Meeting	アメリカ
農業放射線研究センター	H27. 10. 19 ～H27. 10. 25	国際原子力機関 (IAEA) 本部、ウィーン外務部との打ち合わせ	オーストリア(IAEA)
生産環境研究領域	H27. 11. 2 ～H27. 11. 6	大豆の灌漑支援システムの情報収集	アメリカ
水田作研究領域	H27. 11. 1 ～H27. 11. 6	ダイズ灌漑支援システムに関する研究打合せ	アメリカ
生産基盤研究領域	H27. 11. 3 ～H27. 11. 13	コプラ産地における地域内燃料時給システム構築の方策に関するセミナー及び現地調査	キリバス共和国
生産基盤研究領域	H28. 2. 12 ～H28. 2. 23	経営調査および CSA 農家視察	アメリカ (UCLAデービス校、UCLAサンタクルーズ校、稲作農家)

IV 諸会議一覽

IV 諸会議一覧

1. 東北農業研究センター研究課題検討会

会 議 名	期 日	場 所	運 営 責 任 者
畑作園芸研究領域検討会	H27. 12. 21 ～12. 22	盛岡市	畑作園芸研究領域長
生産基盤研究領域検討会	H27. 12. 24	盛岡市	生産基盤研究領域長
畜産飼料作研究領域検討会	H27. 12. 18	盛岡市	畜産飼料作研究領域長
環境保全型農業研究領域・農業放射線研究センター検討会	H27. 12. 25	福島市	環境保全型農業研究領域長・農業放射線研究センター長
水田作研究領域検討会	H28. 1. 14 ～ 1. 15	大仙市	水田作研究領域長
生産環境研究領域検討会	H28. 12. 11、 H28. 1. 13	盛岡市	生産環境研究領域長

2. 東北農業研究センター試験研究推進会議

1) 研究戦略会議・推進部会等

会 議 名	期 日	場 所	運 営 責 任 者
東北農業試験研究推進会議 研究戦略会議	H27. 10. 19	盛岡市	企画管理部長
東北農業試験研究推進会議 果樹推進部会	H28. 1. 25 ～ 1. 26	盛岡市	果樹研究所リンゴ研究領域長
東北農業試験研究推進会議 畑作物推進部会	H28. 1. 28 ～ 1. 29	盛岡市	畑作園芸研究領域長
東北農業試験研究推進会議 畜産飼料作推進部会	H28. 1. 28 ～ 1. 29	盛岡市	畜産飼料作研究領域長
東北農業試験研究推進会議 生産環境推進部会	H28. 1. 29	盛岡市	生産環境研究領域長
東北農業試験研究推進会議 稲推進部会	H28. 1. 29	盛岡市	水田作研究領域長
東北農業試験研究推進会議 農業生産基盤推進部会	H28. 2. 2	盛岡市	生産基盤研究領域長
東北農業試験研究推進会議 野菜花き推進部会	H28. 2. 4 ～ 2. 5	盛岡市	畑作園芸研究領域長
東北農業試験研究推進会議 本会議	H28. 2. 17	盛岡市	東北農業研究センター 所長

2) 検討会・研究会

会 議 名	期 日	場 所	運 営 責 任 者
土壌肥料研究会（夏期）（生産環境推進部会）	H27. 7. 7	秋田市	生産環境研究領域長
畑作物栽培研究会（夏期）（畑作物推進部会）	H27. 8. 11 ～ 8. 12	米沢市、長井市	畑作園芸研究領域長
農業経営研究会（夏期）（農業生産基盤推進部会）	H27. 8. 19	盛岡市	生産基盤研究領域長
作業技術研究会（夏期）（農業生産基盤推進部会）	H27. 8. 20 ～ 8. 21	秋田市、能代市、大湯村	生産基盤研究領域長
直播研究会並びに水稲直播等低コスト技術現地検討会（稲推進部会）	H27. 8. 20 ～ 8. 21	郡山市	水田作研究領域長
病害虫研究会（夏期）（生産環境推進部会）	H27. 8. 20 ～ 8. 21	山形市	生産環境研究領域長
畜産研究会（夏期）（畜産飼料作推進部会）	H27. 8. 26 ～ 8. 27	仙台市	畜産飼料作研究領域長
果樹推進部会及び寒冷地果樹合同現地研究会	H27. 8. 27 ～ 8. 28	横手市	果樹推進部会長 （果樹研究所リンゴ研究領域長）
野菜研究会（夏期）（野菜花き推進部会）	H27. 8. 27 ～ 8. 28	新庄市、最上町	畑作園芸研究領域長
東北地域麦・なたね品種・系統検討会（畑作物推進部会）	H27. 9. 1	盛岡市	畑作園芸研究領域長
東北地域水稲品種系統立毛検討会（稲推進部会）	H27. 9. 3 ～ 9. 4	山形市、鶴岡市	水田作研究領域長
ソバ研究会（東北ソバフォーラム）（畑作物推進部会）	H27. 9. 10	山形市	畑作園芸研究領域長
花き研究会（夏期）（野菜花き推進部会）	H27. 10. 5 ～ 10. 6	秋田市、男鹿市、大湯村	畑作園芸研究領域長
稲栽培研究会（稲推進部会）	H28. 1. 27	盛岡市	水田作研究領域長
稲品種検討会（稲推進部会）	H28. 1. 27 ～ 1. 28	盛岡市	水田作研究領域長
直播研究会（稲推進部会）	H28. 1. 28	盛岡市	水田作研究領域長
畑作物品種検討会（畑作物推進部会）	H28. 1. 28	盛岡市	畑作園芸研究領域長
畑作物栽培研究会（畑作物推進部会）	H28. 1. 28	盛岡市	畑作園芸研究領域長
土壌肥料研究会（生産環境推進部会）	H28. 1. 28 ～ 1. 29	盛岡市	生産環境研究領域長
病害虫研究会（生産環境推進部会）	H28. 1. 28 ～ 1. 29	盛岡市	生産環境研究領域長
牧草・飼料作物優良品種選定ネットワーク推進会議（畜産飼料作推進部会）	H28. 1. 29	盛岡市	畜産飼料作研究領域長
農業気象研究会（生産環境推進部会）	H28. 1. 29	盛岡市	生産環境研究領域長

会 議 名	期 日	場 所	運 営 責 任 者
流通加工研究会（農業生産基盤推進部会）	H28. 2. 1	盛岡市	生産基盤研究領域長
農業経営研究会（農業生産基盤推進部会）	H28. 2. 1 ～ 2. 2	盛岡市	生産基盤研究領域長
作業技術研究会（農業生産基盤推進部会）	H28. 2. 1 ～ 2. 2	盛岡市	生産基盤研究領域長
野菜研究会（野菜花き推進部会）	H28. 2. 4 ～ 2. 5	盛岡市	畑作園芸研究領域長
花き研究会（野菜花き推進部会）	H28. 2. 4 ～ 2. 5	盛岡市	畑作園芸研究領域長
東北ソバ研究会（畑作物推進部会）	H28. 2. 10	仙台市	畑作園芸研究領域長

3. 共催・後援等

会 議 名	期 日	場 所	運 営 責 任 者
第58回東北農業試験研究発表会（主催：東北農業試験研究協議会）	H27. 7. 28	山形市	東北農業試験研究協議会

4. その他

会 議 名	期 日	場 所	運 営 責 任 者
放射性物質対策に関わる問題の抽出と対策に関するワークショップ ～第一回 畑作に関連した問題と対策～	H27. 4. 27	那須塩原市	農業放射線研究センター長
第一回 大課題 510 参画任期付研究員ワークショップ ～農業における放射性物質対策～	H27. 5. 19 ～ 5. 20	いわき市、浪江町、南相馬市、川俣町	農業放射線研究センター長
農林水産消委託プロジェクト「広域・大規模生産に対応する業務・加工用作物品種の開発（実需者等のニーズに応じた加工適性と広域適性を持つ小麦・大麦品種等の開発）」（バリュープロ）現地検討会	H27. 6. 2 ～ 6. 3	涌谷町、南相馬市	畑作園芸研究領域長
2015 年度福島県野生動物情報交換集会	H27. 6. 11	福島市	農業放射線研究センター
放射性物質対策に関わる問題の抽出と対策に関するワークショップ ～第二回 牧草地に関連した問題と対策～	H27. 6. 25	川俣町、福島市	農業放射線研究センター長
農林水産省委託プロジェクト研究「営農再開のための放射性物質対策技術の開発（営農再開プロ）」「除染後農地の省力的維持管理技術の開発」研究設計推進会議	H27. 7. 8	福島市	農業放射線研究センター長
食料生産地域再生のための先端技術展開事業「土地利用型営農技術の実証研究」平成 27 年度現地検討会	H27. 7. 14 ～ 7. 15	名取市、仙台市	生産基盤研究領域長

会 議 名	期 日	場 所	運 営 責 任 者
平成 27 年度攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業「東北日本海側多雪地域における畜産との地域内連携を特徴とした低コスト大規模水田輪作体系の実証」青森県現地検討会	H27. 7. 17	つがる市	水田作研究領域水田作グループ
農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業「豚排泄物由来肥料を最大限活用した飼料用米の多収栽培技術の開発」キックオフミーティング	H27. 7. 29	盛岡市	水田作研究領域水田作グループ
農林水産業の革新的技術緊急展開事業（うち産学の英知を結集した革新的な技術体系の確立）「雑草種子及び漏生作物種子を防除する自走式蒸気処理防除機の開発と実証」現地検討会	H27. 7. 30 ～ 7. 31	松本市	環境保全型農業研究領域
食料生産地域再生のための先端技術展開事業「中小区画土地利用型営農技術の実証研究」平成 27 年度現地検討会	H27. 7. 30 ～ 7. 31	陸前高田市、 北上市	生産環境研究領域長
放射性物質対策に関わる問題の抽出と対策に関するワークショップ ～第三回 水田作に関連した問題と対策～	H27. 8. 28	つくば市	農業放射線研究センター長
東北農業研究センター牧草育成品種系統セミナー	H27. 8. 28	盛岡市	畜産飼料作研究領域牧草育種グループ
平成 27 年度攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業「東北日本海側多雪地域における畜産との地域内連携を特徴とした低コスト大規模水田輪作体系の実証」秋田県現地検討会	H27. 9. 1 ～ 9. 2	能代市、大仙市	水田作研究領域水田作グループ
農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業「豚排泄物由来肥料を最大限活用した飼料用米の多収栽培技術の開発」平成 27 年度現地検討会	H27. 10. 5	一関市	水田作研究領域水田作グループ
農林水産業の革新的技術緊急展開事業（うち産学の英知を結集した革新的な技術体系の確立）「雑草種子及び漏生作物種子を防除する自走式蒸気処理防除機の開発と実証」現地検討会	H27. 10. 14	高畠町	環境保全型農業研究領域
青果物流通システム高度化事業（全国推進事業）加工・業務用野菜生産振興研修会、食料生産地域再生のための先端技術展開事業「露地園芸技術の実証研究」平成 27 年度現地検討会	H27. 11. 4	岩沼市	畑作園芸研究領域野菜花きグループ
放射性物質対策に関わる問題の抽出と対策に関するワークショップ ～第四回 果樹・茶に関連した問題と対策～	H27. 11. 13	島田市	農業放射線研究センター長
東北農研シンポジウム「鉄鋼スラグは有望な農業資材となり得るか？－農業分野での技術開発の可能性を探る－」	H27. 11. 27	東京都世田谷区	生産環境研究領域長
ジャイアントミスカンサス研修会	H27. 12. 2	盛岡市	畜産飼料作研究領域長
平成 27 年度攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業「東北日本海側多雪地域における畜産との地域内連携を特徴とした低コスト大規模水田輪作体系の実証」成績検討会	H27. 12. 16	盛岡市	水田作研究領域水田作グループ

会 議 名	期 日	場 所	運 営 責 任 者
攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業「東北日本海側多雪地域における畜産との地域内連携を特徴とした低コスト大規模水田輪作体系の実証」平成27年度無コーティング代かき同時湛水直播成績検討会	H27. 12. 17	盛岡市	水田作研究領域水田作グループ
食料生産地域再生のための先端技術展開事業「技術・経営診断技術開発研究」－大区画圃場での高能率作業による稲－麦－大豆2年3作水田輪作体系－平成27年度展示圃場試験成績検討会	H28. 1. 19	松島町	生産基盤研究領域農業機械グループ
平成27年度農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業「豚排泄物由来肥料を最大限活用した飼料用米の多収栽培技術の開発」推進会議	H28. 2. 3	盛岡市	水田作研究領域水田作グループ
農林水産省委託プロジェクト研究「営農再開のための放射性物質対策技術の開発（営農再開プロ）」「除染後農地の省力的維持管理技術の開発」平成27年度成績検討会	H28. 2. 5	郡山市	農業放射線研究センター長
農林水産省委託プロジェクト研究「農地等の放射性物質の除去・低減技術の開発」「カリ施用からの卒業に向けた土壌リスク評価技術の開発」平成27年度成績検討会	H28. 2. 5	郡山市	農業放射線研究センター
農水委託プロ「栄養収量の高い国産飼料の低コスト生産・利用技術の開発」（自給飼料プロ）－CCM等自給濃厚飼料の低コスト生産利用体系の確立 寒冷地におけるトウモロコシ子実主体飼料の生産・利用技術の開発－平成27年度試験成績検討会	H28. 2. 5	盛岡市	生産基盤研究領域農業機械グループ
食料生産地域再生のための先端技術展開事業「中小区画土地利用型営農技術の実証研究」平成27年度推進会議	H28. 2. 10	盛岡市	生産環境研究領域長
攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業平成27年度「東北日本海側多雪地域における畜産との地域内連携を特徴とした低コスト大規模水田輪作体系の実証」現地成果報告会	①H28. 2. 10 ②H28. 2. 23 ③H28. 3. 4	①青森市 ②能代市 ③鶴岡市	水田作研究領域水田作グループ
食料生産地域再生のための先端技術展開事業「露地園芸技術の実証研究」平成27年度推進会議	H28. 2. 15 ～ 2. 16	名取市	畑作園芸研究領域野菜花きグループ
食料生産地域再生のための先端技術展開事業「土地利用型営農技術の実証研究」平成27年度推進会議	H28. 2. 15 ～ 2. 16	盛岡市	生産基盤研究領域長
平成27年度補正予算「革新的技術開発・緊急展開事業」への提案課題「寒冷地北部の日本海側水田地帯における野菜導入と省力的大規模輪作体系の実証」に関するテーブルリサーチ	H28. 2. 16	盛岡市	産学官連携支援センター長
農林水産業の革新的技術緊急展開事業（うち産学の英知を結集した革新的な技術体系の確立）「雑草種子及び漏生作物種子を防除する自走式蒸気処理防除機の実証と実証」推進評価会議	H28. 2. 25	東京都台東区	環境保全型農業研究領域

会 議 名	期 日	場 所	運 営 責 任 者
放射性セシウムによって汚染された農地における中長期的なカリウムによる移行抑制対策の課題化に向けたテーブルリサーチ	H28. 3.25 ～ 3.26	福島市	産学官連携支援センター長

V 表彰・学会賞等

V 表彰・学会賞等

学会賞等

氏名	所属	表彰名	受賞年月日	功績名
本城 正憲	畑作園芸 研究領域	2015年日本育種学会 春季大会(第127回 講演会)優秀発表賞	H27. 6. 11	アレイマーカー技術を利用した栽培 イチゴうどんこ病抵抗性、四季成り 性連鎖マーカーの開発
松波 寿典	生産基盤 研究領域	平成27年度日本作物 学会東北支部研究奨 励賞	H27. 8. 20	水稲品種あきたこまちの疎植栽培に 関する研究
熊谷 悦史	生産環境 研究領域	2016年度日本作物学 会論文賞	H28. 3. 28	Leaf Photosynthesis and Its Genetic Improvement from the Perspective of Energy Flow and CO2 Diffusion
熊谷 悦史	生産環境 研究領域	第20回日本作物学会 研究奨励賞	H28. 3. 28	低窒素環境で栽培したイネ品種の光 合成特性と光阻害に関する研究
藤村 恵人	農業放射線 研究センター	第8回日本作物学会 技術賞	H28. 3. 28	カリ肥料の施用による作物の放射性 セシウム抑制対策

その他の表彰

氏名	所属	表彰名	受賞年月日	功績名
松橋 克也	研究支援センター 業務第1科	創意工夫功労者賞	H27. 4. 13	精密播種機のスタート位置合わせシ ステムの考案
熊谷 常三	〃	〃	〃	〃
佐々木 猛	〃	〃	〃	〃

VI 各種委員会

VI 各種委員会

1. 法令等に基づく委員会

委員会名	委員長	委員の構成等	審議事項	事務局
遺伝子組換え生物等第二種使用実験安全委員会	委員の互選による	所内の関係者から若干名、所外の学識経験者から若干名、安全主任者及び副主任者若干名	実験計画の法令及び要領に対する適合性に関すること	業務推進室
職務発明審査会	所長	企画管理部長、研究領域長、センター長、審議役及び研究調整役	職務発明の認定、特許出願等に関すること	業務推進室
職務作成プログラム審査会	所長	企画管理部長、研究領域長、センター長、審議役及び研究調整役	職務作成プログラムの審査等に関すること	業務推進室
職務育成品種審査会	所長	企画管理部長、研究領域長、センター長、審議役及び研究調整役	職務育成品種、品種登録出願等に関すること	業務推進室
特定調達契約審査委員会	審議役	業務推進室長、管理課長及び所長が指名する者	調達物品等の契約方式、数量、納期、応札期間、仕様、技術審査等に関すること	管理課
契約審査委員会	審議役	管理課長及び会計チーム長	最低価格入札者を落札者とし、しないことの審査に関すること	管理課
競争参加資格審査会		所長、審議役、管理課長、庶務チーム長及び会計チーム長	競争参加資格等の審査に関すること	管理課
指名競争参加者選定・随意契約審査委員会	企画管理部長	審議役、研究調整役、業務推進室長、管理課長及び委員長が指名する者	指名競争参加者の選定、随意契約の審査に関すること	管理課
安全衛生委員会	審議役	産業医、衛生管理者及び安全・衛生に関し経験を有する者並びに管理課長、調査役、業務第1科長、業務第2科長及び労働組合の推薦に基づき所長が指名した6名	安全衛生管理に関する重要事項の調査審議等に関すること	管理課
防火対策委員会	所長	企画管理部長、研究領域長、審議役、管理課長、管理チーム長及び研究支援センター長	防火・防災にかかる規定の制定改廃に関すること	管理課
省エネ推進委員会	所長	企画管理部長、研究領域長、センター長、審議役及び委員長が指名する者	省エネ法に基づく中長期的な計画の作成に関すること	業務推進室、管理課、エネルギー管理及び担当者

委員会名	委員長	委員の構成等	審議事項	事務局
牛海綿状脳症 (BSE) 対策委員会	所長	企画管理部長、審議役、研究支援センター長、業務第 2 科長、研究領域長、農業放射線研究センター長、業務推進室長、情報広報課長及び資産管理主査	BSE 発生時に当所 BSE 防疫マニュアル等に基づき対応を行うこと	業務推進室

2. 諮問委員会

委員会名	委員長	委員の構成等	審議事項	事務局
業績評価委員会	企画管理部長	審議役及び研究領域長	研究職員の業績評価に関すること	研究調整役
昇格候補者選考委員会	企画管理部長	審議役及び委員長が指名する者	研究職員に係る昇格候補者の選考等に関すること	研究調整役管理課
研究職員選考採用等選考委員会	所長	企画管理部長及び委員長が指名する者	採用候補者の書類審査、面接試験等に関すること	研究調整役
施設・機械整備委員会	企画管理部長	審議役、研究領域長及び農業放射線研究センター長	中期計画における施設の整備・改修、研究用機械の整備方針等に関すること	業務推進室管理課
農研機構特別研究員選考委員会	企画管理部長	審議役、研究調整役、業務推進室長、担当研究領域長やセンター長及び研究担当責任者	農研機構特別研究員の雇用に関すること	業務推進室
意見処理委員会	審議役	企画管理部長、業務推進室長、管理課長、研究支援センター長	人事評価実施権者からの意見の申立てに関すること	委員会
圃場委員会	研究支援センター長	業務科各科長及び所長が指名した者	圃場・家畜利用運営等に関すること	業務第 1 科
動物実験委員会	研究領域長の中から所長が指名した者	動物実験等に関して優れた見識を有する者、その他学識を有する者の中から所長が指名した者	動物実験計画の審査等に関すること	業務推進室

3. 運営委員会

委員会名	委員長	委員の構成等	審議事項	事務局
運営費交付金による研究委託課題の委託先選定委員会	研究領域長	審議役、企画管理部長、研究調整役、業務推進室長、管理課長、委員長が指名する者	募集要領及び応募要領に関する事項、研究委託課題の委託先の選定	業務推進室
セミナー委員会	研究領域長から所長が指名	研究領域長及び研究拠点から各1名	セミナーの企画・開催するための組織及び運営に関すること	業務推進室
コンプライアンス推進委員会	所長	企画管理部長、研究領域長及びセンター長	コンプライアンスの推進に関すること	委員会
雇用検討委員会	審議役	業務推進室長、管理課長、研究支援センター長	契約職員等の計画的な雇用管理に関すること	管理課
異常気象対策検討委員会	企画管理部長	生産環境研究領域長及び所長が指名する者	東北地域の農作物の作柄、異常気象襲来時の農作物への影響等に関すること	生産環境研究領域農業気象グループ ^o
冷涼気候利用型複合農業技術開発実験施設運営委員会	生産基盤研究領域長	当該施設の利用に関連する者及び会計チーム主査（資産管理）	施設の利用、運転・保守管理等に関すること	生産基盤研究領域生理機能グループ ^o
機能性評価実験施設運営委員会	企画管理部長	委員長が推薦する者、業務推進室長及び会計チーム長	施設の利用調整、利用料等に関すること	業務推進室
温度勾配実験施設運営委員会	企画管理部長	委員長が推薦する者、業務推進室長及び会計チーム長	施設の利用調整、利用料等に関すること	業務推進室
肉質検査室運営委員会	畜産飼料作研究領域長	研究支援センター長、業務第2科長、会計チーム長及び所長が指名した者	肉質検査室、と畜場の運営に関すること	畜産飼料作研究領域
赤平地区総合温室運営委員会	企画管理部長	委員長が推薦する者、業務推進室長及び会計チーム長	施設利用の諾否・調整及び経費負担等に関すること	業務推進室
編集委員会	企画管理部長	研究領域長、農業放射線研究センター長及び委員長が必要と認める者	研究報告等の企画・編集、編集内規、執筆内規、原稿の校閲・審査等に関すること	情報広報課
図書委員会	企画管理部長	業務推進室、管理課から各1名及び各研究領域長、農業放射線研究センター長が選出した者	共通図書の整備・利用、図書館の管理運営に関すること	情報広報課
広報委員会	企画管理部長	研究領域長、農業放射線研究センター長、研究調整役及び研究支援センター長	広報媒体の作成・運用、広報に関する戦略策定・推進に関すること	情報広報課
一般公開（盛岡）小委員会	研究調整役	業務推進室、管理課、盛岡地区の研究領域、業務各科から各1～2名	一般公開の計画・運営等に関すること	情報広報課
ホームページ小委員会	研究調整役	研究領域長、農業放射線研究センター長、業務推進室長、管理課長、情報広報課長及び研究支援センター長	当所ホームページの作成・運用・管理等に関すること	情報広報課

Ⅶ 平成 27 年半旬別気象表（平成 27 年 1 月～ 12 月）

Ⅶ 平成 27 年半旬別気象表

(平成 27 年 1 月～12 月)

1. 本所 (厨川)

月 半旬	気 温 (°C)						降 水 量 (mm)		日 照 時 間 (h)		積雪深 (cm)	日射量 (MJ)	地 温 (°C)		
	最 高		最 低		平 均		本 年	平 年	本 年	平 年			本 年	平 年	10 cm
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年									
1	1	1.0	1.5	-6.9	-6.5	-2.4	-2.0	0.0	8.9	18.4	13.1	27	7.5	1.8	2.9
	2	1.1	1.2	-4.6	-7.1	-1.6	-2.4	3.0	9.7	10.1	16.0	31	6.1	1.7	2.7
	3	3.1	0.8	-4.2	-7.5	0.1	-2.8	0.0	4.7	19.2	15.8	26	7.5	1.5	2.5
	4	1.4	0.9	-6.4	-8.2	-1.8	-3.1	11.5	4.8	16.6	19.5	39	7.6	1.5	2.4
	5	2.5	0.6	-7.7	-8.1	-2.1	-3.1	3.5	6.5	23.0	16.2	36	8.2	1.4	2.3
	6	1.4	0.7	-6.5	-8.5	-1.7	-3.3	12.5	8.5	13.9	21.7	44	6.3	0.9	1.9
	月平均	1.7	1.0	-6.1	-7.7	-1.6	-2.8	30.5	48.1	101.2	101.1	44	7.2	1.5	2.4
2	1	1.2	0.4	-7.5	-8.9	-2.5	-3.6	1.5	7.9	14.0	21.7	37	9.2	0.9	1.7
	2	1.6	1.7	-6.1	-7.8	-2.4	-2.5	7.0	10.3	14.6	20.3	40	7.7	1.1	1.8
	3	1.9	1.6	-4.8	-7.5	-1.0	-2.4	14.0	11.0	13.4	21.9	48	9.7	1.2	1.9
	4	4.1	1.8	-1.3	-7.2	1.3	-2.2	0.0	8.5	31.7	20.4	43	13.0	1.1	1.8
	5	5.9	2.7	-1.3	-6.5	2.3	-1.3	11.0	7.5	32.8	24.2	31	14.0	1.0	1.5
	6	3.4	3.0	-4.4	-6.1	-0.1	-1.1	20.5	6.6	6.7	16.1	26	8.8	0.5	1.2
	月平均	3.0	1.8	-4.2	-7.4	-0.4	-2.2	54.0	51.8	113.2	124.7	48	10.5	1.0	1.7
3	1	3.8	3.7	-2.7	-5.1	0.7	-0.4	59.0	14.0	16.4	25.2	47	10.2	0.4	1.0
	2	7.3	3.5	-1.8	-5.4	3.0	-0.6	43.5	14.7	19.7	21.6	31	11.4	0.8	1.1
	3	2.9	5.4	-4.2	-3.5	-0.9	1.0	18.0	12.9	20.8	24.6	50	13.7	0.8	1.2
	4	12.0	6.8	0.9	-2.5	6.5	2.1	9.0	12.3	32.4	25.4	22	15.0	3.9	2.9
	5	8.5	7.5	-1.9	-2.0	2.8	2.8	8.0	11.7	25.8	29.7	17	14.2	4.5	4.5
	6	14.2	8.2	2.1	-1.7	8.2	3.4	0.0	13.4	54.1	28.2	0	20.6	6.3	5.3
	月平均	8.3	5.9	-1.2	-3.3	3.6	1.4	137.5	79.0	169.3	86.1	50	14.4	2.9	2.7
4	1	13.0	10.4	1.7	-0.3	7.1	5.1	39.5	9.6	19.8	29.3	0	10.6	7.7	7.1
	2	10.0	12.5	0.7	1.2	5.6	7.0	4.5	10.1	24.2	27.5	0	15.4	7.5	7.3
	3	14.1	12.8	4.3	1.9	9.3	7.4	26.5	16.2	17.7	23.4	0	14.5	9.8	8.5
	4	13.9	14.1	3.3	2.5	8.6	8.5	36.0	14.5	18.2	31.2	0	10.7	9.4	9.2
	5	19.2	15.0	3.6	4.1	11.7	9.6	0.5	20.0	48.2	25.8	0	22.9	11.2	10.1
	6	25.7	16.7	4.9	4.1	16.2	10.6	0.0	15.2	59.6	33.3	0	24.8	12.8	11.3
	月平均	16.0	13.6	3.1	2.3	9.8	8.1	107.0	85.7	187.7	170.4	0	16.5	9.7	8.9
5	1	24.6	17.6	8.7	5.8	16.9	11.9	5.0	17.8	43.0	32.8	0	23.0	15.6	13.8
	2	20.9	18.3	4.6	6.3	13.3	12.5	0.5	15.4	38.8	27.7	0	22.1	14.7	13.9
	3	19.8	17.7	7.9	7.2	14.5	12.6	33.5	19.0	29.4	24.2	0	19.0	14.5	13.6
	4	20.7	19.0	7.4	8.0	14.8	13.7	24.0	15.8	35.6	27.1	0	19.7	15.4	14.4
	5	23.7	19.7	9.1	8.7	17.0	14.2	2.5	19.3	54.4	31.4	0	24.9	16.2	15.0
	6	25.1	20.6	13.0	9.7	18.7	15.2	21.5	14.1	34.9	32.3	0	19.8	19.0	17.1
	月平均	22.6	18.9	8.6	7.7	15.9	13.4	87.0	101.4	236.2	95.9	0	21.3	16.0	14.7
6	1	23.0	21.8	10.6	11.0	17.0	16.4	1.0	10.8	29.2	34.8	0	19.6	18.0	17.3
	2	22.2	22.3	10.5	12.1	16.9	17.1	13.0	12.5	39.2	25.5	0	22.2	17.1	17.1
	3	25.8	22.7	13.3	12.8	19.7	17.6	13.5	16.4	31.3	24.2	0	20.9	20.3	18.6
	4	24.9	23.2	14.6	14.0	19.2	18.4	53.5	20.0	22.5	25.2	0	17.8	21.2	19.9
	5	27.4	23.0	16.6	14.2	21.2	18.5	0.5	15.8	40.0	23.8	0	22.9	23.2	21.3
	6	20.7	23.4	13.5	15.2	17.1	19.0	42.0	32.6	9.6	22.2	0	12.1	20.4	20.2
	月平均	24.0	22.7	13.2	13.2	18.5	17.8	123.5	108.1	171.8	68.1	0	19.3	20.2	19.0

7	1	24.9	23.9	15.8	15.8	20.0	19.6	4.0	33.9	25.1	17.0	0	17.2	21.1	19.9
	2	27.0	24.5	14.9	16.5	20.8	20.3	0.0	35.0	41.1	20.6	0	23.6	22.6	21.2
	3	31.3	24.6	16.5	17.0	24.5	20.6	0.0	35.7	47.5	16.2	0	23.1	24.2	22.4
	4	26.6	25.2	20.2	17.9	22.9	21.3	8.0	37.1	4.7	16.2	0	9.7	23.7	22.4
	5	29.6	26.8	21.9	18.8	25.3	22.4	95.0	22.1	15.4	20.5	0	13.2	25.4	23.9
	6	31.2	27.8	21.1	19.4	26.2	23.2	1.5	32.6	39.4	29.5	0	19.8	26.7	24.8
	月平均	28.5	25.6	18.5	17.6	23.4	21.3	108.5	196.4	173.2	79.4	0	17.8	24.1	22.5
8	1	32.3	28.1	20.9	19.8	26.7	23.5	0.0	26.5	41.6	23.8	0	21.7	27.4	25.8
	2	32.1	28.4	20.3	19.8	25.4	23.8	0.5	24.7	34.3	25.9	0	20.6	26.6	25.4
	3	28.2	27.9	20.3	19.7	23.1	23.4	59.5	31.7	13.4	21.5	0	14.5	25.8	24.8
	4	27.7	27.4	18.3	19.1	22.8	22.9	22.0	23.4	26.4	20.0	0	17.0	25.2	24.5
	5	24.1	27.0	17.9	18.3	20.3	22.3	44.5	31.8	10.5	25.3	0	13.1	23.4	23.3
	6	21.3	26.2	16.3	18.2	18.6	21.7	19.0	43.9	3.0	21.6	0	8.2	21.9	22.0
	月平均	27.4	27.4	18.9	19.1	22.7	22.9	145.5	181.9	129.2	68.6	0	15.6	24.9	24.2
9	1	26.0	25.9	16.7	17.1	20.8	21.2	34.0	18.7	19.5	22.4	0	14.1	22.6	22.2
	2	22.3	24.3	16.6	16.0	18.9	19.9	4.5	33.8	2.3	20.2	0	8.5	20.7	21.0
	3	23.1	23.0	14.0	14.5	18.1	18.6	20.0	32.4	20.2	18.6	0	13.3	21.3	21.0
	4	23.1	22.5	12.7	13.9	17.6	18.0	42.5	31.3	24.2	16.9	0	13.4	20.5	20.4
	5	23.2	21.2	11.0	11.8	16.7	16.4	0.0	23.0	36.2	18.0	0	15.5	20.2	20.2
	6	20.8	20.1	9.8	10.0	15.6	14.9	3.5	16.8	29.9	20.7	0	14.1	19.1	19.5
	月平均	23.1	22.8	13.5	13.9	17.9	18.2	104.5	155.9	132.2	115.7	0	13.2	20.7	20.7
10	1	19.5	19.7	8.2	9.3	13.7	14.5	91.5	18.2	27.5	22.5	0	13.6	16.4	17.2
	2	18.3	18.1	8.2	8.1	13.1	13.0	1.0	19.3	26.4	20.1	0	12.1	14.9	15.7
	3	15.0	18.0	5.7	7.4	10.6	12.7	10.5	16.3	12.8	25.2	0	7.3	13.8	14.9
	4	19.8	16.4	5.1	5.6	11.6	11.0	0.0	9.8	42.1	26.1	0	13.8	13.8	14.2
	5	14.9	15.1	1.9	4.4	8.4	9.7	14.5	12.6	31.7	23.4	0	11.5	12.4	13.6
	6	13.1	14.2	1.6	3.5	7.9	8.9	6.5	16.3	26.3	23.4	0	9.0	10.6	11.8
	月平均	16.7	16.8	5.0	6.3	10.8	11.5	124.0	92.5	166.7	140.5	0	11.1	13.6	14.5
11	1	14.3	12.9	0.8	2.5	7.4	7.8	6.5	19.0	31.0	20.2	0	10.3	9.6	10.7
	2	14.1	12.3	5.8	2.0	10.1	7.4	36.5	13.2	13.7	22.1	0	6.1	11.0	11.3
	3	12.8	10.5	2.3	1.3	7.5	6.1	31.5	15.3	24.2	14.8	0	7.9	9.5	10.5
	4	12.2	8.7	4.0	-0.5	8.3	4.2	1.5	13.5	18.6	14.5	0	6.8	10.3	10.9
	5	7.5	8.3	0.7	-1.1	3.8	3.6	18.0	13.2	11.4	19.9	0	4.8	7.0	8.6
	6	6.5	6.9	0.0	-1.1	3.4	2.8	32.0	16.7	15.9	16.1	0	5.5	5.3	6.8
	月平均	11.2	9.9	2.3	0.5	6.7	5.3	126.0	90.4	114.8	102.2	0	6.9	8.8	9.8
12	1	6.2	6.2	-1.4	-1.7	2.8	2.3	12.0	13.4	17.1	17.5	11	6.2	4.5	5.8
	2	5.7	5.1	-5.0	-2.3	0.4	1.5	0.5	10.9	34.0	13.2	4	8.9	2.7	4.4
	3	8.1	3.8	-0.7	-3.5	3.9	0.3	54.0	12.8	24.8	15.9	0	5.1	3.8	4.3
	4	5.5	2.9	0.3	-4.8	2.8	-0.6	2.5	7.0	26.8	15.1	0	6.9	4.0	4.9
	5	7.2	3.2	-1.5	-4.5	2.5	-0.3	7.0	10.5	19.3	15.8	0	6.7	3.3	4.2
	6	1.3	2.4	-8.1	-5.1	-2.8	-1.0	12.5	12.7	38.6	17.2	22	8.9	2.0	3.4
	月平均	5.5	3.9	-2.9	-3.7	1.5	0.3	88.5	67.3	160.6	93.2	22	7.2	3.4	4.5
	年平均	15.7		5.7		10.7		1236.5		1856.1		50	13.4	12.2	12.1

注 1) ①から③については、大仙研究拠点、福島研究拠点ともに共通。
 ①各月の半旬期間は、1:1～5日、2:6～10日、3:11～15日、4:16～20日、5:21～25日、6:26日～終まで、を各々さす。
 ②1～6の各「半旬」の欄において、気温・地温は日平均値を、降水量・日照時間・日射量は半旬期間の合計値を、積雪深は半旬期間の最大値を、各々示す。
 ③「月平均」及び「年平均」の欄において、気温・地温は日平均値を、降水量・日照時間・日射量は1～6の各半旬の合計値（年平均欄では、月平均の合計値）を、積雪深は1～6の各半旬の最大値（年平均欄は月平均の最大値）を、各々示す。
 2) 平年値については、気温・降水量は1981～2010年の30年間を、日照時間は1997年～2010年の14年間を各々統計期間とした。
 3) 2009年1月より気象観測システムが更新され、測器の種類並びにデータの測定法の一部に変更が生じた。
 4) 日照時間は回転式日照計（新型）による。

2. 大仙研究拠点 (四ツ屋)

月 半旬	気 温 (°C)						降 水 量 (mm)		日 照 時 間 (h)	
	最 高		最 低		平 均		本 年	平 年	本 年	平 年
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年				
1 月 平均	0.4	1.9	-4.7	-4.3	-1.8	-1.1	1.8	25.1	11.0	6.5
	0.7	1.5	-3.0	-4.8	-1.5	-1.5	1.5	23.7	19.0	6.5
	3.4	1.2	-3.3	-5.5	0.5	-1.9	8.3	21.9	5.5	6.9
	1.8	1.0	-4.8	-5.9	-1.2	-2.2	3.0	21.4	17.5	7.2
	2.5	0.9	-4.9	-6.0	-1.1	-2.3	17.5	21.9	2.0	7.5
	1.4	0.8	-4.5	-6.1	-1.6	-2.3	2.0	26.4	22.0	9.9
月平均	1.7	1.2	-4.2	-5.5	-1.1	-1.9	34.1	138.9	77.0	43.7
2 月 平均	2.4	1.1	-4.9	-6.0	-0.8	-2.2	17.0	20.9	5.5	9.2
	2.1	1.5	-4.9	-5.5	-1.5	-1.8	9.1	19.7	16.5	9.9
	2.4	2.0	-2.3	-5.1	0.1	-1.5	10.0	18.5	21.0	10.7
	6.0	2.4	-1.4	-4.9	2.2	-1.2	18.8	17.0	0.0	12.5
	6.4	3.0	-1.9	-4.6	2.0	-0.7	27.0	16.1	6.0	14.9
	4.8	3.5	-3.8	-4.3	1.0	-0.3	11.0	9.6	14.5	9.6
月平均	4.0	2.1	-3.2	-5.1	0.4	-1.4	92.9	102.5	63.5	68.0
3 月 平均	5.2	3.9	-1.4	-4.1	7.1	0.0	50.5	16.2	2.1	16.0
	8.5	4.5	-1.1	-3.7	23.1	0.4	34.5	16.5	3.8	16.2
	3.8	5.4	-1.3	-3.1	11.3	1.2	4.0	16.5	1.1	17.7
	12.1	6.6	0.9	-2.2	26.2	2.1	8.0	15.6	6.0	19.8
	8.4	7.7	-0.6	-1.5	22.3	2.9	9.0	14.3	3.7	21.3
	14.2	9.1	1.6	-0.7	38.6	4.0	6.5	17.0	7.6	26.8
月平均	8.9	6.2	-0.3	-2.5	4.2	1.8	128.6	98.3	112.5	116.0
4 月 平均	14.3	11.1	4.3	0.6	8.9	5.6	18.1	14.1	47.0	23.8
	11.8	12.9	1.3	1.8	6.4	7.2	33.6	15.1	3.5	24.9
	14.9	14.2	5.9	2.9	10.4	8.3	17.1	17.3	34.0	25.4
	14.2	15.2	5.6	3.8	9.7	9.3	10.8	18.7	26.5	26.1
	19.2	16.4	4.1	4.7	10.9	10.4	41.8	18.9	3.5	26.9
	26.2	17.7	6.0	5.5	15.9	11.4	60.1	18.5	0.0	28.5
月平均	16.8	14.6	4.5	3.2	10.4	8.7	181.5	102.6	114.5	155.7
5 月 平均	25.9	18.7	9.1	6.5	16.8	12.5	46.6	19.2	8.5	29.5
	20.4	19.2	6.0	7.6	13.2	13.2	33.3	20.3	1.0	28.5
	20.8	19.5	10.1	8.6	15.4	13.8	21.5	20.2	30.0	27.7
	21.7	20.1	10.9	9.7	15.7	14.6	26.4	19.2	14.5	28.4
	24.7	20.9	10.6	10.7	17.3	15.5	49.8	17.5	0.5	30.2
	25.7	22.0	14.1	11.7	19.5	16.4	46.9	17.7	7.0	38.6
月平均	23.3	20.2	10.3	9.2	16.4	14.4	224.5	113.4	61.5	183.8
6 月 平均	23.8	23.1	12.6	12.8	17.5	17.5	26.4	13.2	8.0	32.2
	23.3	23.8	13.4	13.8	18.1	18.4	37.0	14.4	12.0	31.1
	25.7	24.3	16.5	14.7	20.8	19.0	26.7	18.0	21.0	29.4
	27.3	24.6	17.3	15.4	21.9	19.6	46.1	23.4	0.0	27.0
	27.9	24.9	16.2	16.2	21.2	20.1	51.3	27.2	0.0	24.7
	23.3	25.3	15.7	16.7	19.3	20.5	6.3	29.2	37.0	23.7
月平均	25.2	24.3	15.3	15.0	19.8	19.2	193.8	124.5	78.0	165.4

7	1	25.2	25.6	17.5	17.3	20.8	21.0	30.6	32.3	5.5	22.7
	2	26.5	26.0	15.2	18.0	20.7	21.5	50.0	36.7	0.0	21.6
	3	30.7	26.5	18.1	18.6	24.2	22.1	39.0	38.0	0.5	21.9
	4	28.6	27.3	21.4	19.2	24.3	22.8	3.6	32.9	15.0	24.8
	5	28.5	28.4	22.8	19.7	25.3	23.6	17.0	26.3	133.5	28.0
	6	31.0	29.3	22.7	20.3	26.1	24.3	41.2	29.1	20.5	35.9
	月平均	28.5	27.3	19.7	18.9	23.6	22.6	181.4	192.5	175.0	155.8
8	1	31.5	29.7	22.7	20.6	26.5	24.6	39.1	26.1	0.0	30.8
	2	32.7	29.9	22.0	20.6	26.6	24.7	42.8	26.1	0.0	31.5
	3	29.3	29.8	21.4	20.4	24.6	24.6	16.2	26.9	37.0	31.1
	4	28.2	29.6	19.7	20.0	23.4	24.2	28.7	30.3	19.5	30.5
	5	27.1	29.0	18.5	19.4	22.3	23.6	20.4	34.5	40.5	29.3
	6	24.8	28.3	18.2	18.8	20.9	23.0	10.3	44.6	19.5	33.0
	月平均	28.8	29.4	20.3	20.0	24.0	24.1	157.5	192.9	116.5	184.5
9	1	26.4	27.3	18.3	18.0	21.4	22.1	17.7	36.0	40.5	25.9
	2	24.7	26.3	18.2	17.0	21.1	21.1	1.2	33.5	31.0	23.6
	3	23.1	25.3	14.9	15.7	18.7	20.0	21.6	30.7	67.0	22.1
	4	24.9	24.4	13.9	14.4	19.0	18.9	32.7	27.4	23.0	22.0
	5	24.8	23.3	13.7	13.1	18.6	17.7	30.0	28.7	0.5	22.0
	6	21.9	22.2	12.4	11.7	16.3	16.5	26.8	22.0	16.5	22.0
	月平均	24.3	24.8	15.2	15.0	19.2	19.4	130.0	169.7	178.5	138.4
10	1	20.6	21.2	9.1	10.6	14.5	15.4	24.5	22.4	107.5	21.5
	2	20.1	20.2	7.7	9.5	13.2	14.4	32.2	23.0	22.5	21.6
	3	16.0	19.3	8.1	8.4	11.8	13.4	10.4	23.0	35.0	22.0
	4	19.1	18.1	4.7	7.0	11.4	12.1	41.1	23.0	3.0	22.0
	5	15.6	16.7	3.7	5.9	9.3	10.8	29.7	24.5	14.0	20.8
	6	13.9	15.4	4.4	5.0	9.1	9.8	17.4	32.5	26.5	22.1
	月平均	17.4	18.4	6.2	7.6	11.5	12.6	155.3	147.4	208.5	131.1
11	1	14.0	14.4	3.5	4.2	8.2	9.0	17.3	28.2	5.0	16.9
	2	14.6)	13.2	7.7)	3.4	11.1)	8.0	10.5]	29.4	48.5	15.9
	3	14.1	11.6	4.7	2.4	9.2	6.7	17.6	30.9	25.0	14.2
	4	13.4	10.2	6.7	1.3	9.8	5.4	10.8	30.6	9.5	12.7
	5	9.0	9.0	1.9	0.6	5.7	4.5	9.3	29.9	11.0	11.9
	6	8.0	7.9	2.1	0.0	5.1	3.7	3.3	30.3	45.0	11.1
	月平均	12.2	11.0	4.4	2.0	8.2	6.2	68.8	183.6	144.0	81.2
12	1	7.2	6.7	0.9	-0.5	4.0	2.8	7.7	30.4	48.0	9.3
	2	6.5	5.5	-1.7	-1.2	1.9	2.0	19.1	29.3	0.5	7.4
	3	9.2	4.2	0.6	-2.1	4.5	1.0	16.1	27.3	44.0	6.7
	4	4.9	3.4	0.5	-2.9	2.9	0.3	2.7	26.0	32.5	7.0
	5	7.6	3.1	-0.3	-3.3	3.5	-0.1	10.6	26.2	19.0	7.0
	6	0.8	2.6	-4.8	-3.8	-1.9	-0.6	7.5	31.5	43.0	8.0
	月平均	5.8	4.2	-0.9	-2.3	2.3	0.9	63.7	170.3	187.0	45.3
	年平均	16.5	15.3	7.3	6.3	11.6	10.6	1612.1	1735.7	1516.5	1468.1

注. 1) 半旬期間等の内容については、本所(厨川)の注記1)を参照。
 2) 平年値については、気温・降水量は1981～2010の30年間を、日照時間は1987～2010の24年間を各々統計期間とした。
 3))と]は統計値を求める対象となる資料が、それぞれ許容範囲内と許容範囲を超えて一部欠けていることを示す。
 4) 日照時間は2006年11月13日までは太陽電池式日照計、それ以降は回転式日照計による。

3. 福島研究拠点

月 半旬	気 温 (°C)						積算雨量 (mm)		積算日照時間 (hour)		日 射 量 (MJ/m ²)		最大積雪深 (cm)		
	最 高		最 低		平 均		本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年	
1	1	2.2	5.5	-4.7	-3.2	-1.1	1.0	2.0	8.7	20.2	18.9	6.96	6.50	4.3	8.2
	2	4.4	5.0	-2.3	-3.3	0.6	0.5	0.5	11.6	24.6	16.0	7.60	6.23	7.9	13.2
	3	5.3	4.6	-2.7	-3.6	0.9	0.0	15.5	10.8	24.6	16.9	8.00	6.87	2.8	9.7
	4	3.0	4.6	-4.2	-4.0	-0.5	-0.2	6.0	14.4	19.3	19.6	7.57	6.62	8.1	7.1
	5	4.3	3.6	-2.5	-4.3	0.6	-0.5	5.0	9.2	21.1	18.8	7.84	7.09	1.6	9.7
	6	3.9	4.2	-3.2	-4.2	0.3	-0.3	21.0	10.7	17.8	27.7	6.64	8.62	18.4	10.5
月平均	3.8	4.5	-3.3	-3.9	0.2	0.0	50.0	63.9	127.6	122.3	7.41	7.02	18.4	19.3	
2	1	2.4	4.1	-3.6	-3.8	-0.8	-0.1	0.0	7.0	25.5	21.7	10.10	8.05	8.0	12.9
	2	3.2	6.0	-4.4	-3.6	-0.9	1.0	0.0	13.1	23.3	21.1	8.53	8.27	3.2	7.3
	3	4.8	5.5	-2.5	-3.6	0.9	0.9	1.5	6.7	24.0	23.8	10.03	8.76	2.6	4.8
	4	4.1	5.9	-2.0	-2.7	0.7	1.2	24.0	13.3	20.3	22.7	8.72	9.56	5.4	5.3
	5	8.2	6.3	-0.8	-2.6	3.7	1.6	0.5	11.7	25.5	22.5	10.46	10.02	0.6	7.1
	6	5.5	7.4	-2.2	-2.5	1.6	2.5	6.5	6.4	12.7	14.0	9.06	11.54	1.2	2.4
月平均	4.6	5.8	-2.6	-3.1	0.8	1.2	32.5	57.4	131.3	129.1	9.51	9.10	8.0	15.9	
3	1	6.7	7.4	0.3	-2.3	2.2	2.6	49.5	12.4	23.3	22.3	10.13	10.74	1.2	3.2
	2	6.6	7.4	0.3	-2.6	3.7	2.4	35.5	17.0	11.8	24.6	7.14	12.11	0.5	5.4
	3	6.3	9.3	-2.7	-1.6	1.1	3.6	3.0	11.6	31.0	24.1	13.78	12.56	5.6	1.4
	4	15.0	10.2	2.3	-1.0	8.2	4.5	10.5	11.1	31.7	27.9	14.30	13.61	0.0	0.9
	5	9.5	10.6	-0.7	-0.4	4.3	4.8	0.0	18.7	41.7	23.9	17.26	13.05	2.6	1.1
	6	17.1	11.4	0.6	0.7	8.7	5.9	0.0	22.3	60.4	31.3	21.45	12.53	0.0	3.5
月平均	10.4	9.3	-0.4	-1.2	4.8	4.0	98.5	93.1	199.9	159.3	14.25	12.44	5.6	9.0	
4	1	14.3	13.3	3.7	1.1	8.9	7.3	16.5	12.1	25.4	32.8	12.29	17.22	0.0	0.5
	2	9.2	14.7	1.6	2.9	5.5	8.9	9.5	13.8	21.5	31.1	11.18	14.37	0.0	0.0
	3	14.0	15.6	4.4	3.9	9.1	9.5	72.0	14.0	24.7	27.3	12.03	14.38	0.0	0.0
	4	18.3	17.4	4.3	4.3	11.1	10.5	10.5	19.4	31.7	27.0	15.82	14.86	0.0	0.0
	5	19.9	17.7	5.3	5.9	13.3	11.8	0.5	26.8	44.1	31.6	22.38	16.24	0.0	0.0
	6	24.3	19.5	4.4	6.2	14.1	12.9	0.0	19.3	56.2	29.6	25.60	17.54	0.0	0.0
月平均	16.7	16.4	3.9	4.1	10.3	10.2	109.0	102.5	203.6	188.4	16.55	15.75	0.0	0.5	
5	1	25.1	19.6	9.5	6.9	17.2	13.1	0.0	18.9	47.4	27.5	23.28	17.06	0.0	0.0
	2	21.0	20.7	8.0	7.8	14.5	14.2	1.5	16.2	41.9	30.4	19.33	16.86	0.0	0.0
	3	23.7	20.5	10.9	8.9	17.7	14.6	9.5	23.0	48.4	28.5	23.39	15.34	0.0	0.0
	4	22.7	20.3	10.1	9.6	16.3	14.7	30.5	11.8	33.8	28.8	18.11	15.68	0.0	0.0
	5	25.6	22.1	10.3	10.0	18.0	15.7	0.0	11.9	51.3	39.3	25.21	17.45	0.0	0.0
	6	26.5	23.5	13.4	11.0	19.7	16.9	0.0	20.5	56.3	36.6	24.53	17.78	0.0	0.0
月平均	24.2	21.1	10.5	9.0	17.3	15.1	41.5	103.6	279.0	199.7	22.38	16.74	0.0	0.0	
6	1	24.2	25.0	11.8	12.1	18.2	18.8	0.0	11.9	38.9	36.9	17.89	19.89	0.0	0.0
	2	22.9	22.8	11.1	13.0	17.0	17.8	32.0	11.3	38.7	23.8	18.79	15.08	0.0	0.0
	3	26.9	24.0	15.7	14.2	20.9	19.2	0.0	22.6	37.7	26.6	18.73	15.67	0.0	0.0
	4	22.0	23.6	15.1	15.1	18.1	19.4	22.5	23.5	16.0	20.2	9.69	12.95	0.0	0.0
	5	25.5	23.1	16.0	15.5	20.0	19.3	32.0	35.0	33.3	16.5	16.92	12.46	0.0	0.0
	6	22.0	24.4	15.6	16.2	18.5	20.3	57.0	37.3	18.4	27.6	11.30	13.19	0.0	0.0
月平均	23.9	23.9	14.2	14.5	18.8	19.2	143.5	146.8	183.0	175.2	15.55	14.58	0.0	0.0	

7	1	23.7	26.0	17.3	17.1	20.0	21.0	23.5	23.8	19.8	19.8	11.02	13.87	0.0	0.0
	2	25.6	26.0	16.2	17.5	20.2	21.2	17.5	33.3	34.0	21.0	16.04	12.44	0.0	0.0
	3	32.3	25.9	17.5	18.0	24.6	21.5	3.0	49.4	51.3	14.1	25.07	11.57	0.0	0.0
	4	27.8	27.4	21.2	18.8	21.1	22.5	24.5	22.6	22.8	18.1	10.63	12.96	0.0	0.0
	5	30.1	29.0	21.7	19.5	25.1	23.7	22.6	19.0	26.8	22.5	15.82	14.57	0.0	0.0
	6	32.0	30.3	10.5	20.3	25.4	24.5	24.5	1.5	16.8	55.5	20.43	16.06	0.0	0.0
	月平均	28.7	27.4	17.2	18.5	23.3	22.4	121.0	168.7	210.1	135.5	16.63	13.53	0.0	0.0
8	1	34.8	29.9	21.9	20.5	27.9	24.6	0.0	16.9	52.6	23.5	24.17	14.41	0.0	0.0
	2	31.5	29.4	21.3	20.0	25.4	24.1	12.5	45.3	34.3	25.0	17.52	12.96	0.0	0.0
	3	26.8	28.9	20.2	19.9	22.8	23.8	23.5	28.3	22.2	22.8	11.95	12.67	0.0	0.0
	4	26.8	28.3	19.5	19.4	22.6	23.0	44.0	32.9	24.0	27.5	13.03	12.90	0.0	0.0
	5	22.4	29.2	18.5	19.6	20.1	23.8	21.4	21.4	3.3	23.6	4.89	14.00	0.0	0.0
	6	19.0	27.8	16.6	18.8	17.7	22.6	22.6	89.5	53.2	0.5	3.93	11.16	0.0	0.0
	月平均	26.6	28.9	19.6	19.7	22.6	23.6	207.0	198.0	136.8	164.4	12.30	12.37	0.0	0.0
9	1	26.4	28.1	17.5	18.6	21.4	22.9	16.5	20.3	23.0	25.7	11.42	12.40	0.0	0.0
	2	20.3	26.0	17.3	17.8	18.6	21.3	249.0	24.2	2.1	21.4	3.15	9.44	0.0	0.0
	3	24.3	25.2	14.6	17.1	19.3	20.7	5.5	33.9	29.2	22.0	12.90	10.08	0.0	0.0
	4	23.3	25.5	15.0	15.6	18.6	19.9	80.0	34.1	27.8	25.0	12.34	10.24	0.0	0.0
	5	22.5	22.6	12.1	14.0	16.7	18.0	21.5	35.8	31.1	18.3	13.51	8.65	0.0	0.0
	6	22.6	21.7	12.5	12.8	17.2	17.2	9.5	30.7	33.7	22.2	14.42	9.82	0.0	0.0
	月平均	23.2	24.9	14.8	16.1	18.6	20.0	382.0	182.5	146.9	140.1	11.29	10.10	0.0	0.0
10	1	20.8	21.3	8.4	12.1	15.0	16.2	13.0	32.5	34.6	15.3	13.25	8.52	0.0	0.0
	2	19.7	19.2	10.0	10.1	14.6	14.3	0.0	36.4	37.5	15.5	15.00	8.65	0.0	0.0
	3	18.9	19.3	8.8	10.2	13.6	14.8	3.0	32.1	31.3	15.8	12.20	8.55	0.0	0.0
	4	21.0	18.9	9.3	8.2	14.6	13.2	0.0	28.4	36.6	19.0	13.87	8.90	0.0	0.0
	5	17.5	17.2	7.7	7.0	12.1	12.0	1.5	18.2	31.0	20.3	11.66	8.43	0.0	0.0
	6	17.4	16.7	6.7	5.9	11.8	11.1	0.0	19.3	39.5	26.8	12.85	8.64	0.0	0.0
	月平均	19.2	18.7	8.4	8.8	13.6	13.6	17.5	164.5	210.5	115.1	13.13	8.53	0.0	0.0
11	1	15.4	14.6	3.7	4.5	8.7	9.3	12.5	22.3	31.3	17.9	10.35	9.08	0.0	0.1
	2	17.3	15.5	8.3	4.5	12.2	9.6	17.5	13.5	9.4	19.7	5.03	7.26	0.0	0.0
	3	12.6	13.3	5.1	3.0	8.8	8.0	28.5	6.5	18.9	19.0	7.05	6.53	0.0	0.0
	4	15.0	12.4	8.4	2.0	11.6	6.9	31.0	8.3	14.8	18.8	5.71	6.34	0.0	0.0
	5	10.6	11.8	3.8	0.6	6.9	5.7	23.0	9.9	8.7	23.0	4.07	6.52	0.0	0.0
	6	7.9	10.7	0.3	1.5	3.6	5.7	28.0	13.0	8.5	22.4	4.59	6.15	0.0	0.0
	月平均	13.1	12.9	4.9	2.6	8.6	7.4	140.5	72.7	91.6	122.9	6.13	6.87	0.0	0.1
12	1	9.7	9.7	1.0	-0.1	5.3	4.6	17.5	6.3	19.9	19.7	6.80	6.34	0.0	0.8
	2	8.4	8.6	-2.4	-0.4	2.5	3.8	0.0	6.2	27.3	17.1	8.08	5.00	0.0	0.0
	3	10.1	6.8	2.0	-1.7	5.9	2.2	45.5	10.9	14.7	14.9	5.32	5.88	0.0	1.1
	4	8.1	6.8	1.1	-2.2	4.2	2.0	0.0	5.5	25.7	17.8	7.81	6.14	0.0	8.7
	5	9.2	6.8	0.0	-2.2	4.2	1.8	2.0	4.8	19.6	18.3	6.32	5.92	0.0	4.9
	6	4.7	5.0	-3.2	-3.4	0.2	0.7	12.0	12.0	8.4	23.9	6.42	5.88	0.0	4.9
	月平均	8.2	7.3	-0.3	-1.7	3.6	2.5	77.0	42.2	131.0	108.0	6.78	6.46	0.0	12.5
	年平均	16.9	17.0	7.2	6.9	11.90	11.6	1420.0	1370.5	2051.5	1934.2	12.66	11.12	18.4	23.6

注 ① 半旬および月平均の値は、気温はそれぞれ日最高・最低・平均の平均値、積算雨量および積算日照時間は積算値、日射量は日積算日射量の平均値、最大積雪深は最大値を示しています。
 ② 値は準完全値(統計値を求める対象となる資料の一部が欠けているが、その数が許容できる範囲内)を、値は資料不足値(許容する範囲を超えて資料が欠けている)を示します。資料不足値は十分な信頼性を保障できないため注意が必要です。×はデータ欠損を示します。
 ③ 年値は1989年～2005年度の17年間の平均値(準完全値、資料不足値の別は示してありません)。
 ④ 日照時間の測定は1988年から1993年9月まではバイメタル式ガラス筒全天候型日照計、1993年10月以降は、太陽電池式日照計によるものです。
 ⑤ 積雪深の測定は、2007年11月28日までは目視、11月29日からは積雪深計によるものです。

Ⅷ 東北農業研究センターの所在地等

VIII 東北農業研究センターの所在地等

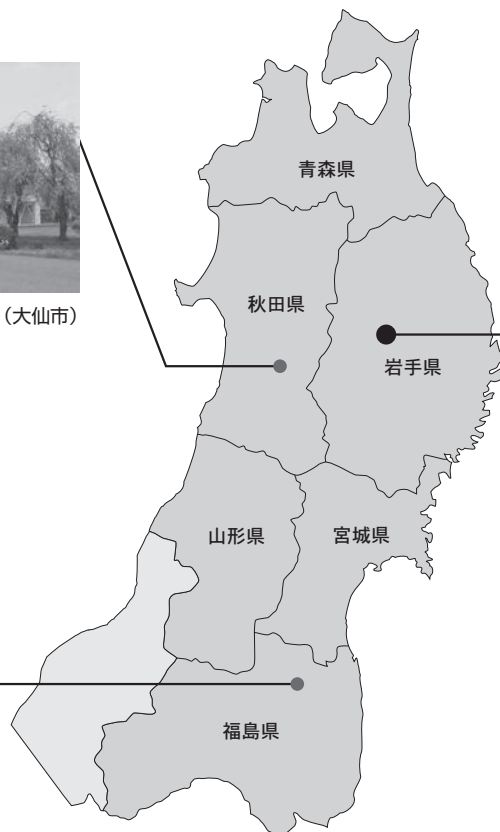
- * 東北農業研究センター（本所）** 〒020-0198 岩手県盛岡市下厨川字赤平4 ☎019-643-3433(代表)
(IGR厨川駅より徒歩8分) (盛岡駅より菓子車庫行バスで約20分、農業研究センター下車)
- 野菜花き担当 〒020-0123 岩手県盛岡市下厨川字鍋屋敷92 ☎019-643-3433(代表)
(盛岡駅より菓子車庫行バスで約25分、果樹研究所前下車、徒歩3分)
- * 大仙研究拠点** 〒014-0102 秋田県大仙市四ツ屋字下古道3 ☎0187-66-1221(代表)
(JR田沢湖線北大曲駅より徒歩3分)
- 大豆育種担当 〒019-2112 秋田県大仙市刈和野字上ノ台297 ☎0187-75-1084
(JR奥羽本線刈和野駅より徒歩5分)
- * 福島研究拠点** 〒960-2156 福島県福島市荒井字原宿南50 ☎024-593-5151(代表)
(福島駅東口より荒井行バス約30分自衛隊前(終点)下車、徒歩3分)



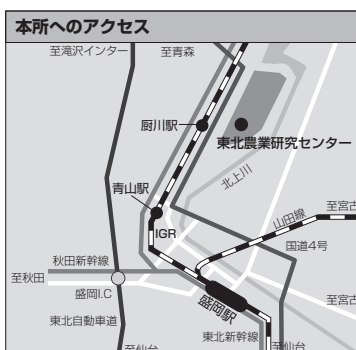
大仙研究拠点（大仙市）



福島研究拠点（福島市）



本所（盛岡市）



◆お問い合わせ先

- * 代表…………… ☎ 019-643-3433 (企画管理部庶務チーム)
- * 共同研究など…………… ☎ 019-643-3402 (産学官連携支援センター)
- * 研究成果・広報など…………… ☎ 019-643-3414, 3417 (企画管理部情報広報課)
- * e-mail…………… www-tohoku@naro.affrc.go.jp
- * ホームページ…………… <http://www.naro.affrc.go.jp/tarc/>

平成27年度 東北農業研究センター年報

平成 28 年 10 月発行

編集・発行 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構

東北農業研究センター

所長 石 黒 潔

〒020-0198 岩手県盛岡市下厨川字赤平 4

電話 019(643)3414、3417

(企画部 産学連携室)
